

昭和十年七月

臺灣總督府官制中改正ノ件説明資料

(1) 説	明	六八
(2) 警務局衛生課各職員事務分掌		七二
(3) 傳染病患者及死亡調		七四
(4) マラリア防遏施行成績		七六
(5) 阿片及麻薬諸統計		七七
(6) 衛生警察上主要取締營業者		七八
(7) 州市街庄衛生費		八〇
(8) 衛生課主管ノ諸經費豫算		八一
(9) 圖書檢閲狀況		八二
(10) 專任衛生課長配置ニ要スル豫算		八四
七、地方制度改正ニ伴ヒ事務官一人及屬四人増員		八五

(1) 説	明	八五
(2) 内務局地方課經常祕職員		九二
(3) 州制市制街庄制改正ノ要點		九三
(4) 臺灣民庶調		九五
(5) 最近十年間人口 ^{及人口} 百分比例調		九六
(6) 本島人就學兒童調		九七
(7) 本島人國語普及狀況調		九八
(8) 戸稅生産額内臺人別調		九九
(9) 租稅公課負擔額調		一〇〇
(10) 市街庄稅五圓以上納稅者數調		一〇二
(11) 各州廳別支屬、郡、市街、庄、區、數調		一〇三

(2) 森林計畫事業概要。。	一三七
(3) 森林施業案實施ニ伴フ職員増置豫定。	一四二
(4) 森林施業案文山事業區實施計劃。	一四四
(5) 文山事業區施業案實施ニ要スル十年度豫算。	一四六
十二、航空氣象觀測ノ爲測候所技師一人及同技手三人増員	
(1) 説 明。	一四七
(2) 測候所職員配置表。	一五一
(3) 航空氣象觀測ニ要スル昭和十年度豫算。	一五二

以上

昭和十年度

臺灣總督府官制中改正案

勅令第 號

臺灣總督府官制中左ノ通改正ス

第十九條第一項中「事務官 專任十九人」ヲ「事務官

專任二十三」ニ、
「屬 專任百八十三人」ヲ「屬

專任百九十五人」ニ、
「技手 專任百十六人」ヲ「

技手 專任百十七人」ニ、
同條第二項中「技師二人及

技手十九人」ヲ「技師三人及技手二十二」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十九條第二項ノ

改正規定ハ昭和十年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
昭和十年九月三十日迄ハ第十九條第一項ノ改正規定ニ
拘ラズ事務官ハ專任二十二人、屬ハ專任百九十人ヲ以
テ定員トス

理由書

總督官房ニ外事課設置ノ爲事務官二人及屬二人、專任
衛生課長ニ充ツル爲事務官一人、地方制度改正實施ニ
伴ヒ之カ指導監督ニ當ラシムル爲事務官一人及屬四人
並ニ同高等警察事務ニ當ラシムル爲屬一人、石油業法
實施ノ爲屬一人、税關ヨリ貿易統計事務移管ノ爲屬四
人、森林施業案實施ノ爲技手一人、航空氣象觀測ノ爲
測候所技師一人及同技手三人、計事務官四人、屬十二人
、技手一人、測候所技師一人及同技手三人、増員ノ必要

参照

臺灣總督府官制抄

第十九條 總督府ニ左ノ職員ヲ置ク

總務長官 勅任

局長 五人 勅任

事務官 專任 十九人 奏任 内一人ヲ勅任トス

理事官 專任 六人 奏任

警視 專任 二人 奏任

視學官 專任 五人 奏任

編修官 專任 二人 奏任

技師 專任 三十六人 奏任 内一人ヲ勅任トス

統計官 專任 一人 奏任

翻譯官 專任 二人 奏任

アルニ由ル

屬 專任百八十三人 判任
 警部 專任 七人 判任
 編修書記 專任 三人 判任
 技手 專任百十六人 判任
 通譯 專任 一人 判任
 各測候所ヲ通シテ技師二人及技手十九人ヲ置ク
 測候所技師ハ奏任、測候所技手ハ判任トス

總督府官制中定員改正要旨

官名	官制		十年度豫算定員	官制定員増減理由
	現在	増×減		
事務官	百一十九	四	百一十五	一人 外事課設置、為増(予算九月月) 一人 專任衛生課長設置、為増(予算九月月) 一人 地方制度指導監督、為増(予算九月月) 一人 地方制度改正に伴フ高等警察事務ニ當ラシムル為増(予算九月月) 一人 石和業法施行ニ伴ヒ増(予算九月月) 一人 税関ヨリ貿易統計事務移管ニ伴ヒ組替増(予算九月月)
屬	一八三	一	一八四	一人 外事課設置、為増(予算九月月) 一人 地方制度指導監督、為増(予算九月月) 一人 地方制度改正に伴フ高等警察事務ニ當ラシムル為増(予算九月月)
技手	一一六	二	一一八	一人 森林施業策實施、為増(予算九月月)
測候所技師	二	一	三	一人 航空氣象觀測、為増(予算九月月)
同 技手	一九	三	二二	()

備考

- 一、屬豫算定員林務費中六人ハ地方官官制中州廳屬定員トス
- 二、技手豫算定員府費中一人ハ臨時職員設置制第一條第十五號計量器取締ニ從事スル技手定員トシ林務費中三人ハ地方官官制中州廳技手定員トス

説明書

第一外事課設置ニ付事務官二人及屬二人増員

一、外事課設置ノ趣旨

(一) 本島ハ帝國ノ最南端ニ位シ、西方ハ一葦帶水ヲ距テテ南支那、英領香港、葡領澳門ニ対シ、南方ハ佛領印度支那、暹羅、英領海峽殖民地、蘭領東印度、英領北ボルネオ、米領比律賓及グアム、欧米列強各植民地ニ対ス、而シテ之等各植民地ハ欧米列強ニトリテ其ノ東洋進出ノ根據地タルガ如ク、台灣ハ帝國ノ極東政策上最モ重要ナル根據地タリ、即チ台灣ハ地理的、要衝ニ位置シ、帝國ノ南方ニ対スル政治的、經濟的、進展ノ策源地ト目スヘク、帝國南方經營ニ対スル重

大使命ヲ帶ブルモノトス。蓋シ帝國ハ建國ノ大精神ニ基ツキ萬邦協和ヲ對外政策ノ基幹トシ東洋ニ於ケル平和ヲ確立シ延テハ人類ノ福祉増進ニ貢獻スルコトヲ以テ使命ト爲ス。而シテ東洋ノ平和ハ日支兩國ノ和平親善ヲクシテハ之ヲ望ミ得ザルヲ以テ帝國ハ近來特ニ之カ爲ニ絶大ナル犧牲ヲ拂ヒツアリ。

翻ツテ本島ト先ツ南支トノ關係ヲ見ルニ地理的ニ一葦帶水ヲ距ツルノミニシテ其ノ氣候風土相酷似シ人文的ニ同文同種ニシテ相互ノ關係頗ル緊密ナルモノアリ。殊ニ南支住民ハ本島人ト祖先ヲ同クシ言語風俗同一ナルノミナラス彼我血族關係ニアルモノ甚カラス。

茲ニ本島統治ノ複雑性アリト雖モ一面ニ於テ曰支親善ヲ策シ得ベキ特殊性ノ存スル所以ナリトス。更ニ南支各地ニ在留セル本島籍民ノ昭和八年末登録數ハ一、五九〇人(實數ハ約二、〇〇〇人見込)ニシテ其ノ數多シトハ云ヒ難キモ前述ノ如ク民族的特別關係ヲ有スルノミナラス帝國臣民タル背景ヲ兼有スルコトニ依リ独自ノ潜在的勢力ヲ有シ廈門ニ於ケル籍民ノ如キハ牢固拔クヘカラサル勢力ヲ有ス。過去十數年支那全土ニ渉ル排日運動ノ辛辣ニシテ根強ク行ハル、ニ拘ラス南支各地ニハ比較的容易ニ日貨ノ輸入セラレソアルカ如キハ南支ニ斯ル特殊性ヲ有スル本島籍民ノ存在スル結果ナリトス。而シテ過去三ヶ年間に於ケル籍民ノ南

支渡航狀況ヲ見ルニ一年平均約八千人ニ達スルヲ以テ將來益々有効適切ナル指導ヲ爲スニ於テハ南支那一帯ニヨリ多数ノ籍民ヲ移住セシムルコト決シテ不可能事ニ非サルヘク本島籍民ノ對岸發展ハ之ニ依リ大ニ日支相互親善ニ貢獻シ得ルモノナルヲ疑ハス又一面最近本島各種産業ノ異常ナル發展ニ伴ヒ之カ販路ヲ南支方面ニ開拓スル必要アルハ多言ヲ要セサル所ニシテ同方面ノ實情ヨリスルモ將來大ニ砂糖、酒精、セメント、生果物等ノ輸出ヲ期待セララル。

更ニ轉シテ南洋方面ヲ見ルニ前段記載ノ列強各植民地ハ経済的及軍事的ニ各自母國ノ前進根據地トシテ母國ノ國策ト切離シテ之カ存在

理由ヲ了解シ得サルヘク之ニ對スル帝國ノ對南方國策モ本島ノ地理的特殊關係ヲ活用スルニ於テハ一層効果的ナルヲ得ヘシ、而シテ之等各國植民地ニハ約六百五十万ノ南洋華僑在住シ拔クヘカラサル経済的實權ヲ掌握ス、茲ニ於テ之等南洋華僑ト同種族タル本島人ノ特殊關係ヲ利用シ統制アリ確乎ナル方針ノ下ニ邦人ノ南洋發展ヲ促シ其ノ企業ヲ助成スルニ於テハ單ニ経済的ニ有利ナルノミナラス島民ノ關心ハ自然南方ニ向ケラレ内台人協力シテ事ニ當ル結果ハ内台融和ニ寄與スル所極メテ大ナルモノアルベシ又對南洋貿易ニ関シテハ南支ニ付テ速ベタルト同様ニシテ今後大ニ茶、鳳梨、罐詰、紙、蔬菜等ノ輸出

ヲ期待セラル。斯クシテ南洋ニ於ケル帝國ノ經濟的地位ヲ益々増進確保スヘキ対策ノ急務ニ附スヘカラサルコトハ茲ニ喋々ヲ要セサル所ナリ。

台灣ノ斯ル特殊使命ニ鑑ミルトキハ常ニ南支南洋ニ眼ヲ注キ之ヲ調査研究ヲ怠ラス適切ナル施設經營ヲ爲スノ必要ヲ痛感セサルヲ得ス。時恰モ滿洲上海事變後列國ノ態度平靜ニ歸シ隣邦支那ニ於テモ親日傾向ヲ示シ来リ。此ノ機会ニ於テ南方ニ對スル眼界ヲ擴メ新ナル政策ヲ以テ凡ニ文化田經濟的施設ヲ講スル。現下ノ緊要缺クヘカラサル事業ナリトス。現ニ南支南洋ニ於ケル知人事業ノ助成、洋校病院ノ經營等ノ施設カ知人ノ經濟的進出、日貨躍進ニ資ラレ

効果大ナルヲ否ムヘカラス又排日氣勢ノ緩和ニ寄與スル所甚カラサリシヲ認メ得ラルルナリ。

(二)以上本島特殊ノ地位及使命ニ鑑ミ本府ノ外事行政ハ本島独自ノ立場ニ於テノミナラス帝國外事機關ノ延長トシテ重要ナル任務ヲ負荷セラルルヲ以テ從來共本府ハ南支南洋ニ於ケル枢要ナル帝國領事館十五箇所ノ帝國領事ヲ夫々兼任事務官又ハ囑託トシテ本府ノ事務ヲ分擔セシメ以テ帝國ノ對外政策ノ大方針ト台灣ノ使命トヲ連結セシメ諸般ノ施設經營ヲ行ヒ来レルカ之等ノ必要ハ將來益々緊切ヲ加フルモノト認メラル。從來ノ施設經營ノ現レトシテ輒近南支南洋ニ於ケル知人ノ經濟的進出、彼我貿

易ノ振興、交通ノ發達著シキモノアリト雖モ、最近ノ國際情勢ニ基ク各國ノ變則的動向ニ禍セラレ相干國トシテ、間涉外事項ハ量的ニ著シク増加シ内容亦複雑化シ来リタルコトハ顯著ナル事實ナリトス。之ヲ支那ニ付テ見ルニ或ハ日支通商條約違反ノ「百噸未満船舶」外國貿易禁止ニ関スル支那稅関告示違反ヲ理由トシテ本島置籍船舶ヲ沒收抑留シ以テ本島物産ノ進出ヲ阻止シ或ハ領海十二哩說ヲ固持シテ領海不許可通航船舶ヲ抑留シ延テ本邦漁船ノ進出ヲ拒ミ或ハ密貿易監視ト稱シテ數十隻ノ監視船ヲ以テ正業從事ノ船舶ノ公海航行ヲ妨碍シ或ハ本邦品ニ對シ通商條約日支關稅協定

9
ニ違背スル統一稅ヲ賦課スル等排日運動ニ起因シテ隨時隨所ニ涉外事故ヲ惹起シソ、アルモ條約法規等ヲ無視スル相干國タル爲交渉ノ複雑化ヲ免レス。又南洋ニ付テ見ルニ近年發動機船ニ依ル南支南洋遠洋漁業發達ニ伴ヒ或ハ漂着又ハ故障船舶ニ對シ領海内密漁業又ハ密貿易トシテ拿捕其ノ他ノ処分ニ付シ或ハ要塞法違反事件ヲ惹起シ或ハ海賊遭難事件頻發スル等事故甚カラス之等ニ對シテハ當該領事ト怙カシテ善処スルト共ニ根本原因ノ排除ニ努カシ来レルモ將來此ノ種ノ事件ノ益々増加シ複雑化スルハ想像ニ難カラズ其他ノ涉外事項ニ付テモ在外邦人及在台外

國人逐年増加シ又從來本島ニ駐在スル外國領事ハ英、米、和蘭ノ三國領事ニ過ギサリシカ近年中國、伊國ノ二領事館増置セラレ之ヲ領事館トノ折衝事項モ繁劇トナレリ。然ルニ今日迄ノ實際ニ徴スルニ之ヲ等歩外事故ノ折衝ハ之ヲ當初ヨリ最終交渉官廳タル外務省ニ送致シテ正式交渉ヲ為スヨリハ寧ろ臺灣總督府ニ於テ自ラ折衝ヲ重ヌルヲ得策トスル場合尠カラサルナリ。

更ニ本島カ國防上重要ナル地位ニ在ルニ鑑ミ本府ノ行政ハ軍部トノ關係ニ於テモ看過スヘカラサル關係ヲ認メ得ヘシ即チ出先軍官處ニ於テモ常ニ對外情勢ヲ知悉スルノ必要アリテ之カ爲ニハ行政官廳ノ外事機關ヲ介在セシメ之ヲ利用スルヲ便宜トスル場合少カラサルヘク本府ニ於テハ從來共之ト協力シ来リタル所ナルモ今後一層此ノ種ノ協力ヲ要スヘキモノアリト認メラル。

(三) 翻テ現在本府外事行政機關ヲ見ルニ

官房文書課外事係ニ於テハ

- (一) 外國人ニ関スル事項
- (二) 海外旅行ニ関スル事項
- (三) 外國文書ノ起草及翻訳ニ関スル事項
- (四) 其他一般渉外事項ニ関スル事項

官房調査課ニ於テハ

南支南洋其他海外ニ於ケル制度及経

濟調査ニ関スル事項

文教局学務課ニ於テハ

南支南洋ニ於ケル教育施設ニ関スル事項

殖産局商工課ニ於テハ

南支南洋邦人事業助成ニ関スル事項

財務局金融課ニ於テハ

南支南洋金融助成ニ関スル事項

警務局衛生課ニ於テハ

南支南洋衛生施設ニ関スル事項

警務局保安課ニ於テハ

外国人取締及南支邦ニ於ケル新聞紙率

業助成ニ関スル事項

ヲ夫々主管シ居ルモ各事項ヲ各部局ニ分属

セシメタル関係上一定政策ノ下ニ事務ノ連統統
制ヲ計ルコト困難ナル場合甚シトセサルノミナラス
動モスレハ島内行政事務ノ附帶事務的ニ取扱ハ
レ充分ナル機能ヲ發揮スルヲ得ス且全体トシ
テノ規模極メテ貧弱ナリ即チ一般外事行
政ニ付テハ大正十三年以來文書課ノ一係トシ
テ翻訳官一人、属一人及通訳一人ノミヲ以テ處理
シ来リ最近著シク増加セル事務的渉外事
項サハ完全ニ處理シ難ク其ノ他各局課分
属事項ニ付テモ特別ノ專任者ノ配置ナク右ト
略同様ニシテ前述帝國南方経営ノ重大使
命ヲ達成スルカ如キハ到底至難ノ実情ニ在リ
時恰モ非常時局ニ際シ之カ機関ノ擴充改善

ヲ計リ本島ノ使命ヲ達成スルニ足ルヘキ組織
及規模ヲ以テ統制アル政策ノ下ニ積極的ニ
而モ大所高所ヨリ適切有効ナル施設經營ヲ施
スハ一日モ忽諸ニ附スヘカラサル事項ナリトス、本府
ハ茲ニ鑑ミル所アリ廣ク權威者ヲ網羅セル熱
帶産業調査会ヲ開催シ本島及南支南洋ノ
經濟、産業交通等ニ關スル重要事項ヲ調査
審議セシメ以テ南方發展ノ指針ヲ得ルト共ニ
外事行政ノ拡大強化ヲ圖リ本島使命ノ達
成ニ資セントス。

二、外事課ノ主管事項

以上ノ理由ニ依リ現在ノ文書課外事係ヲ獨立
セシメ之ヲ官房外事課ト爲サントス之ニ伴ヒ他

局課分屬事務ヲモ外事課ニ統合スルヲ可ト
スルカ如キモ統制ノミニ重キヲ置キ各事務ノ性質
ヲ無視シ専門外ノ一課ニ統合スルハ不得策ナルノミナ
ラス徒ニ多数ノ職員ヲ必要トスヘキニ鑑ミ之等ノ実
際的事務ハ従前通各課ニ分屬セシメ外事課
ニ於テハ之ヲ政策的ニ大所高所ヨリ統制シ發案
ヲ促スコトニ依リ充分所期ノ目的ヲ達スルヲ得
ルモノト認ム然レ共官房調査課主管南支南洋
等制度及經濟調査ハ従来大ニ效果ヲ擧ケ其
ノ南支南洋調査ノ結果ハ斯界ニ於ケル權威ア
ル資料トシテ認マラルル處ニシテ南方対策ハ斯ル
確實權威アル資料ニ基キ樹立シ而モ常ニ南方
各地ノ動向ニ適應シ善處スルヲ要シ相互密接

不離ノ關係アルヲ以テ該事務ノミハ奉テ外事課ニ移管セントス即チ新設外事課ハ現在ノ官房文書課外事係、同調査課調査係ヲ合併所管セシムルノ外各課ノ外事關係事務ヲ統制スルモノニシテ之ヲ列記スレハ左ノ如シ

- (一) 南支南洋ニ関スル事務ノ統制連絡ニ関スル事項
- (二) 南支南洋發展策ニ関スル事項
- (三) 外国人ニ関スル事項
- (四) 外國旅客ニ関スル事項
- (五) 海外移民ニ関スル事項
- (六) 南支南洋施設費ノ統轄ニ関スル事項
- (七) 南支南洋其他海外ノ制度及經濟調査ニ関スル事項

- (八) 外國語ノ翻訳及通訳ニ関スル事項
- (九) 歐文電信符号ニ関スル事項
- (十) 海外事情紹介ニ関スル事項
- (十一) 其他一般渉外事項

三、外事課職員及分掌

外事課設置ニ伴ヒ現在ノ官房文書課外事係職員翻訳官一人、屬一人及通訳一人、同調査課調査係職員屬二人ヲ外事課ニ組替フルノ外事務二人及屬二人ヲ新ニ増員シ計事務官二人、翻訳官一人、屬五人及通訳一人ヲ以テ外事課ノ職員トス。而シテ特ニ事務官二人及屬二人増員ヲ必要トスルハ事務官ニ件テハ前述ノ如ク南方經營ハ本島ノ重大使命ニシテ従来固ヨリ之カ達成ニ努メ来リタル處

ナルモ根本的対策ヲ樹立シ統制アル活動ヲ爲スニ足ルヘキ機關備ハラサリシ爲遺憾ノ莫甚カラサルモノアルニ鑑ミ此ノ機會ニ於テ特ニ此ノ方面ニ達識有能ニシテ權威アル職員ヲ充實セントス即チ事務官二人中一人ハ課長トシテ全事務ヲ總括セシメ他ノ一人ハ課長ノ下ニ在リテ常ニ自ラ南支南洋ノ動向ニ眼ヲ注キ之ニ應シテ迅速確實ナル調査ヲ爲サシメ又自ラ視察シテ事情ニ精通シ其ノ結果ニ基キ適切ナル対策ヲ考究樹立シ之カ實施方策ヲ立案シ必要アラハ關係他局課ヲシテ之カ實施ヲ促ス等本島南方經營ノ大策ニ參画セシメ依テ以テ將來積極的合理的ナル施設經營ヲ爲サントスルニ由ルモノナリ又屬ニ件テハ上述重要

遺憾ナカラシムルノ必要アルヲ以テナリ

以上ニ基キ外事課各職員ノ分掌ハ左ノ如シ

新設外事課職員事務分掌

課長

事務官 一人

事務官 一人

- (一) 南支南洋ニ関スル事務ノ統制連絡ニ関スル事項
- (二) 南支南洋發展策ニ関スル事項
- (三) 南支南洋施設費統括ニ関スル事項
- (四) 南支南洋ニ於ケル制度及經濟調査統括ニ関スル事項

通訳官 一人
通訳 一人

(一) 外國語、翻譯及通訳ニ関スル事項
(二) 外國人、接遇ニ関スル事項

屬 一人

(一) 外國人ニ関スル事項

(二) 外國旅券ニ関スル事項

(三) 渉外事務ニ関スル事項

(四) 政文電信符號ニ関スル事項

屬 一人

(一) 南支南洋發展策ニ関スル事項

(二) 南支那及南洋施設費統括ニ関スル事項

(三) 海外事情紹介ニ関スル事項

屬 一人

(一) 庶務ニ関スル事項

(二) 海外移民ニ関スル事項

(三) 南支那ニ於ケル制度及經濟調査ニ関スル事項

屬 一人

(一) 英領北ボルネオ、英領馬來、蘭領東印度ニ於ケル

制度及經濟調査ニ関スル事項

屬 一人

(一) 比律賓、暹羅、佛領印度支那ニ於ケル制度及

經濟調査ニ関スル事項

外事課設置ニ関スル参考資料目次

- 一、南支南洋邦人助成事業一覽表
- 二、南支那ニ於ケル教育施設概要
- 三、南支南洋補助病院概要
- 四、南支那ニ於ケル新聞紙事業助成概要
- 五、昭和八、九年度南支那及南洋施設費各課割當額調
- 六、南支那及南洋施設費各年度豫算調
- 七、調査課調査掛調査結果發行回数調
- 八、對南支南洋定期航路表
- 九、對南支南洋間船舶出入調
- 十、對南支南洋輸出入金額調

- 二、對南支南洋重要輸出入品數量價額調
- 三、對南支南洋將來重要輸出品見込
- 三、對南支南洋為替取組高調
- 四、對南支南洋本島人及內地人別渡航渡來數
- 五、文書課外事掛事務增加狀況
 - (一) 收發文書件數及外國旅券下付數
 - (二) 在臺外國人數
 - (三) 南支南洋在住邦人數調
 - (四) 歐文電報收發件數
 - (五) 本島駐在各國領事館
 - (六) 南支南洋駐在帝國領事館
- 六、官房文書課外事係沿革
- 七、官房文書課現在員事務分掌

- 八、調查課現在職員事務分掌
 - 一、九、支那官憲ニ拿捕セラレタル船舶
 - 二、〇、米國官憲ニ拿捕其他事故船舶
 - 二、一、海賊拿捕其他被害船舶
 - 二、二、外事課設置ニ関スル十年一度増額豫算

参考一

南支南洋邦人助成事業一覽表

地方別	業種	補助先	資本額	補助金額	昭和七年度	昭和八年度	備考
ダバオ	麻栽培	ミンタル 拓殖株式會社	五〇〇〇〇比	五〇〇〇〇比	八〇〇〇円	七二〇〇円	華南銀行借入金引子補給 昭和四年度引継
ダバオ	麻栽培	リバーサイド 拓殖株式會社	〃	〃	五七六〇	五二〇〇	〃
ダバオ	麻栽培	タロモリバー 農業株式會社	〃	〃	四八〇〇	四三二〇	〃
ダバオ	麻栽培	ギアヒン 拓殖株式會社	〃	〃	五一二〇	四六〇〇	〃
ダバオ	麻栽培	ギアヒン 拓殖株式會社	三〇〇〇〇比	三〇〇〇〇比	三八四〇	三四四〇	〃
ダバオ	麻栽培	ギアヒン 拓殖株式會社	二五〇〇〇比	一五〇〇〇比	三三〇〇	二八八〇	〃
ダバオ	麻栽培	ギアヒン 拓殖株式會社	四五〇〇〇比	四五〇〇〇比	二八八〇	二五六〇	〃
ダバオ	麻栽培	ギアヒン 拓殖株式會社	五〇〇〇〇比	三七〇〇〇比	二二八〇	二一五二〇	〃
ダバオ	麻栽培	ギアヒン 拓殖株式會社	一五〇〇〇〇比	七五〇〇〇比	九〇〇〇	八一〇〇	華銀肉保利子補給 昭和五年度引継
日本人會	麻栽培 其他培	古川拓殖株式會社	〃	〃	四五〇〇	〃	邦人明麻機特許金返還 昭和四年度引継

各地銀行	香港近海通業	南洋一帯	商業
華南銀行	株式會社 連業通業公司	株式會社 華南銀行	株式會社 南洋商會
		南洋栽培協會	同前
		二五〇、〇〇〇円	昭和七年度より繼續
		一八七五、〇〇〇円	昭和四年度より繼續
		一五、〇〇〇	(以上高工銀主)
		一三、〇〇〇	華業資金補助
		四、五〇〇円	(水産課主)
		七〇、〇〇〇	大正八年以來海外華商、華人補助
		七〇、〇〇〇	等ト年補助(金銀課主)

計 直接助成(台銀利子補給) 七年度 八年度

華南銀行利子補給 三件 一四三、〇〇〇 二六件 一三二、二四〇

計 三件 二六〇、五五〇 三八件 二五九、三四〇

参考二

南支那ニ於ケル教育施設概要

一、設立の趣旨

臺灣ト地理的ニ一衣帶水最モ密接ナル關係ヲ有スル對岸トハ古來政治上、經濟上密接ナル關係ヲ有シ本島人ニシテ對岸ニ居住シ各種生業ニ從事スル者尠ラズ之等本島籍民ノ子弟ニ對シ教育ヲ施シ忠良ナル日本國民タラシメ且ツ彼等ヲ介シテ帝國ノ海外發展ノ基礎ヲ固ムルコトハ帝國國運ノ進展上極メテ須要事タルノミナラス本島統治上ニモ好影響ヲ齎ラスモノアルベキヲ以テ籍民子弟教育機關トシテ明治四十一年四月福州ニ福州東瀛學校ヲ、明治四十三年六月

廈門ニ厦門旭瀛書院ヲ、大正四年三月汕頭ニ汕頭東瀛學校ノ三學校ヲ開設シ今日ニ至ル然ルニ各校ノ開設セラル、ヤ本島籍民子弟、外支那人ノ子弟ニシテ入學ヲ懇請スル者モ尠カラズ之等ノ子弟ヲ入學セシムルコトハ日支親善ヲ圖ルニ於テモ効果アルベキヲ以テ籍民子弟ノ教育ニ妨ナキ範圍ニ於テ其ノ入學ヲ許容シ居レリ又對岸在任内地人子弟ノ教育ニ関シテハ明治四十三年五月福州、大正四年四月汕頭及廣東、大正六年五月厦門ノ四小學校ヲ設置シ内地人子弟ノ初等教育ヲ行ハスレリ

二、經營ノ方法及學科課程

籍民學校及小學校共何レモ所在地居留民ヲ

以テ組織セル臺灣公會又ハ日本居留民會ノ設立經營ニ係ルモノニシテ之ガ經營ニ関シテハ何レモ其ノ教員ハ本府ヨリ臺灣公立公學校訓導官又ハ臺灣公立小學校訓導官ヲ派遣シ總督府廳地方費支辨ヲ以テ俸給及滞在旅費ヲ支給シ居レリ又學校ノ經常費、臨時費ニ對シテモ總督府ヨリ其ノ一部ヲ補助シ小學校ニ對シテハ外務省ヨリモ補助セラレ来レリ而シテ籍民學校ニ於テハ臺灣ニ於ケル修業年限六ヶ年ノ公學校ノ課程ニ準シ小學校ニ於テハ臺灣ニ於ケル小學校ノ課程ニ據レリ

三、派遣教員教及其待遇

昭和十年三月一日現在派遣教員教ハ左記ノ

卒業者数累計（昭和十年三月一日現在）

學校名	年度			經常費	臨時費	内總督府補助金	學級數	職員數	児童數	計	卒業者數
	七	八	九								
汕頭東瀛學校 (文正四年三月創立)	七 三、八〇五	八 四、〇五五	九 三、五三〇	一	一	一	三	三	四	五	一
廈門旭瀛書院 (明治甲午三月創立)	七 一、三、七六五	八 一、四、八二五	九 一、三、六三〇	一	一	一	一	一	四	五	一
福州東瀛學校 (明治甲午三月創立)	七 七、〇八〇	八 六、七〇九	九 六、九六六	一	一	一	七	八	七	八	一

四各學校ノ狀況
籍民學校

計
汕頭東瀛學校
廈門旭瀛書院
福州東瀛學校
廣東日本人小學校
汕頭日本人小學校
廈門日本人小學校
福州日本人小學校

區	分	定員	現員
計		三五	三五
汕頭東瀛學校		一	一
廈門旭瀛書院		一	一
福州東瀛學校		一	一
廣東日本人小學校		一	一
汕頭日本人小學校		一	一
廈門日本人小學校		一	一
福州日本人小學校		一	一

通ニシテ之等ノ教員ニ對シテハ臺灣在勤加俸
内地人訓導ニ限ルヲ支給スルノ外海外在勤手
當ノ意味ヲ以テ校長ニハ日額三元五十銭其他ノ
教員ニ對シテハ日額二元ノ滞在旅費ヲ支給ス

小学校

福州東瀛學校 三九人
 廈門旭瀛書院 七一五人
 汕頭東瀛學校 一四五人

學校名	年度			經常費臨時費	內總督府補助金	內外務省補助金	總級數	職員數	児童數	卒業數
	七	八	九							
福州日本人小學校 明治三十五年創立	六二七	五〇七	四九一	一	一	一	二	二	五〇	九
廈門日本人小學校 明治三十五年創立	五五五	六五九	四四四	一	一	一	二	二	二九	七
汕頭日本人小學校 明治三十四年創立	五〇七	四七六	四八七	一	一	一	二	二	八	一

卒業者教員計(昭和十年三月一日現在)

福州日本人小學校 五九人
 廈門日本人小學校 六六人
 汕頭日本人小學校 二一人
 廣東日本人小學校 三〇人

廣東日本人小學校 天正四年(西曆一五八七)創立	年度			經常費臨時費	內總督府補助金	內外務省補助金	總級數	職員數	児童數	卒業數
	七	八	九							
	六二四	七五〇	六六〇	一	一	一	二	二	一八	一
	六三〇	六三〇	六三〇	一	一	一	二	二	二六	一

参考三

南支南洋補助病院概要

一、設立の目的

對岸南支那ニ曾テ完全ナル醫療機關ナク在留内地人ハ勿論多數
台灣籍民ノ痛嘆スルコト又シモナリ且日支兩國ハ互ニ融和提携ス
ヘキニ勤モスルハ感情ノ疏通融和ヲ欲クモノ在ルニ鑑ミ兩國民合同ニ依リ機
関ヲ通シ密接ナル關係ヲ圖ルノ必要ヲ痛感シ在留邦人及支那人有志
相協リ大正七年財團法人廈門博愛會ヲ組織シ專ラ醫院ヲ設立
經營スルニ至リタルヲ初メトシ翌八年ニ福州、廣東兩博愛會成リ越ヘテ
大正十二年ニ汕頭博愛會成リ夫々醫院ノ設立アリ之ヲ爲在留民ハ其
ノ堵ニ安シテ事業ニ從事シ得ルニ至リタルニミナラス台灣ト最モ密接ナ
ル關係ヲ有スル彼地ニ我進歩セル醫術ヲ紹介シ彼我ノ保護機關トナリ
俱ニ相接近シ日支親善ヲ謀リソフアリ之レ寔ニ國家的事業ニ屬スルモ

ノナルヲ以テ創立費及毎年経費不足額ヲ國庫ヨリ補助シ来ル所ナリ
 又南洋ボルネオタワオニ於テハ大正六年ヨリ病院ヲ経営シ来リタル
 カ大正八年之ヲ財團法人タワオ病院トシ益ニ邦人南方發展ニ貢献スル
 コトトナレルヲ以テ大正九年ヨリ南支博愛會醫院ト共ニ経費ヲ補助シ
 来レリ

函来以上各醫院ハ本来ノ使命ヲ實現シ醫院ハ成績漸次良好ニ向ヒ
 来リタルカ福州上海西事変激発ニ依リ日貨排斥ノ熾烈トナリ患者一般
 ニ激減シテ福州ハ更ニ共匪革命等ノ擾亂ニ依リ患者減少甚シキモノ
 アリタルモ時局安定ト共ニ各醫院トモ漸次恢復シ患者ノ増加ヲ見ソ
 ワアリ

二、経営方針及監督

各財團法人ニ會長、顧問、理事、評議員ノ各役員ヲ設ケ醫院経

営ノ方針及決算上ノ監督ハ之等ノ役員ニ依リテ行ハル又財團法人トシ
 テ行政上ノ監督ハ外務省之ヲ所管シ所在地領事ノ管掌スル所ナリ
 然レ共總督府ハ施設ノ擴張縮少、處務會計、料金、職員給與、及
 主ナル職員ノ任免増給等重要事項ハ補助金下付ノ附帯條件トシ
 以テ各般ノ監督ヲ爲シツアリ

三、職員配置及待遇

タワオ	汕頭	福州	廣東	廈門	醫院名	院長	副院長	醫員	藥局長	調劑員	書記	通訳	技手	計
一	一	一	一	一		一	一	一	一	一	一	一	一	一
		三	三	三										
	二	一	一	一										
三	一	四	二	三										
一	一	一	一	一										
一	一	一	一	一										
一	一	二	一	二										
一	一	一	一	一										
一	一	一	一	一										
七	八	一四	一三	一五										

四 取扱患者

南支医院ニ於ケル取扱患者状況ハ左表ニ示ス如ク開院以來昭和六年迄六逐年著シク増加ヲナシ開院當時ニ比シ三倍乃至八倍ノ多キニ達セリ而モ其ノ九割ハ支那人患者ニシテ、我カ医術ノ聲價ハ日ト共ニ彼地一般人士ニ対シ信認ヲ加ヘソ、アルモ昭和七年上海滿州事変ノ影響ヲ受ケタルコト甚クシク殊ニ廣東、汕頭ノ如キハ前年比著ク減少ヲ見ルニ至レリ

医院名	昭和二年	昭和三年	昭和四年	昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年
厦門	二二,四七一	三三,八三三	六九,〇一三	三三,一八九	三三,四三〇	二七,三二九	二〇,五〇二
廣東	二五,〇七三	二五,三三四	三〇,九二五	三四,三五二	三四,二二〇	二〇,一五二	一五,七五三
福州	一六,七一九	一六,七〇六	一八,六一八	一八,二一〇	一三,四八八	一三,〇二一	一一,七七五
汕頭	五,四八四	四,八二五	五,八三七	六,二〇四	五,七八九	三,九〇六	一,四八二
夕ワオ	八,三六〇	九,〇六三	九,七三二	七,六三三	六,〇八九	五,四〇九	七,〇八六

南支那各医院ニ於ケル院長、各科医長又ハ主任医及薬剤師タル職員ハ待遇上、必要ニ依リ當府技師又ハ技手(技師年俸百円、技手月俸二円)ニ任命シ期限ヲ附セス各医院ニ派遣シ有給ヲ以テ博愛會医院ノ嘱託ヲ受ケシム而シテ其ノ給與ニ関シテハ初任俸給、増給、旅費、宿舎、貸與等凡テ當府官吏ニ対スル例ニ準シ加俸ノミハ本島ノ例ニ依ラス廣東十一割其ノ他十割ヲ弗ヲ以テ支給シ居レリ
現在ニ於ケル技師技手配置定員左ノ如シ

醫院名	定員	
	技師	技手
厦門	四	三
廣東	四	三
福州	五	二
汕頭	二	一
計	一五	九

五、經費補助

各医院ノ經常部收入ハ殆ント患者收入ノミナルヲ以テ當府ニ於テハ毎年患者收入ヲ控除シタル不足額ニ對シテ豫算補助ヲ爲シツツアリ最近七年間經常部經費補助額左ノ如シ

夕 ワ オ	汕 頭	福 州	廣 東	厦 門	医 院 名
二五、〇〇〇	二五、八三九	七一、七六六	八八、〇〇〇	六六、三五二	昭和三年度
二五、〇〇〇	二六、〇〇〇	七二、〇〇〇	八八、〇〇〇	六六、〇〇〇	昭和四年度
二五、〇〇〇	二五、〇〇〇	五三、五〇〇	七二、〇〇〇	五二、五〇〇	昭和五年度
二二、五〇〇	二二、五〇〇	五〇、〇〇〇	六四、八〇〇	四六、九〇〇	昭和六年度
二二、〇〇〇	二三、〇〇〇	四八、四〇〇	六八、〇〇〇	三九、〇〇〇	昭和七年度
二二、五〇〇	二六、〇〇〇	四五、〇〇〇	五一、〇〇〇	三九、〇〇〇	昭和八年度
二二、五〇〇	二六、〇〇〇	四五、〇〇〇	五一、〇〇〇	三九、〇〇〇	昭和九年度

参考四、

南支那ニ於ケル新聞紙事業助成概要

一、財團法人善鄰協會設立及事業

本島ノ地理並民族關係ニ鑑ミ臺灣ヲ中心トシテ南支南洋方面ヘノ發展策ヲ講スルニ付臺灣ト南支南洋各地トノ親善ヲ圖リ通商貿易其他各種事業ノ調査ヲ行フノ目的ヲ以テ總督府及臺灣銀行ノ共同出資ヲ以テ財團法人善鄰協會ヲ創設シ大正六年十二月十二日許可ヲ受ケタリ而シテ其目的達成ノ第一歩トシテ協會ハ先ス新聞事業ヲ經營シ来リ爾後歴代警務局長ヲ常議員ニ保安課長ヲ常務理事ニ選任シ毎年相當ノ補助金ヲ下付シ助成シ来レリ善鄰協會ノ事業ハ右ノ如ク主トシテ對岸ニ

於ケル新聞事業ノ經營ニシテ現ニ福州ニ於テ
 閩報ヲ、厦門ニ於テ全閩新日報ヲ發行シツ、
 アリ又近ク廣東ニモ之ヲ發行セントスルノ新規
 計劃ヲ樹立シ目下之カ實現ニ努カシツツアリ
 而シテ福州閩報ハ福建省内ニ於ケル最古ノ新
 聞ニシテ日本人經營ニ移リテ已ニ三十有七年ノ歴
 史ヲ有シ支那側ヨリ何等賤的援助ヲ受クル
 コトナク從テ政派黨派ニ超越シ亦勢力者其
 他ニ偏依スルコトナク常ニ正々堂々ノ筆陳ヲ張
 リ以テ我國ノ真相ヲ報道シ日支親善ニ貢獻
 シ特ニ支那一流ノ惡宣傳ニ對シテハ其ノ誤解ヲ除
 去シ排日ノ緩和ト之カ沈靜ニ努メ因テ彼我ノ福
 利増進ヲ圖リツツアルヲ以テ省内最大ノ勢力

ヲ獲得シ殊ニ記事ノ正確ト迅速トハ遂年内外ノ
 信用ヲ獲得シツツアリ又全閩新日報ハ明治四十
 年ノ創刊ニシテ福州閩報ト共ニ南支ニ於ケル報
 道機關トシテ内外ノ信賴アリ日支親善ニ努カスル
 コト大ナルモノアリ而閩報延榮行部數ヲ擧クレバ
 左ノ如シ

年 度	別 閩 報	館 全	閩 社
昭和二年	七四〇、九六〇	二九六、二九三	
昭和三年	五四四、八六一	二六二、一七〇	
昭和四年	七〇七、四四三	三五四、一三〇	
昭和五年	九八九、五七〇	四四〇、一五五	
昭和六年	六八六、六五一	三八二、二八九	

年度	別	補助金	高	摘	要
昭和十五年	大正十五年	六四、一五八円七六			
昭和十四年	昭和十五年	五二、八三〇、〇〇			
昭和十三年	昭和十四年	七〇、〇〇〇、〇〇			
昭和十二年	昭和十三年	六五、〇〇〇、〇〇			
昭和十一年	昭和十二年	四四、〇〇〇、〇〇			
昭和十年	昭和十一年	三四、〇〇〇、〇〇			
昭和九年	昭和十年	三九、〇〇〇、〇〇			内九、〇〇〇圓臨時補助金
昭和八年	昭和九年	三七、二〇〇、〇〇			内七、二〇〇圓臨時補助金

備考
 一 總督府補助金ニテ新聞社補助金ニ不足アル場合ハ
 特別積立金ヨリ借入支出シタルモノナリ

昭和七年	昭和八年	昭和九年
一六一、八〇〇	六四六、八六〇	九五一、二六〇
一六三、三五九	七五四、〇七二	二六八、九五四

二 善鄰協會費支出及總督府補助金

年別	新聞館	新聞社	新聞補助	事務費	調査費	計
昭和元年	二五、〇〇〇	一六、二〇〇	一、五〇〇	四、四〇〇		四六、九〇〇
二年	三二、八二五	二四、〇〇〇	一、七〇〇	五、五〇〇		五六、〇二五
三年	三三、〇〇〇	一六、九〇〇	七、八〇〇	五、〇〇〇		六二、七〇〇
四年	四六、七九〇	三〇、五八六	一〇、八〇〇	八、〇〇〇		九六、〇七六
五年	三八、〇〇〇	一九、八〇〇	九、〇〇〇	三、〇〇〇		六九、八〇〇
六年	三三、〇〇〇	一七、二〇〇	九、〇〇〇	三、〇〇〇		六二、二〇〇
七年	三〇、〇〇〇	一四、〇〇〇	四、五〇〇	三、〇〇〇		五二、〇〇〇
八年	三六、八五〇	二四、八五〇		三、四八五		六五、二〇〇
九年	三三、八二五	二五、二〇〇		三、〇〇〇		六二、〇二五

昭和九年 三〇、〇〇〇、〇〇〇 本年度割當額

参考五

昭和八、九年度南支那及南洋施設費各課割當額調
事 項 昭和八年度 昭和九年度 昭和十年度

南洋協會補助	一五、〇〇〇	一四、〇〇〇	割當未定
南洋協會台灣支部補助	四、〇〇〇	四、〇〇〇	
臺灣時報發行補助	一、五〇〇	一、五〇〇	
諸給與	二〇、七〇〇	二一、九四五	
圖書及印刷費	六、六八〇	六、六八〇	
物品費	一、〇〇〇	六、七三〇	
計	四七、八八〇	四八、七九八	
(警務局)			
廈門醫院經費補助	三九、〇〇〇	三九、〇〇〇	

廣東醫院經費補助
 福州醫院經費補助
 汕頭醫院經費補助
 タワカ病院經費補助
 旅費(新嘉坡マラリヤ講習會出席)
 善隣協會事業補助

一、支 教 局

福州日本人小學校經費補助
 廈門日本人小學校全
 汕頭日本人小學校全
 廣東日本人小學校全
 福州東瀛學校全

五二、〇〇〇	四五、〇〇〇	二六、〇〇〇	二一、五〇〇	七〇〇	三〇、〇〇〇	二一五、二〇〇	三四二	五一三	二三四	六三〇	四、五九〇
〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
五二、〇〇〇	四七、二〇〇	二六、〇〇〇	二一、五〇〇	三、〇〇〇	三〇、〇〇〇	二一八、七〇〇	三四二	五一三	二三四	六三〇	四、五九〇
〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇

廈門旭瀛書院全
 汕頭東瀛學校全
 廈門商業學校予空土地建物維持費補助
 廈門日本人小學校予宿舍會費
 築費(福州厦門二處ケル籍旅費)
 計

一、殖 産 局

南支南洋邦人事業補助費
 事業資金借入金利息補助
 蓬萊燕業公司助成費
 直接助成費
 邦人雜費(小賣商發展)
 南洋護謨事業助成費

七、二〇〇	二、三〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一九、一八九	一九、二八九	一九、二八九	一九、二八九	一九、二八九	一九、二八九	三二、七五〇
〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
七、二〇〇	二、三〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一九、六八九	一九、二八九	一九、二八九	一九、二八九	一九、二八九	一九、二八九	三二、七五〇
〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇

諸給與物品費、通信費
 (其 他)
 日本電報通信購讀料
 豫備費

五、〇〇〇	一、二〇〇	二、一〇三	五、八二六
〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	二、〇〇〇
〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
五、〇〇〇	一、二〇〇	三、三六三	五、八二六
〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	二、〇〇〇
〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
五、八二六			二、〇〇〇

南洋栽培會助成費
 北律實木紋輸出株式會社
 補助
 外人畢業調查監督費
 補助(華南銀行)
 事業費
 (財務局)
 華南銀行海外支店損失補助
 計
 (文書課)
 兼任事務官及囑託
 (領事館)賞與
 領事會議旅費
 (會計課)

三、〇〇〇	一、二〇〇	二、〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇	九、〇〇〇
〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
三、〇〇〇	一、二〇〇	二、〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇	九、〇〇〇
〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
三、〇〇〇	一、二〇〇	二、〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇	九、〇〇〇

参考六

南支那及南洋施設費各年度豫算調

年 度	費 目	金 額
明治三十三年度	日本語學校補助	一〇、〇〇〇
三十四年度	南清貿易擴張費	一〇、〇〇〇
三十五年度	東亞書院補助	一〇、〇〇〇
三十六年度	全	一〇、〇〇〇
三十七年度	全	一〇、〇〇〇
三十八年度	東亞書院及東支學堂補助	二〇、〇〇〇
三十九年度	南清貿易擴張費	九〇、〇〇〇
四十年度	全	九〇、〇〇〇
四十一年度	全	九〇、〇〇〇
四十二年度	全	七〇、〇〇〇

南洋		支那		南支		航路名		起終寄港地		船隻		船隻		船隻	
西貢	盤谷	基隆	瓜哇	高雄	上海	基隆	廈門	高雄	廣東	廈門	汕頭	廈門	汕頭	廈門	汕頭
西貢	盤谷	基隆	瓜哇	高雄	上海	基隆	廈門	高雄	廣東	廈門	汕頭	廈門	汕頭	廈門	汕頭
西貢	盤谷	基隆	瓜哇	高雄	上海	基隆	廈門	高雄	廣東	廈門	汕頭	廈門	汕頭	廈門	汕頭
西貢	盤谷	基隆	瓜哇	高雄	上海	基隆	廈門	高雄	廣東	廈門	汕頭	廈門	汕頭	廈門	汕頭
西貢	盤谷	基隆	瓜哇	高雄	上海	基隆	廈門	高雄	廣東	廈門	汕頭	廈門	汕頭	廈門	汕頭
西貢	盤谷	基隆	瓜哇	高雄	上海	基隆	廈門	高雄	廣東	廈門	汕頭	廈門	汕頭	廈門	汕頭
西貢	盤谷	基隆	瓜哇	高雄	上海	基隆	廈門	高雄	廣東	廈門	汕頭	廈門	汕頭	廈門	汕頭
西貢	盤谷	基隆	瓜哇	高雄	上海	基隆	廈門	高雄	廣東	廈門	汕頭	廈門	汕頭	廈門	汕頭
西貢	盤谷	基隆	瓜哇	高雄	上海	基隆	廈門	高雄	廣東	廈門	汕頭	廈門	汕頭	廈門	汕頭
西貢	盤谷	基隆	瓜哇	高雄	上海	基隆	廈門	高雄	廣東	廈門	汕頭	廈門	汕頭	廈門	汕頭

參考八

對南支南洋定期航路表

備考 調查課調查係設置セラレタル大正七年トス

計	九年度	八年度	七年度	六年度	五年度	四年度	三年度	二年度	昭和一元年度	十四年度	十五年度	十六年度
二二七	四	六	八	六	九	八	六	三	五	四	一	一
一三												
二												
一五九												
八	二	二	二	九	一							
一四	四	四	四	九	一							
四八二	二	三	三	一	一	一	一	一	一	一	二	三
二	八	〇	四	五	九	九	六	三	五	九	五	五

支	南				航地												
	小計	諸外國	其他	中華民國	日本	船籍											
計	支那型帆 克	西洋型帆 船	石油型帆 船	汽 油 型 帆 船	支那型帆 克	西洋型帆 船	石油型帆 船	汽 油 型 帆 船	船種	昭	和	昭	和	昭	和	昭	和
一〇二三	三八一	二五九	三八一	九〇	三八一	二一六	九	二八	隻	二八	七	二六	六	二六	六	六	九
一〇九七	一七三	一八三	一〇六	三三	一七三	一〇八	三	七一	隻	七一	七	二六	六	二六	六	六	九
一九一五	三五六	三六六	一〇六	三三	一七三	一〇八	三	八一	隻	八一	七	二六	六	二六	六	六	九
一〇八四	一七二	一八七	一〇五	三三	一七二	一〇七	三	六一	隻	六一	六	二六	六	二六	六	六	九
一九二七	二六	一八七	一〇五	三三	一七二	一〇七	三	六一	隻	六一	六	二六	六	二六	六	六	九
一五三一	七六三	三九五	三七四	八七	七六三	三四六	九三	四九	隻	四九	四	二六	六	二六	六	六	九
一〇五一	二五八	二九九	一〇八	三三	二五八	二九九	三三	四八	隻	四八	三	二六	六	二六	六	六	九
三五六	九	九	八	六	九	九	六	三	隻	三	一	二六	六	二六	六	六	九

参考九
本島對南支南洋間船舶出入調

南支		南洋		南		仕向地	
日本	小計	其 他 諸 外 國	中 華 民 國	日本	南洋	南	仕向地
汽 油 機 船	汽 油 機 船	汽 油 機 船	汽 油 機 船	汽 油 機 船	汽 油 機 船	汽 油 機 船	船 種
支那型 六	計 一〇三 一	支那型 三九 二	支那型 二五 八	支那型 三九 二	支那型 一〇 一	支那型 二五 五	雙 和 七 年 昭
支那型 六	支那型 三九 二	支那型 二五 八	支那型 三九 二	支那型 一〇 一	支那型 二五 五	支那型 二五 五	和 七 年 昭
支那型 六	支那型 三九 二	支那型 二五 八	支那型 三九 二	支那型 一〇 一	支那型 二五 五	支那型 二五 五	和 八 年 昭
支那型 六	支那型 三九 二	支那型 二五 八	支那型 三九 二	支那型 一〇 一	支那型 二五 五	支那型 二五 五	和 九 年 昭

出
港

南洋		洋		南	
合計	小計	其 他 諸 外 國	中 華 民 國	日本	南
汽 油 機 船	汽 油 機 船	汽 油 機 船	汽 油 機 船	汽 油 機 船	汽 油 機 船
計 一三 三 九	計 三 一 六	支那型 三 七 七	支那型 三 七 七	支那型 三 七 七	支那型 三 七 七
支那型 三 一 一	支那型 三 一 一	支那型 三 一 一	支那型 三 一 一	支那型 三 一 一	支那型 三 一 一
支那型 三 一 一	支那型 三 一 一	支那型 三 一 一	支那型 三 一 一	支那型 三 一 一	支那型 三 一 一
支那型 三 一 一	支那型 三 一 一	支那型 三 一 一	支那型 三 一 一	支那型 三 一 一	支那型 三 一 一

南	支	南			仕向地
		日	本	本	
汽 油 機 船	汽 油 機 船	汽 油 機 船	汽 油 機 船	汽 油 機 船	船種
西 洋 帆 船	西 洋 帆 船	西 洋 帆 船	西 洋 帆 船	西 洋 帆 船	
支 那 型 帆 船	支 那 型 帆 船	支 那 型 帆 船	支 那 型 帆 船	支 那 型 帆 船	和
計	計	計	計	計	
一 六	一 〇 三 一	一 一 一 一	一 一 一 一	一 一 一 一	出
二 五 九 〇 五 七	一 二 二 〇 九 四 二	一 一 八 四 五 二 五	一 一 八 四 五 二 五	一 一 八 四 五 二 五	港
一 二 二	一 三 二 五	一 一 一 一	一 一 一 一	一 一 一 一	年
二 八 六 八 九 五	一 三 八 八 二 八 四	一 一 三 五 三 二 六 六	一 一 三 五 三 二 六 六	一 一 三 五 三 二 六 六	
一 五 〇	一 五 六 四	一 一 一 一	一 一 一 一	一 一 一 一	昭
一 五 七	一 五 六 四	一 一 一 一	一 一 一 一	一 一 一 一	
一 五 七	一 五 六 四	一 一 一 一	一 一 一 一	一 一 一 一	和
一 五 七	一 五 六 四	一 一 一 一	一 一 一 一	一 一 一 一	九
一 五 七	一 五 六 四	一 一 一 一	一 一 一 一	一 一 一 一	年

出 港

南洋	支	洋				南
		小	其	中	日	
汽 油 機 船	汽 油 機 船	汽 油 機 船	汽 油 機 船	汽 油 機 船	汽 油 機 船	船種
西 洋 帆 船	西 洋 帆 船	西 洋 帆 船	西 洋 帆 船	西 洋 帆 船	西 洋 帆 船	
支 那 型 帆 船	支 那 型 帆 船	支 那 型 帆 船	支 那 型 帆 船	支 那 型 帆 船	支 那 型 帆 船	和
計	計	計	計	計	計	
一 三 三 九	三 八 一	三 七 七	三 七 七	三 七 七	三 七 七	出
二 四 一 〇 一	一 七 三 五 六	一 三 一 二 九 〇 六	一 三 一 二 九 〇 六	一 三 一 二 九 〇 六	一 三 一 二 九 〇 六	港
一 六 九 三	五 二 四	四 三 三	四 三 三	四 三 三	四 三 三	年
二 四 八 一 八 七 九	一 七 〇 二 六	一 三 九 六 九 五 二	一 三 九 六 九 五 二	一 三 九 六 九 五 二	一 三 九 六 九 五 二	
二 〇 〇 三	七 六 二	四 七 二	四 七 二	四 七 二	四 七 二	昭
二 〇 〇 三	七 六 二	四 七 二	四 七 二	四 七 二	四 七 二	
二 〇 〇 三	七 六 二	四 七 二	四 七 二	四 七 二	四 七 二	和
二 〇 〇 三	七 六 二	四 七 二	四 七 二	四 七 二	四 七 二	九
二 〇 〇 三	七 六 二	四 七 二	四 七 二	四 七 二	四 七 二	年

地名	年度別	南						
		厦門	福州	汕頭	廣東	溫州	上海	其他
	大正十二年	二,三九五,二八五	六六六,六九二	一,三七九,九八六	一,七六三,八六四	二,五九,三九六	二,六三五,四六三	三,一三,六六五
	大正十三年	五,三九一,一三五	二,七四一,三三六	三,二七七,七五〇	二,二〇八,九七九	四,三三,四七二	五,八五五,六六一	四,二八,七一九
	昭和七年	二,〇八八,九三八	三,二七二,四五四	一,三三九,五四一	三,七三三	一,五〇,三五三	二,七九,五六二	二,九,一四六
	昭和八年	二,〇三三,七四七	一,三二〇,三九四	五,一五二	三,七八六	七〇,一八四	七五八,八三三	四,二,五八一
	昭和九年	四,四四六,〇七〇	二,一〇一,四六〇	五,〇一六,九八	三,二五八	四九,七一三	六三,三八四	三,六三二
香港	大正十二年							四,一七一,六一六
香港	大正十三年							五,七六六,四六八
香港	昭和七年							六,六七〇,一三〇
香港	昭和八年							二,一三〇,七四五
香港	昭和九年							三,九〇九,三四九

輸出

参考一〇

對南支南洋輸出入金額調

南洋支	合計	洋				中華民國			
		小計	諸外國	其他	支那	支那	支那	支那	
計	計	計	計	計	計	計	計	計	
一,一三七	三九二	九六	一六	九〇	三	一	一	二	
一,六一二,七七一	一,六七八九	三九一,七七四	一	三九一,四四七	一三六,六一二	一	一	三,七七八	
一,五五五	五〇九	二二〇	一	一〇八	三六	一	一	五	
一,八五九,七四六	一,六四八,六一七	四七一,四六二	一	四六八,一三〇	一五九,七六〇	一	一	二,四六五	
一,八六六	七四〇	三〇二	一	一五〇	六〇	一	一	一九	
二,〇七二,一九四	二,五三九	六一八,五五八	一	六一四,五三三	二二八,七二七	一	一	六五,五六五	

暹羅	支										南廈門	
	佛領印度支那	比律賓	小計	澳門	香港	其他	上海	溫州	廣東	汕頭		福州
四六四〇	七、七二〇	五、八一九	一五、〇四一、九四九	—	七、四二六、一九一	五、〇〇三、四七	一、三四七、〇〇七	五、六七、〇〇〇	五、〇二一	七、八七、一九六	二、五九〇、八四二	一、七七三、一五五
二六三、五七五	四、七九五	三、四一六	一六、一四七、八一九	—	七、三三三、三〇〇	六、五三、六〇三	二、〇四〇、八一二	七、六三、一〇二	三、三九八	七、八七、七〇三	三、〇八三、九一三	一、四六三、三九八
一、三三、四八二	六、一七二	一、一九七	八、七七四、五七四	—	四、八六二、七九六	七、七一、一四五	二、一五〇、五五三	一、三九、四八二	二、五、三八八	三、九〇、六六二	八、〇五、三〇〇	四、三三、三三八
四八八、一四六	一、〇〇、九九三	一、〇〇、七一	九、八四〇、三九七	四一	四、八〇七、五五二	一、一三、〇〇三	三、六三八、四三六	一、八四、八〇五	一、一五、八八五	三、一七、七四九	五、〇四、六一八	二、七七、六〇八
一、〇、二二六	一、九、二七九	二、〇六、五七七	八、四四七、七四六	七、三五〇	三、一七八、五二〇	四、六、五三四	四、〇三一、六二四	二、三六、〇三六	六、七、二六	三、〇七、〇二五	三、七六、九一六	二、五七、〇一五

地名

年度別

大正十二年

大正十三年

昭和七年

昭和八年

昭和九年

輸

入

南洋總計	洋						南廈門
	小計	蘭領印度	英領ボルネオ	英領馬來	暹羅	佛領印度支那	
一八、四七一、四九四	四、九七五、五二七	三、一八九、一五四	一、八九三	一、八〇〇、三四	一、一九一、七四八	四、〇三三、七五	一、三、四七三、九六七
三、一九二、六一九四	五、九〇三、一〇八	三、五三九、八二九	八七三	三、一〇、八四三	一、三九三、〇〇四	五、七八、八三九	二、六〇三、三〇八六
九、五七六、九九八	一、八八〇、九六〇	一、六〇〇、九四一	—	七、九九六〇	一、一四、六八九	一、五、六三五	七、六九六、〇三八
八、一七五、〇四〇	一、七六六、〇五五	一、〇九五、〇三三	—	一九七、七八七	二、三九、四三七	一、六、〇六三	六、四〇八、九八五
一、三、六八二、六四二	二、八六四、五四九	一、五四五、七七七	—	五五一、三六九	四、六、五二四	三、三九、三六九	一、〇、八二八、〇九三

南洋南洋總計	小計	英領馬來	英領ボルネオ	蘭領印度	洋
一五、一〇〇、三七八	五八、四三九	一四、二六四	一〇、一六八	一五、八一八	
一七、一六九、一六一	一〇、三二一、三四二	一一四、四二二	三、一九九	六三、三九三	
一〇、三二七、三〇四	一、四九五、七三〇	一三、六五五	二、五三七	七、四九二	
二、一九九、三三五	一、三五八、七四八	三七、七六四	一一、九七三	三七、四九一	
九、九四三、四七六	一、四九五、七三〇	三八五、二二九	五九四	八七、三八二	

参考二
對南洋南洋重要輸出入品數量價額調

(一) 輸出

(1) 昭和八年度
南洋支

品名	廈門		福州		汕頭	廣東	温州	上海	香港	澳門	其他	合計
	數量(斤)	價額(円)	數量(斤)	價額(円)								
芭蕉實	一、三〇五、五九九	三、五〇四、四六	三、三〇五、五九九	四、四〇四、三三								七、九〇九、七九
乾魚	二、七九八、八九	一、四七、九七	九、九五四、六	一、四七、九七	一、二							四、四六、四三
鹹魚	二、七七一、二四四	二、七三、六	一、三八八、〇三	一、三八八、〇三	三、七							二、八八、一三〇
鰵魚	二、二七三、六	二、二七三、六	一、〇九八、六五六	一、〇九八、六五六								三、三七二、一六
乾貝	六、〇三六	六、〇三六	四、八五四、三	四、八五四、三	四、五							一、九、九〇四
乾貝	三、三二、五九九	三、三二、五九九	一、七六、七八五	一、七六、七八五	一、七〇							六、九四、三六
乾貝	二、一八、六九五	二、一八、六九五	六、一四、〇	六、一四、〇	一、九七、九							二、三、一、五五四
乾貝	二、三、八、七〇一	二、三、八、七〇一	二、〇、一、五八	二、〇、一、五八	一、六二、二							五、〇、一、四一
合計												

品名	種類	数量	比律賓		佛領印度支那		暹羅		英領馬來		英領ボルネオ		蘭領印度		合計
			数量	價額	数量	價額	数量	價額	数量	價額	数量	價額	数量	價額	
石炭	炭	噸	八、四〇〇	六九、三〇〇											
其他紙	紙	斤													
板紙	紙	斤													
人參	參	斤													
硫黃	黃	斤													
鳳梨罐詰	詰	打													
龍眼	眼	斤													
粉茶	茶	斤													
紅茶	茶	斤													
包種茶	茶	斤													

南洋

品名	種類	数量	比律賓		佛領印度支那		暹羅		英領馬來		英領ボルネオ		蘭領印度		合計
			数量	價額	数量	價額	数量	價額	数量	價額	数量	價額	数量	價額	
砂糖	糖	斤	四、八〇〇	二六、五〇〇											
殺虫粉	粉	斤	八、三九九	一、八一											
酒精	精	斤	六、八八六	一、一三七											
セメント	ト	斤	四、三〇〇	一、一三三											
石灰	灰	斤	三、五五六	一、八〇七											
絹及絹織物	織物	斤	二、七六四	一、二八六											
毛織物	織物	斤	一、〇七九	四、六三三											
綿織物	織物	斤	二、三五六	九、一八三											
毛糸	糸	斤	三、六三六	一、二八六											
燐寸	寸	斤	七、三二七	一、〇〇九											
輕油	油	斤	三、九三四	四、三三〇											
燈油	油	斤	四、一〇一	一、二八四											
昆布	布	斤	一、三三三	一、〇三三											

品名	数量	價額	地名
粉茶	數量(斤)	價額(円)	比律賓
紅茶	數量(斤)	價額(円)	比律賓
包種茶	數量(斤)	價額(円)	比律賓
蘭領印度	數量(斤)	價額(円)	蘭領印度
英領馬來	數量(斤)	價額(円)	英領馬來
英領不來才	數量(斤)	價額(円)	英領不來才
蘭領印度	數量(斤)	價額(円)	蘭領印度
計			

南洋

品名	數量	價額	地名
砂糖	數量(斤)	價額(円)	廈門
殺虫粉	數量(斤)	價額(円)	福州
酒精	數量(斤)	價額(円)	汕頭
セメント	數量(斤)	價額(円)	廣東
石灰	數量(斤)	價額(円)	汕頭
交織物	數量(碼)	價額(円)	汕頭
絹及絹	數量(碼)	價額(円)	汕頭
毛織物	數量(碼)	價額(円)	汕頭
綿織物	數量(碼)	價額(円)	汕頭

品名	數量	價額	地名
毛糸	數量(斤)	價額(円)	廈門
燐寸	數量(斤)	價額(円)	福州
輕油	數量(斤)	價額(円)	汕頭
燈油	數量(斤)	價額(円)	廣東
昆布	數量(斤)	價額(円)	汕頭
乾貝	數量(斤)	價額(円)	汕頭
鰾魚	數量(斤)	價額(円)	汕頭
乾魚	數量(斤)	價額(円)	汕頭
芭蕉葉	數量(斤)	價額(円)	汕頭
計			

昭和九年度 南洋支

品名	廈門		福州		汕頭		廣東		溫州		上海		香港		澳門		其他		計		
	数量(斤)	價額(円)	数量(斤)	價額(円)	数量(斤)	價額(円)	数量(斤)	價額(円)	数量(斤)	價額(円)	数量(斤)	價額(円)	数量(斤)	價額(円)	数量(斤)	價額(円)	数量(斤)	價額(円)			
茯苓	一七六四	三三三																	一七六四	三三三	
白檀																					
金針菜																					
蒜頭																					
胡椒																					
蚕豆																					
計																					

(口) 昭和九年度
南洋支

品名	鹿角		木材		籐	
	数量(斤)	價額(円)	数量(斤)	價額(円)	数量(斤)	價額(円)
鹿角						
木材						
籐						
計						

品名	石炭		燈油		揮發油		重油		葉煙草		胡椒		胡椒子	
	数量(噸)	價額(円)	数量(噸)	價額(円)	数量(噸)	價額(円)	数量(噸)	價額(円)	数量(斤)	價額(円)	数量(斤)	價額(円)	数量(斤)	價額(円)
石炭														
燈油														
揮發油														
重油														
葉煙草														
胡椒														
胡椒子														
計														

南洋

品名	木		皮		包蓆		錫	
	数量(噸)	價額(円)	数量(噸)	價額(円)	数量(噸)	價額(円)	数量(噸)	價額(円)
木								
皮								
包蓆								
錫								
計								

品名	数量	價額	品名	数量	價額
胡椒子	1斤	1918	胡椒	1斤	1918
葉煙草	1斤	5258	葉煙草	1斤	5258
重油	1斤	2193	重油	1斤	2193
揮發油	1斤	1435	揮發油	1斤	1435
燈油	1斤	4796	燈油	1斤	4796
石炭	1噸	7925	石炭	1噸	7925
藤	1斤	3300	藤	1斤	3300
木材	1斤	1771	木材	1斤	1771
鹿角	1斤	1144	鹿角	1斤	1144
計		1918	計		1918

品名	数量	價額	品名	数量	價額
當歸	1斤	171	當歸	1斤	171
練綿	1斤	51	練綿	1斤	51
黃麻	1斤	447	黃麻	1斤	447
苧麻	1斤	5467	苧麻	1斤	5467
黃麻布	1方碼	2990	黃麻布	1方碼	2990
三葉	1斤	368	三葉	1斤	368
陶磁器	1個	7024	陶磁器	1個	7024
錫	1斤	2183	錫	1斤	2183
包蓆	1枚	640	包蓆	1枚	640
皮革	1斤	9622	皮革	1斤	9622
木材	1斤	1771	木材	1斤	1771
計		171	計		171

南洋

参考一二

對南支南洋將來重要輸出品見込

(一) 本島產輸出品

品目	昭和八年		昭和九年		販路
	生産額	輸出入額	生産額	輸出入額	
洋灰	三八七、一五五	一二〇、五二六	調査未了	二〇五、六九二	販路ヲ開拓シ得ヘキ箇所見込 廈門、福州、汕頭、温州、香港、比律 支那、暹羅、英領馬來、比律、廣、南領印度
石炭	七、六八一、六八九	一、五三三、五四二	調査未了	一、三八七、四七九	廈門、福州、汕頭、温州、上海、香港、比律 廣、英領馬來、暹羅
酒精	五、七五三、〇八五	八、九七三、二	調査未了	一、七、一一二	廈門、福州、上海、香港
芭蕉實	五、七〇二、二〇三	七、九、九一七	調査未了	二〇二、五二七	廈門、福州、上海、香港
砂糖	三、六、六五五、七五五	三、三、五〇五、〇	調査未了	四、八、九七六	廈門、汕頭、上海、香港、澳門
包種茶	一、八〇九、〇三九	一、三、七二、一六四	調査未了	一、八、五九、七五六	暹羅、佛領印度支那、南領印度、英領馬來、比律、廣
紅茶	七、七三、四九六	五、四、六五	調査未了	三、〇、一八四	英領馬來、暹羅、佛領印度支那、比律、廣
粉茶	四、六、四、三、八七	一、一、三、三、二	調査未了	七、九、五、五〇	佛領印度支那、暹羅、英領馬來、南領印度
龍眼	三、三、〇、五、九六	一、八、五、八	調査未了	一、〇、三、三、七	佛領印度支那、暹羅、英領馬來、南領印度

板紙	鳳梨鐘詰
三三六、六六六	六、一七三、二四七
一八、五九七	一、七五九
〃	諸查未了
四、八四四	一、八六六
暹羅、英領馬來、葡領印度	佛領印度支那、暹羅、葡領印度、香港

(二) 本島仲繼輸出品

品目	昭和		昭和		販路
	数量	金額	数量	金額	
乾魚	六八九、二二三	四、四六三、四三〇	四一九、九九九	六、六九九、九五三	廈門、福州、汕頭、上海、香港
鹹魚	一、三三、一七一	一、五五、三六五	七、七八六、三四九	八、二四、八二七	廈門、福州、汕頭、上海、香港
鰯	六九四、三二六	一、九五九、九〇四	一、七三二、七七四	五、四四、五五四	廈門、福州、汕頭、温州、香港、澳門
乾貝	五〇、一四一	三、三一、五三四	一、二一、四一七	四、六三、二一〇	廈門、福州、汕頭、温州、香港、澳門
昆布	三五四、〇六四	一、二六、六六六	一、七六、五七五	六、九八、四八九	廈門、福州、汕頭、温州、香港
燈油	一七六、五五〇	七、二五、一三三	七、六六、四六五	二、〇九、九八三	廈門、福州、汕頭、温州、澳門
輕油	一七七、四九〇	六、六、五七一	一、〇一六、四四〇	三、三〇、六四三	廈門、福州、汕頭、温州、澳門
燐寸	四六四、四九	二、一〇、二四四	一、三九六、三八〇	六、七四、一七九	廈門、福州、汕頭、温州、澳門
毛糸	三、七、一五四	八、二、一九九	六、九、四四八	一、三、七、一二三	廈門、福州、汕頭、温州、澳門

品目	昭和		昭和		販路
	数量	金額	数量	金額	
綿織物	一、六、一八、四三二	三、六三、三二六	四、九、五、四四八	一、〇、五、四、四、五〇	廈門、福州、汕頭、温州、香港、澳門
毛織物	一、四、六、七、七、六	二、四、一、七、七、六	二、一、三、七、五、四	四、五、七、四、三、九	廈門、福州、汕頭、温州、香港、澳門
絹及絹交織物	一、六、六、二、五、一	五、三、〇、九、七	六、八、二、三、三、一	二、二、〇、六、四、二	廈門、福州、汕頭、温州、上海、香港、澳門
殺虫粉	八、五、四、一、〇	六、九、九、五、三	二、五、九、九	八、八、一	廈門、福州
硫黃	一、六、七、〇、〇	一、三、三、六	三、四、一、七、九	一、四、八、二	英領馬來
人参	三、三	四、二、七	五、七、二	四、九、〇、九	佛領印度支那、英領馬來、葡領印度

備考

仲繼輸出品ハ左記ニ依リ行ハル

- (イ) 内地生産品ヲ本島市場ニ貯藏シ更ニ機會ヲ見テ南支南洋ト販引セラル、モノ
- (ロ) 当初ヨリ南支南洋ニ輸出シ目録ヲ以テ内地ヨリ輸出シテ来リ單ニ本島ヲ積替港トシテ輸送セラル、モノ

支		南					區			
合	其	澳	香	廣	汕	厦	福	温	上	海
計	他	門	港	東	頭	門	州	州	海	分
七九九〇、二三三	一〇、九一九		一七四、六三六	八四、二六一	五三、一九七	一四九、三九一	八八、一五九		三八、四六〇	昭 和 七 年
二九七、二八〇	一五七		三八九、〇六五	三三、〇一八	一六九、七九〇	一四八、八四〇	二八、二四八		二六九、六三四	昭 和 八 年
一五三、九五六	一、三三一		三〇四、〇八八	七六、七四四	五七、〇三五	一六三、五三八	二二、八九七		六八三、二五〇	昭 和 九 年
二二〇、七、九六六	一六七		三三三、三五五	三九、三八七	二六八、七五八	四六五、六二六	二七、一五七		三六三、九四四	昭 和 一〇 年
三三三、五五七	三、三三九		六一八、九九六	七九、九八三	九一、四六五	二一五、二一七	三五、二二四		九七三、三三三	昭 和 一〇 年
一五、八五四、四三七	一、一八〇		三七三、六八〇	七四、六六三	二二四、七八八	五五九、〇六六	四八、三八五		五、七四三、六七五	昭 和 一〇 年

参考一三
對南支南洋為替取組高調

合計	航地別									
	蘭領東印度	英領北婆羅洲	英領馬來	暹羅	佛領印度支那	比律賓	葡領澳門	英領香港	中華民國	內地人
一四三〇七九	一三九	一七	一	一三	一	一三	二二	二四	二四	二四
一三〇七九	一一〇	一	一四	一三	四	三	二二	二四	二四	二四
一六四六	一一	一	一	一	一〇	一	二五	二五	二五	二五
一五八三	九九	一〇	三一	一一	七	二	四八	四八	四八	四八
一四〇五九	二二	二	一五	一	三	二〇	二八	二八	二八	二八
一四〇五九	一一九	四	二四	一八	四	三	四五	四五	四五	四五
一八五	一一	三	六	四	一	二〇	二九	二九	二九	二九
一三三	一一七	四	三七	一六	二	四	三三	三三	三三	三三
一三〇	二五	一四	二二	六	三	一七	一八	一八	一八	一八
一三三九	一七五	二	四八	一三	一	一	一五	一五	一五	一五
一三一九	二八	一四	一九	四	三	一九	二〇	二〇	二〇	二〇
一四四八	一五六	四	二七	八	五	四	一四	一四	一四	一四

参考一四
對南支南洋本島人及內地人別渡航渡來數

南支南洋總計	洋					南	暹羅	佛領	比律賓
	合計	其他	蘭領印度	英領北婆羅洲	英領馬來				
一六〇八七	一〇八八	二七〇	七四三	一	四五	二	一	一	
一五八七一	一〇八八	二七〇	七四三	一	四五	二	一	一	
一三〇	一〇八八	二七〇	七四三	一	四五	二	一	一	
一三〇	一〇八八	二七〇	七四三	一	四五	二	一	一	
一三〇	一〇八八	二七〇	七四三	一	四五	二	一	一	
一三〇	一〇八八	二七〇	七四三	一	四五	二	一	一	
一三〇	一〇八八	二七〇	七四三	一	四五	二	一	一	
一三〇	一〇八八	二七〇	七四三	一	四五	二	一	一	
一三〇	一〇八八	二七〇	七四三	一	四五	二	一	一	
一三〇	一〇八八	二七〇	七四三	一	四五	二	一	一	

參照五

文書課外事係事務增加狀況

一、收發文書件數及外國旅券下付數

官房外事課	官房文書係	外事係	官房外事課	官房文書係	外事係
昭 和 九 年	昭 和 八 年	昭 和 七 年	大 正 十 三 年	大 正 十 二 年	大 正 十 一 年
三、二〇四	三、一二六	三、五〇〇	一、八二六	一、七七二	三、〇七一
八、〇三四	八、五六一	五、三八五	二、七九二	三、〇七一	三、〇七一

二、在臺外國人數

大正十二年三月末現在
大正十三年三月末現在
昭和七年三月末現在
昭和八年三月末現在

澳門	九	一	九	八	一三	二一	一一	一	一一
其他	七四	三五	一九九	九四	二六	一一〇	一一五	一	一一五
南支小計	二七三〇	一〇、一九〇	三七、四九四	二九、六五五	一〇、七三〇	三、四〇〇	二九、七五〇	一、五九〇	四、三三四
比律賓	一九六九五	三三一九	七、二八	二、〇三六	二、五二〇	三、四一一	二、〇〇〇	三、六二〇	四、二二六
佛領印度那	三〇七	一五	三三三	二六五	一四	二七九	二四五	一七	二六二
暹羅國	三九	八一	三九〇	二九〇	六九	三九九	三一一	七一	三八二
英領馬來	六、四五四	一、二四	六、五七八	五、八六四	一〇五	五、九六九	五、七三九	一〇四	五、八三三
英領小呂宋	五五三	一	五五三	五八二	六三	六四五	六四〇	五五	六九五
蘭領印度	六、七七五	七、七六	七、五五一	六、八七四	六五五	七、五三九	六、九四九	七、三九	七、六七四
南洋小計	三四、〇九三	一〇、二九	三五、一三三	三四、一九一	九三一	三五、一三三	三四、二七四	九九八	三五、二七二
南支南洋總計	七、六二六	七、六二六	七、六二六	七、六二六	七、五四八	七、五四八	七、五四八	七、六二六	七、六二六

廈門	三六五	七、九五七	八、三三三	三四七	八、三二六	八、六七三	三五三	九、〇〇一	九、三五四
福州	三六三	一、二五九	一、五九八	三三七	一、三三三	一、六八二	三七一	一、四六二	一、八三三
汕頭	一四一	四〇六	五四七	一〇一	四〇三	五〇四	一六	四三六	五五二
廣東	三〇七	六五	三七三	三〇七	七〇	三七七	三〇五	七〇	三七九
溫州	一	一	一	一	一	一	一	一	一
上海	二、四三三	四、四四	三、四六九	二、六七三	五〇八	三、七三三	三、七〇〇	五、七九	三、七、六六
香港	一、八一〇	四八	一、八五八	一、六七五	五二	一、七三三	一、三九七	四二	一、四三九
內地人	一、八一〇	四八	一、八五八	一、六七五	五二	一、七三三	一、三九七	四二	一、四三九
本島人	一、八一〇	四八	一、八五八	一、六七五	五二	一、七三三	一、三九七	四二	一、四三九
計	一、八一〇	四八	一、八五八	一、六七五	五二	一、七三三	一、三九七	四二	一、四三九

(三) 南支那南洋在住邦人救護

中國人	三〇、五〇〇	三、一〇七	四、二、四五七	四、二、〇九八
歐米人	二〇三	二〇三	二〇六	二一三
合計	三〇、七〇三	三、三一〇	四、三、六六三	四、三、三一一

英國領事館
米國領事館

英國領事館
米國領事館

(五) 本島駐在各國領事館
大正十三年

昭和十年

合計	マニラ總領事館	グアム領事館	スラバヤ領事館	バタビヤ總領事館	マニラ領事館	計
一〇	一〇	一	一	一	一〇	一〇
二	二	一	一	一	二	二
三	三	一	一	一	三	三
四	四	一	一	一	四	四
一	一	一	一	一	一	一
二	二	一	一	一	二	二
三	三	一	一	一	三	三
四	四	一	一	一	四	四
六	六	一	一	一	六	六
七	七	一	一	一	七	七
八	八	一	一	一	八	八
九	九	一	一	一	九	九
一〇	一〇	一	一	一	一〇	一〇
一一	一一	一	一	一	一一	一一
一二	一二	一	一	一	一二	一二
一三	一三	一	一	一	一三	一三
一四	一四	一	一	一	一四	一四
一五	一五	一	一	一	一五	一五
一六	一六	一	一	一	一六	一六
一七	一七	一	一	一	一七	一七
一八	一八	一	一	一	一八	一八
一九	一九	一	一	一	一九	一九
二〇	二〇	一	一	一	二〇	二〇
二一	二一	一	一	一	二一	二一
二二	二二	一	一	一	二二	二二
二三	二三	一	一	一	二三	二三
二四	二四	一	一	一	二四	二四
二五	二五	一	一	一	二五	二五
二六	二六	一	一	一	二六	二六
二七	二七	一	一	一	二七	二七
二八	二八	一	一	一	二八	二八
二九	二九	一	一	一	二九	二九
三〇	三〇	一	一	一	三〇	三〇
三一	三一	一	一	一	三一	三一
三二	三二	一	一	一	三二	三二
三三	三三	一	一	一	三三	三三
三四	三四	一	一	一	三四	三四
三五	三五	一	一	一	三五	三五
三六	三六	一	一	一	三六	三六
三七	三七	一	一	一	三七	三七
三八	三八	一	一	一	三八	三八
三九	三九	一	一	一	三九	三九
四〇	四〇	一	一	一	四〇	四〇
四一	四一	一	一	一	四一	四一
四二	四二	一	一	一	四二	四二
四三	四三	一	一	一	四三	四三
四四	四四	一	一	一	四四	四四
四五	四五	一	一	一	四五	四五
四六	四六	一	一	一	四六	四六

外務省	福州總領事館	上海總領事館	廈門領事館	汕頭領事館	廣東總領事館	香港總領事館	河内總領事館	西貢領事館	新嘉坡總領事館	盤谷領事館
六	一九	四	二〇	七	一六	三	一	二	一	一
九	一七	一	一九	二	一	一	一	一	一	一
八	二〇	五	二二	八	一	二	一	一	一	一
二	一八	二	二二	三	一	二	一	一	一	一
九	三三	四	三三	五	二	三	一	一	一	一
二	三三	三	三五	一	二	三	一	一	一	一
七	三八	七	三四	一	二	三	一	一	一	一
四	三〇	五	七〇	五	一	二	一	一	一	一
四	二六	〇	四〇	二	三	三	一	一	一	一
九	四二	二	七九	四	四	三	一	一	一	一

(四) 歐文電報收發件數

大正十三年
大正十三年
昭和七年
昭和八年
昭和九年

南		邦		支		南	
○バタビヤ總領事館	○新嘉坡總領事館	○盤谷總領事館	○西貢總領事館	○海防總領事館	○ダバオ總領事館	○マニラ總領事館	○香港總領事館
○バタビヤ總領事館	○新嘉坡總領事館	○盤谷總領事館	○西貢總領事館	○河内總領事館	○ダバオ總領事館	○マニラ總領事館	○香港總領事館
○蘇州總領事館	○杭州總領事館	○上海總領事館	○廣東總領事館	○汕頭總領事館	○福州總領事館	○廈門總領事館	○南京總領事館
○蘇州總領事館	○杭州總領事館	○上海總領事館	○廣東總領事館	○汕頭總領事館	○福州總領事館	○廈門總領事館	○南京總領事館

大正十三年

昭和十年

(六)南支南洋駐在帝國領事館表

和蘭名譽領事館

和蘭名譽領事館
中華民國總領事館
伊國領事事務官事務所

洋

○スラバヤ領事館
|

○スラバヤ領事館
○メダン領事館

備考

○印ヲ附セル領事館ノ領事ハ本府兼任
事務官又ハ囑託トス

参考

官房文書課外事係沿革

- 一、明治二十八年 總督府總務部ニ外事課設置
- 二、明治三十年 總督府民政局外事課ト改稱
- 三、明治四十二年 總督府總督官房ニ外事課ヲ移管
- 四、大正十三年 總督府總督官房外事課ヲ廢止シ
其ノ事務ヲ文書課ニ併合外事係トシ
現在ニ至ル

右併合當時ノ外事課ノ職員定員
左ノ如シ

課長	翻譯官	一
屬		二
通譯		一
		人

参考七

官房文書課職員事務分掌

文書係

屬 一人

公文書類及成案文書接受並ニ下調ニ関スル事項
分担 官房並ニ各局總括

屬 一人

公文書類及成案文書接受並ニ下調ニ関スル事項
分担 文敎局、財務局、殖産局、專賣局

屬 一人

公文書類及成案文書接受並ニ下調ニ関スル事項
介担 官房警務局、内務局、交通局、

屬 一人

公文書類、淨書並ニ發送ニ関スル事項

屬(兼) 一人

公文書ノ編纂保管及圖書ノ保管ニ関スル事項

屬 一人

府報ニ関スル事項

屬(兼) 一人

他ノ局並官房各課ノ主管ニ屬セサル事項

外事係

翻譯官 一人
通譯 一人

外國人ニ関スル事項
外國文書ノ起草及翻譯通譯ニ関スル事項

屬 一人

渉外事務ニ関スル事項
海外旅行ニ関スル事項
南支南洋ノ情報ニ関スル事項

参考一八

調査課經常部現在職員事務分掌

全般事務

統計官 一人

庶務掛

屬 一人
雇 四人

- 一、文書ノ發受編纂保管ニ関スル事項
- 二、圖書ノ購入保管ニ関スル事項
- 三、人事及會計ニ関スル事項
- 四、其他庶務ニ関スル事項

調査掛

屬 二人
囑託 二人

一、南支南洋其他海外ニ於ケル制度及經濟調査ニ関スル事項
 資源掛 雇 一五人

屬 三人
 雇 四人

一、資源調査法ノ施行ニ関スル事項

二、資源ノ統制運用計畫ノ設定ニ関スル事項

三、軍需工業動員法ノ施行ニ関スル事項

統計掛

屬 三人
 雇 一人

一、臺灣總督府報告例ニ関スル事項

二、臺灣總督府統計書ノ編纂ニ関スル事項

三、人口動態調査ニ関スル事項

四、算定人口ニ関スル事項

五、犯罪統計ニ関スル事項

六、統計ノ監督ニ関スル事項

七、其他統計ニ関スル事項

中興丸	第隆海丸	海運丸	順華丸	被拿捕船名
楊高漢 雄市	張永福 基隆市	林成 高雄市	蔡鄭 台北市	所有者名
四五七 二七	一四一 七	三〇一 一	一三一 七	總噸數
高雄	基隆	高雄	基隆	船籍港
昭和八年 六月四日	昭和八年 四月七日	昭和八年 三月二十七日	昭和七年 十一月五日	被拿捕年月日
密輸出	密輸	密輸	密輸	理由
由 場	由 場	由 場	由 場	上同
東定島燈 台東南 一哩	厦門港 六哩	厦門港 約三哩 定島東南	福州河口 八哩	貨物種類
白砂糖 四〇袋 價格 五五〇円	砂糖 六一屯	砂糖 五五九円	砂糖 三六〇 價格	結 果
船体價格 六〇〇〇円	船体價格 七〇〇〇円	船体價格 五〇〇〇円	船体價格 四〇〇〇円	其他

(一) 本島置籍船舶

(自昭和七年
至昭和九年) 調

参考一九
支那官憲ニ拿捕セラレタル船舶

順益號	華南號	金突源號	突南丸	隆和號	金義順	義成號
莊捷輝 基隆市	黃板南 基隆市	曾捷輝 基隆市	林成 高雄市	蘇添進 台北	陳清山 馬公	莊曉南 台南
五〇七	三〇七	四〇六	七〇五	一〇二	二〇四	一〇九
〃	〃	廈門	不	廈門	支那 東山港	廈門
昭和八年 四月六日	昭和八年 三月十五日	昭和八年 二月二十日	昭和七年 十二月十日	昭和七年 十一月十日	昭和七年 十一月二十日	昭和七年 十一月二十日
密輸 スルヲ發見	〃	疑輸	密輸	〃	疑輸	密輸
與北東湖 沿岸	基隆 百理福州 トノ中間	與化 海内	汕頭 西南約 一五哩 一小島	福州 河口 沖合 〇哩	東山港 約 五哩 東方一五 哩 地真 樁	福州 河口 沖合 〇哩
砂糖 四八七	砂糖 二三七	砂糖 三八七	白糖 六一〇 價格 八三八円	砂糖 七九七	砂糖 三三六 石 六四〇出 樁 六六〇斤	砂糖 二二〇 價格 二二〇円
〃	船貸 共没收	船貸 共没收	〃	〃	〃	船貸 共没收
貨物 支那人 所有	同 右	貨物 支那人 所有	船貸 共没收	船貸 共没收	船貸 共没收	船貸 共没收

同安丸	寶聚號	南侯號	進南丸	泉利號	泉第	第
何鳴琴 高雄市	支那人 蕃信登	黃有土 台北	林成 高雄	〃	葉隆	葉隆
五三七	二五七	三二七	四二七	五三六	五三九	五三九
汕頭	福州	廈門	不	温	〃	〃
昭和七年 十月十五日	昭和七年 九月十六日	昭和七年 九月十日	昭和七年 八月二十日	昭和七年 七月五日	昭和七年 七月四日	昭和七年 七月四日
密輸	〃	密輸	密輸	〃	疑輸	密輸
藍島 約一哩	與化 福州 沖合 〇哩	汕頭 沖合 〇哩	南澎 列島 燈台 北	泉州 沖合 〇哩	福州 沖合 四哩	福州 沖合 四哩
白砂糖 三四袋 價格 三七六円	〃	砂糖 三〇七	白砂糖 四〇袋 價格 四〇八円	〃	砂糖 五〇七	砂糖 五〇七
船貸 共没收	船貸 共没收	〃	〃	〃	船貸 共没收	船貸 共没收
船貸 共没收	船貸 共没收	船貸 共没收	船貸 共没收	船貸 共没收	船貸 共没收	船貸 共没收

(一) 参考船舶

(自昭和七年
至昭和九年調)

利川號	新隆號	天龍丸	東瀛丸	東慶丸	應隆號	慶安丸	辛亥丸	南海號	南通丸	萬盛丸	茅二丸	華安丸	鹿港丸	金和興
蕭成聲	蕭成聲	陳有明	楊東波	楊東波	楊東波	楊東波	高成	葉御	木村常節	薛波	楊漢	柯子昆	金鐘	支那人
五七四	六七六	五八九	五九〇	五九〇	四九八	五八七	六八七	五五七	三四七	三六七	四七〇	七〇九	不詳	不詳
昭和八年	昭和八年	昭和九年	昭和九年	昭和九年	昭和八年	昭和八年	昭和八年	昭和八年	昭和八年	昭和八年	昭和八年	昭和八年	昭和八年	昭和八年
疑	疑	疑	疑	疑	疑	疑	疑	疑	疑	疑	疑	疑	疑	疑
三理神合	同上	三理神合	三理神合	三理神合	三理神合	三理神合	三理神合	三理神合	三理神合	三理神合	三理神合	三理神合	三理神合	三理神合
五七四	五九七	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
船貨共	船貨共	船貨共	船貨共	船貨共	船貨共	船貨共	船貨共	船貨共	船貨共	船貨共	船貨共	船貨共	船貨共	船貨共
人所有	人所有	人所有	人所有	人所有	人所有	人所有	人所有	人所有	人所有	人所有	人所有	人所有	人所有	人所有

利川號	新隆號	天龍丸	東瀛丸	東慶丸	應隆號	慶安丸
蕭成聲 支那人 在基隆	基隆 支那人 在基隆	陳有明 支那人	楊東波 支那人	支那人 在基隆	基隆 支那人 在基隆	林發 支那人
五九七四	六〇七六	五八一九	五二五〇	五二七〇	四九七八	五八七〇
廈門	廈門	廈門	廈門	廈門	廈門	廈門
昭和八年 九月十四日	昭和八年 四月十四日	昭和九年 四月十二日	昭和九年 一月十七日	昭和八年 十月二二日	昭和八年 十月四日	昭和八年 九月十四日
疑輸						疑輸
廈門港附近						
白糖 三〇〇袋 價格 五二四〇円	白糖 三〇〇袋 價格 四九五〇円	白糖 三〇〇袋 價格 四九〇〇円	白糖 三〇〇袋 價格 四九〇〇円	白糖 三〇〇袋 價格 四九〇〇円	白糖 三〇〇袋 價格 四九〇〇円	白糖 三〇〇袋 價格 四九〇〇円
船貨共収	船貨共収	船貨共収	船貨共収	船貨共収	船貨共収	船貨共収
船貨共本島 人共同出資 船体三〇〇円	船貨共本島 人共同出資 船体三〇〇円	船貨共本島 人共同出資 船体三〇〇円	船貨共本島 人共同出資 船体三〇〇円	船貨共本島 人共同出資 船体三〇〇円	船貨共本島 人共同出資 船体三〇〇円	船貨共本島 人共同出資 船体三〇〇円

幸兵丸	南海號	南通丸	萬盛丸	華兵丸	鹿港丸	金和興
林成 高雄市	葉基隆 高雄市	木村常節 高雄市	薛波 高雄市	楊漢 高雄市	柯子昆 高雄市	金鐘 支那人
六八七九	五五七〇	三四三七	三六二七	四七七〇	七〇九〇	不詳
廈門	廈門	廈門	廈門	廈門	廈門	廈門
昭和八年 八月二十六日	昭和八年 八月十日	昭和八年 七月二十七日	昭和八年 七月六日	昭和八年 五月十一日	昭和八年 四月二十六日	昭和八年 四月十日
疑輸	疑輸					疑輸
汕頭港外	廈門港口	南澎湖列 島三〇理 洋	全門島 約一理 洋	南澎湖列 島三〇理 洋	南澎湖列 島三〇理 洋	南澎湖列 島三〇理 洋
白糖 三〇〇袋 價格 五二四〇円	白糖 三〇〇袋 價格 四九〇〇円	白糖 三〇〇袋 價格 四九〇〇円	白糖 三〇〇袋 價格 四九〇〇円	白糖 三〇〇袋 價格 四九〇〇円	白糖 三〇〇袋 價格 四九〇〇円	白糖 三〇〇袋 價格 四九〇〇円
船貨共収	船貨共収	船貨共収	船貨共収	船貨共収	船貨共収	船貨共収
船貨共本島 人共同出資 船体三〇〇円	船貨共本島 人共同出資 船体三〇〇円	船貨共本島 人共同出資 船体三〇〇円	船貨共本島 人共同出資 船体三〇〇円	船貨共本島 人共同出資 船体三〇〇円	船貨共本島 人共同出資 船体三〇〇円	船貨共本島 人共同出資 船体三〇〇円

福榮	福利丸	東南丸	公興	東榮丸	劉慶齋	第五南興
基隆 自商店	張永輕 支那人	曾謀耀 支那人	基隆市 東興商行	楊東波 支那人	基隆市 東裕商行	基隆市 自商店
一〇七五	三二七三	六四七五	一五七	五八七	一五七〇	三二七
〃	〃	廈門	福州	〃	廈門	溫州
九月十四日	九月一日	八月十四日	七月三十日	七月二十日	七月十四日	昭和九年七月五日
〃	〃	密砂	密砂	〃	〃	密砂
〃	〃	輸糖	輸糖	〃	〃	輸糖
豐安縣山 豐安縣山 豐安縣山	廈門汕頭 廈門汕頭 廈門汕頭	澎湖島西島 澎湖島西島 澎湖島西島	惠安縣山 惠安縣山 惠安縣山	廈門距離 廈門距離 廈門距離	福州縣海 福州縣海 福州縣海	泉州沖 泉州沖 泉州沖
砂糖外雜貨 一五七	白糖三三〇斤 白糖三三〇斤 白糖三三〇斤	白糖三七〇斤 白糖三七〇斤 白糖三七〇斤	空船	白糖三五〇斤 白糖三五〇斤 白糖三五〇斤	砂糖 石油 二〇七	砂糖外雜貨 三〇七
船貨 沒收	船體 沒收	船貨共 沒收	〃	船體 沒收	船貨共 沒收	船貨共 沒收
船 六〇〇〇円	本島人所有	船貨共本島 人所有	船體 一五〇〇円	船體四〇〇円 本島人楊漢 十共有	船貨共 三七八〇円	

東榮丸	東耀丸	第一丸	第三丸	福興號	新德隆號	新德興號	長栄號
基隆市 自商店	張帆影 支那人	陳基白 支那人	支那人	基隆市 共進商會	同上	基隆市 昇隆公司	基隆市 葉獅
二九七四	二九八四	五二七六	〃	三〇七	四〇七	五九七	九〇七
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	廈門
昭和九年六月十八日	昭和九年六月十三日	昭和九年五月十四日	昭和九年五月十四日	昭和九年五月十七日	昭和九年五月十七日	昭和九年五月十三日	昭和九年四月二十六日
密砂	物類及海產 物類輸糖	密砂	密砂	密輸	〃	〃	密輸
廈門沖	澎湖縣海 島嶼北西面 八哩地長	汕頭沖	〃	〃	〃	清洲灣内	南島沖 二〇哩南方 沖合
白糖 肥料 三三〇斤	白糖 肥料 三三〇斤	白糖 肥料 三三〇斤	白糖 肥料 三三〇斤	白糖 肥料 三三〇斤	白糖 肥料 三三〇斤	白糖 肥料 三三〇斤	白糖 肥料 三三〇斤
〃	船貨共 沒收	船貨共 沒收	船貨共 沒收	船貨共 沒收	船貨共 沒收	船貨共 沒收	船貨共 沒收
船體 六〇〇〇円	船體 六〇〇〇円	船體 六〇〇〇円	船體 六〇〇〇円	船體 六〇〇〇円	船體 六〇〇〇円	船體 六〇〇〇円	船體 六〇〇〇円

南雄	振華丸	東華丸	海運丸	金合栄
台北 美聯汽船行	黄存理	楊文波	支那人 林祥允	基隆 昇隆公司
三一七	二四七八五	三二七	一三〇七	五〇七三
汕頭			厦門	福州
十一月十四日	十月十二日	十月廿九日	九月十六日	九月七日
雜貨密輸	砂糖密輸	密輸		
汕頭沖 四〇哩	厦門東南 五〇哩	厦門港内	厦門東南 方〇哩	新竹白沙岬 二五哩
雜貨 二九七	白糖二〇〇俵 (三五四〇俵)	白糖三〇〇俵 及石神人絹 (八〇〇俵)	白糖四一〇俵 (去二〇七月)	砂糖外雜貨 二五七
			船貨共 没收	
船貨共 一〇〇〇俵	船体三〇〇俵 本島に引下 り共計	船体三〇〇俵 本島に引下 り共計	船体三〇〇俵 本島に引下 り共計	船

備考

参考船舶八本島置籍船舶ニ非サルモ當テ本島籍ヲ有セシモノガ之ヲ削除シ支那籍ト爲シテ事
實上島人所有或ハ台支人共有關係ニアリモノ其他在台支那人所有モノ等ナリ

参考二〇

米國官憲ニ拿捕其他事故船舶

(自昭和七年
至昭和九年調)

豐利丸	福徳丸	茅成田丸	茅高成丸	宝松丸	船名
一六七	七三九	二八七	四五七	一四七	種也
高雄	沖			高雄	船籍
高	沖			高	籍所
高雄	沖			高雄	所有者
高雄市南端船塢在 四港 黄文善	使用ニキルモノ トシテ四割金百七二俵トナル	田村廣吉	王次	大橋全輔松	船名
呂宋西海上ニ於テ 宋島西海岸ニ在リテ 八艘破サレ船隻ハ擱淺ス	昭和九年七月十七日呂宋西岸ニ坐礁全地トシテ救助ニキル	昭和九年七月十七日呂宋西岸ニ坐礁全地トシテ救助ニキル	昭和九年七月十七日呂宋西岸ニ坐礁全地トシテ救助ニキル	昭和九年七月十七日呂宋西岸ニ坐礁全地トシテ救助ニキル	種也
					船籍
					籍所
					所有者

参考二一

海賊拿捕其他被害船舶

自昭和七年調

船名	船種	吨数	船籍	所有者	状
應順彌	全進丸	四九七	福州	高村留藏	昭和七年六月三十日基隆出帆多灣海峽附近ニ底曳網漁撈中七月五日午後三時頃支那海賊ニ拿捕ナル被害八魚三百箱約二十内漢具網一張約三百円米四依外船員ノ船具等約五百円死傷三名 昭和七年十月八日基隆ヨリ砂糖外雜貨四十一噸ヲ積ミ福州ヘ向ケ出帆セルカ福建省長樂縣海花沖ニ於テ海賊ニ襲ハレ船体ヲ柳葉ニ帰台被害船体其他船員所持品旅費等合計六、二〇〇円
	茶勤機船	四三三	基隆	株式會社 林兼商店 基隆支店所屬	

附

英國官憲ニ拿捕セラレタルモノ

吉國丸	船種	吨数	船籍	所有者	状
吉國丸	發動機船	三七七	基隆	河井良平	昭和九年九月十五日高嶺良及夜光貝採取漁業ノ目的ヨリ領海ニ出帆スル中群島附近ニ於テ巡捕中不意ニ英艦ニ拿捕セラル。英國警備船ニ拿捕セラレ移民船達及外島諸島ノ罪名ノ下罰金一六三、〇〇〇円日本金約二万四、三〇〇円金、多捕不能ノ船体沒收人船長六ケ月、改禁ニシテレタリ。損害額約一万二千円。
第五海運丸	發動機船	二五三八	澎湖廳	高嶺市新設	昭和九年九月十日比律濱領海内ニ于テ現職ノ當道中比島監視船ニ密着現行ヲ發見サレ船ヲハバフク島巡捕ヲ命ゼラル。船長以下乗組員八船、没收處分ヲ受シ逃スルコトニ決シ合艦監視中比島巡警隊員ヲ襲ヒ武器ヲ奪ヒ海中ニ投ジテ逃スル。縛ル上自船ニ集セラル。逃走翌日附近小島ニ停泊。船員等七停泊シ高嶺ニ帰港ス。事件在亦和米國大使ヨリ日米犯罪人引渡條約ニ依リ犯人引渡ヲ要求シ未リタルニ時既ニ三島南端比島監視船ニ於テ審理中ナリシヲ以テ其ノ儘審理ヲ續行シ全部金罰ニ於テ船長ハ徵役二年機關長水天長ハ徵役一年其外三船員モ天々判決アリタリ

第二 專任衛生課長設置ノ爲事務官一人増員

本島衛生状態ハ最近著シク改善セラレ往時ニ比シ隔世ノ觀アリト雖モ今日ノ現状ハ未タ完璧ト言フヲ得ス即チ

一 先ツ流行病 風土病ニ付テ見ルニ一衣帶水ノ對岸支那及南洋諸島ニハ常ニ流行病發生シ曾テ本島ニトモストレトコレラレ大流行シ一年間各患者四千五百人死者三千五百人ニ及ヒタル慘禍ハ何レモ彼地ヨリノ傳播ニ基クモノニシテトベストレハ近來全然其ノ跡ヲ絶チタルモトコレラレハ近クハ昭和七年對岸泉州ヨリ輸入セラレタリト痘瘡モ亦對岸ヨリ輸入セラレ毎年之カ發生ヲ見ル状態ナリ流行性腦脊髓膜炎ハ大正七年以來毎年發生シ時ニ大流行ヲ來シ未タ本島

ヨリ懸遂スルヲ得ス一層之ニ對スル方策ヲ講スルヲ
要シ「腸チフス」亦近年千人内外ノ患者各地ニ發生
シ地方病化スルノ状態ナルヲ以テ之ニ對スル調査研
究ヲ爲スト共ニ地方廳ヲ指導啓發シ更ニ一段ノ督勵ヲ爲
スヘキナリ「マラリア」ハ所謂本島ノ癩ニシテ村落
地方殊ニ山地帯ニハ尚多ク存シ全島百六十箇所ヲ
「マラリア」防遏施行地トシテ投藥、地物整理等ヲ
爲シ防遏ヲ爲シツツアリテ之カ根絶ハ將來ノ重要問
題タリ

以上各種傳染病ハ近來本島海外貿易ノ進歩著シク對
岸、南洋、印度ノ各地方トノ交通頻繁トナルニ伴ヒ
傳染病侵入ノ危險著シク増大セラルルヲ以テ海港檢
疫機關ノ擴充ヲ計リ檢疫ノ徹底ヲ期シ一面常ニ海外

ノ衛生狀況ヲ明ニシ適當ナル對策ヲ講セサルヘカラ
ス即チ當府派遣技師ニシテ博愛會醫院職員ヲ兼スル
者ヲシテ常ニ其ノ情報ヲ爲サシメ本島自衛ニ資スル
等注意監督ヲ爲スヲ要スル所以ナリ

ニ、本島ニ於ケル阿片煙膏吸食ノ陋習打破ハ世界ニ誇ル
ヘキ功績ヲ擧ゲツツアルモ今尚對岸ヨリノ密輸入及
無免許密吸食ノ弊風止マズ癮癖矯正ノ爲更生院ヲ繼
續シテ行政的強制治療ヲ行ヒツツアリ將來本島ヨリ
阿片ヲ一掃スルハ尚相當ノ努力ヲ要スル所ナリ又近
來麻藥濫用ノ結果中毒ニ陥ル者増加ノ微アリ其ノ取
締ニハ一段ノ努力ヲ要シ而モ阿片麻藥ノ取締ハ國際
問題トシテ條約上種々ノ制限アリテ國策ニ關スルヲ
以テ慎重ナルヲ要ス

三、更ニ最モ嫌疑セラルル癩、結核、トラホーム、寄生蟲、花柳病及公安ニ危険ヲ及ボス精神病等ハ社會問題的疾病ニシテ其ノ性質上國家事業ニ屬シ多數ノ患者及ヒ疾病漸増ノ徵候アル現狀ヨリ見ルモ此全般の解決策ノ樹立實行ハ重大ナル事項ナリトス

四、以上ノ外積極的ニ島民保健向上ノ爲居住ニ關スル家屋ノ構造、都市計畫、公園等ノ問題、危険ナル飲食物ノ取締其ノ他國民保健上熱帶地トシテ特殊ナル調査研究ニ基キ國家トシテ一段ノ施設ヲ要スルモノアリ又醫師、齒科醫師、藥劑師等ニ付テハ未タ全島ニ分布十分ナラサルヲ以テ之カ普及ト向上トヲ圖リ以テ一般民衆ヲシテ適ク醫療行爲ノ恩惠ニ浴セシムルヲ要シ將來ノ本島衛生政策ハ是ニ重要ナルモノアリ

斯ノ如キハ何レモ單ナル技術的ノ問題ニ非スシテ常ニ社會ノ情勢ニ依リテ變轉シ而モ必ス人民ノ權利義務ニ直接關係スルモノナルヲ以テ法規ノ運用制定變改等ニ依ツテ時代ニ順應シテ衛生行政ノ適正ヲ得、キハ言フ俟タス況ンヤ百二十萬圓ヲ擁スル全島十二官立醫院、六萬圓ノ癩療養所、三萬五千圓ノ結核療養所、五萬五千圓ノ精神病院ニ對シ適切ナル經營監督ヲ必要トスルノ外地方廳及市街庄ニ對スル衛生行政ノ指導監督、諸種ノ取締等衛生事務ノ繁激複雜ナルハ枚擧ニ遑アラサルナリ然ルニ大正十三年行政整理以降警務局衛生課長ニハ兼任職員ナク已ムヲ得又一時警務局警務課長又ハ總督府警察官及司獄官練習所教官ヲシテ兼務セシムルノ外昭和四年十二月以降ハ昭和三年七月増置ノ總督府部内臨

時職員設置制ニ依ル高等警察ニ關スル事務ニ從事スル
警務局保安課勤務ノ事務官二人中ノ一人ヲ兼務セ
シメ今日ニ至レル處本府衛生行政ノ重要ニシテ繁激ナ
ルコト上述ノ如ク殊ニ近時帝國ノ國運愈々進展シ南方
政策ノ高唱セラレ國民南方發展ノ基本タル衛生施設ノ
充實ヲ圖ルヘキ時ニ際シ衛生課長ヲ永ク兼務者ヲ以テ
充當スルカ如キハ甚タ遺憾トスル所ナリ且高等警察事
務ニ付テ見ルモ近ク改正地方制度ニ伴フ地方選舉制度
實施セララルルノ結果ハ高等警察事務ノ全般的數増ヲ豫
想セララルルノ外日支事變後對岸ヨリ輸入セラルル排日
、侮日其ノ他内容不穩ノ新聞紙、雜誌等ノ出版物逐年
數増ノ趨勢ニ在ルノミナラス地方選舉制度實施ニ伴フ
要取締出版物愈々増加シ圖書檢閱事務ノ重要性ヲ加重

スルニ至ルヘク此ノ方面ヨリスルモ現状ノ儘推移スル
ヲ許サザルナリ依テ此ノ際專任衛生課長ニ充ツヘキ事
務官一人ヲ増員シ從來兼務衛生課長ニ充當セル高等警
察ニ從事スヘキ事務官ハ專ラ保安課圖書檢閱事務ヲ主
宰セシメ以テ衛生行政ノ刷新發展ヲ圖ルト共ニ高等警
察事務特ニ圖書檢閱事務ノ充實ヲ期セントス

参考一

警務局衛生課各職員事務分掌

保健掛

技師	技師	技師
技師	技師	技師
技師	技師	技師

- 一 飲食物其他榮養ニ関スル事項
- 二 上水下水及市區港灣ノ衛生計畫ニ関スル事項
- 三 汚物掃除其他清潔保持ニ関スル事項
- 四 家屋建築ノ衛生ニ関スル事項
- 五 公園鑛泉場水浴場等ニ関スル事項
- 六 阿片及麻藥ニ関スル事項
- 七 保健衛生調査ニ関スル事項
- 八 衛生統計ニ関スル事項
- 九 其他保健衛生ニ関スル事項

豫防掛

技師 一人
属 (配付外) 一人

- 一 結核、癩、花柳病、トナホム 其ノ他慢性傳染病ニ関スル事項
- 二 寄生蟲病及地方病 (マラリアヲ除ク) ニ関スル事項
- 三 精神病ニ関スル事項

防疫掛

保健掛技師兼 一人
属 一人

- 一 急性傳染病ニ関スル事項
- 二 海港檢疫ニ関スル事項
- 三 航空檢疫ニ関スル事項
- 四 マラリアニ関スル事項
- 五 痘苗、血清、其ノ他細菌學的豫防治療品ニ関スル事項

醫務掛

豫防掛技師兼 一人
属 一人
兼属 一人

- 一 醫師、醫生、齒科醫師、產婆及療属ニ関スル事項
- 二 藥劑師、製藥者及藥種商ニ関スル事項
- 三 藥品、賣藥及賣藥類似品ニ関スル事項
- 四 毒物、劇物、其ノ他有害物ニ関スル事項
- 五 濟生會、其ノ他救療ニ関スル事項
- 六 其ノ他醫藥行政ニ関スル事項
- 七 總督府立醫院及港務部ニ関スル事項
- 八 南支南洋ノ衛生施設ニ関スル事項
- 九 豫算ニ関スル事項
- 〇 他掛ノ所管ニ属セサル事項

参考二

傳染病患者及死亡調

痘		パラチフス		腸チフス		赤痢		コレラ		種別
患者	死亡者	患者	死亡者	患者	死亡者	患者	死亡者	患者	死亡者	
	二	八	七三	二四三	九八三	三四	二四一	一	一	昭和六年
八	六一	二六	一〇〇	二二三	九八五	三二	三二四	六	一六	昭和七年
一	一	八	三〇	二四六	一〇三六	三四	二四七			昭和八年
				三〇一	一六六二	三六	二一七			昭和九年

花柳病	精神病		肺結核		癩		脊髄膜炎	流行性腦	ヂフテリア		猩紅熱	
	患者	死亡	患者	死亡	患者	死亡			患者	死亡	患者	死亡
患者 一、二、一、四、七			患者 二、八、五、九	死亡 九、九、三	患者 七、二、五、二	死亡 七、二、五、二	患者 一、〇、八、四	患者 一、〇	患者 一、〇、四	患者 四、四、〇	患者 四	患者 五、八
患者 一、三、一、九、〇				患者 一、〇、六、七	患者 七、四、五、〇		患者 七	患者 一、〇	患者 八、八	患者 五、二、三	患者 一	患者 五、七
患者 一、四、八、三、七				患者 一、〇、九、四	患者 七、六、一、三		患者 一、八	患者 二、一	患者 一、〇、一	患者 六、二、八		患者 五、九
			患者 三、三、一、二				患者 一、六、七	患者 二、七、二	患者 一、四、一	患者 八、三、二	患者 一、二	患者 四、一、八

トラホーム		
患者	死亡	死亡
患者 三、二、八、五、六		死亡 九、五
患者 三、二、二、八、六		死亡 九、九
患者 三、六、五、六、九、四、二		死亡 一、四、一

備考
 一、癩及精神病患者ハ警察官ニ於テ調査シ肺結核
 花柳病及トラホーム患者ハ官立醫院及公醫ニ於テ取
 扱ヒタルモノトス

参考三

マラリア防遏施行成績

備考

州廳別	昭和六年		昭和七年		昭和八年	
	検血人員	原虫保有者百分比	検血人員	原虫保有者百分比	検血人員	原虫保有者百分比
臺北	三四〇、〇五二	三九八七	一、一七	三七九、五六六	三、〇七八	〇、八一
新竹	九七九九〇	一、六四六	一、六八	一、二〇、〇九四	一、二六四	〇、九七
臺中	三二五、三九〇	六、一〇	一、九五	三七六、四一四	一、六〇、二九	三、二〇
臺南	七九、三九五	一、四九一	一、六〇	六五、三六六	二、一四〇、三	三、三七
高雄	三八、三六八	七、八〇〇	二、〇三	三九、〇一六	一、四一五、〇	三、六三
臺東	一、三二、六八二	四、四九五	五、三九	一、三九、八七六	七、五一八	五、三七
花蓮港	二八、八九五	七、六九八	六、六七	三、三五、四四一	六、七六六	六、三九
澎湖	三、四八九八	一、〇二	〇、二九	三、五六四七	五、七	〇、一六
計	三、三、五五三	四、四、三二九	一、八八	二、四、三、七四〇	六、七、三、六五	六、七、七
					六、四、四、六九〇	七、二、一、一二
						六、九、五

マリアア防遏施行箇所臺北州二四新竹州一四臺中州一七、臺南州三五、高雄州一五、臺東廳二二、花蓮港廳三九、澎湖廳ナシ計一六六箇所

參考四

阿片及麻藥諸統計

種別	昭和六年	昭和七年	昭和八年
阿片烟膏吸食特許者	二一、五一〇人	一九、七二三人	一七、九九一人
阿片烟膏消費數量	五三、二一八 _K	二七、四一八 _K	二六、八七八 _K
阿片諸營業者	五二 _X 人	五二〇人	五〇一人
阿片癮者矯正完了者	四七、七 _X 人	四一、二四 _X 人	四一、六五 _X 人
阿片密吸食違反	六八〇 _件	一、一四五 _件	一、一四一 _件
阿片不正取引	六九四 _件	一、二一七 _件	一、三四六 _件
阿片沒收數量	四七〇 _K	三〇八 _K	一一六 _K
麻藥不正取引	一六五 _件	二六〇 _件	二二 _X 件
麻藥沒收數量		七 _K 五九一 _g	二〇三 _g
麻藥中毒者治療數	六四 _X 人	三 _X 七九 _X 人	八四 _X 人

計	醫師					私立醫院	公立醫院	官立		種別	單位	現前 在年未	年未			計	
	開業	公醫	公立醫院奉職	官廳奉職	官立醫院奉職			療養所	醫院				内地人	本島人	外國人		
一四〇五	九六五	二二三	三〇	三三	一四二	一六四	一八	二	二	二	二	四八二	二〇八	一二七	七九八	一一	一四六六
四八二	二〇八	一一四	一八	三一	一一一	一〇一	二〇	二	二	二	二	九七三	七九八	一二七	七九八	一一	一四一七
一一	一一	一	一	一	一	三	一	一	一	一	一	二	二	一	二	二	二四一
一四六六	一四一七	二四一	二四	三三	一五一	一七七	二〇	二	二	二	二	一四六六	一四一七	二四一	一四一七	二	二四一

参考九
衛生警察上主要取締營業者（昭和八年末）

麻藥中毒者檢舉數
八八件
一〇四件

製	藥		製	賣	賣	賣	市	屠	阿片煙膏元賣捌人	阿片煙膏小賣人	阿片煙膏吸食器具製造	阿片煙膏吸食器具販賣人
	者	商										
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
二〇	三〇九	三〇九	二七四九	九三九	五九五三	五四五二	二六〇	九〇二	五四	四三二	七	一八
一九	一七九	一七九	一九六	一六六	八一〇	二九四	一一二	七五九	二	九	一	一
二	一三五	一三五	二五〇六	九〇六	五九五六	五九九二	一六四	一一八	四九	四三三	六	一八
一	一	一	一	一	二八	三	一	一	一	一	一	一
二一	三一四	三一四	三三九八	一〇七三	六七九四	六二八九	二七六	八八七	五一	四四二	六	一九

醫	齒科	醫師	產	看	藥劑師			計	計	計	計	計
					護	婦	婆					
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
三〇五	六	二	九六四	七八	三二	一九	五	六七	一三三	二二八	二二〇	二二〇
一	六	一	三六九	四九	三九	一七	四	四九	一〇九	一三八	一三八	一三八
二八一	一	一	六六二	一一	一一	一一	一	二七	二七	一一四	一一四	一一四
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二八一	六	一	一〇三一	六〇	三九	一七	四	七六	一三六	二六一	二五二	二六一

費目	經常費									
	衛生諸費	汚物掃除費	水道費	尿尿處分費	清掃費	撒水費	傳染病院費	マリア防過費	傳染病豫防費	公醫費
昭和五年度	二一八、三六一	五四、二七五七	一八一、二四七			五三、一九〇	六四、二二三	一四七、三一五	三〇三、四二四	一〇一、八六二
同 六年度	二八七、二二七	三二、八八一八	七五、五二一	一一七、一七九	一一八、四四二	二三、三七九	五九、三二七	一五、四六二	三四三、二一七	一〇一、七七四
同 七年度	二七、三九九三	三八、二七五四	五四、九二三	一二九、六二六	一〇一、五一九	二五、八五一	五七、八〇七	一一、三〇六二	三九二、一八〇	一〇三、三七一

参考六

州市街庄衛生費

藥用阿片元賣捌人	同								
		九	二						一一

年度	年度別分	
	經常部	臨時部
大正十四年度		
昭和元年度	一、一八五、四五〇	五八〇、九一一
昭和二年度	一、一八五、四五〇	五八〇、九一一
昭和三年度	一、一八五、四五〇	五八〇、九一一
昭和四年度	一、三二六、二七九	六八一、九〇四
昭和五年度	一、四三八、二九九	八一四、三七〇
昭和六年度	一、四〇六、三二七	八〇〇、二六八
昭和七年度		
昭和八年度		
昭和九年度		
昭和十年度		
計	一、七二六、九〇八	一、七九五、四七三

参考七

衛生課主管ノ諸經費豫算

合計	臨時費			
	衛生諸費	マラリア防遏費	傳染病豫防費	計
二、四九三、〇三八	八八〇、七五九	六〇九、八七八	一、四二四、六	一、六〇二、二七九
二、三六九、二七七	七六七、〇三一	四九二、九六九	一、一四八、六	一、六〇二、二四六
二、三九九、九二九	七六四、八四三	四九八、九〇三	一、三九三、三	一、六三九、〇八六

昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年	大正十三年	年 別 分
六	五	五	五	五	五	五	五	五	日 刊
六	六	七	五	五	三	一	一	一	週 刊
一	一	一	二	二	一	一	一	一	旬 刊
三	四	三	三	二	二	二	一	一	半 月 刊
一 九	二 〇	一 四	一 四	一 四	一 五	一 五	一 三	一 三	月 刊
二	一	一	二	一	一	一	一	一	隔 月 刊
二									不 定 期 外 刊
三 八	三 六	三 〇	三 一	二 九	二 五	二 三	二 一	二 一	計

(1) 島内發行新聞紙(有保證)各年別一覽表

(昭和九年六月末現在)

圖書檢閲狀況

参考八

計	新聞紙			區分
	外國	内地	島内	
一三、四〇五	一〇、五五七	四七〇	二、三七八	昭和四年 檢閲處分
一三、三八八	八九四	四七〇	二四	昭和五年 檢閲處分
二七、六〇九	一五、四二七	九、六七四	二、五〇八	昭和六年 檢閲處分
一〇、七二二	四九三	五四五	三二	昭和七年 檢閲處分
三六、四五九	二六、五二二	一〇、四二八	二、五一九	昭和八年 檢閲處分
二九、七七七	二、六八八	六、九三三	一、六	昭和九年 檢閲處分
三一、一一〇	一五、二二三	一三、〇五五	二、八二二	昭和十年 檢閲處分
四七、〇三三	三七、七五五	九、六六六	二、一	昭和十一年 檢閲處分
三〇、一七二	一三、四三一	一五、六七四	三、〇六七	昭和十二年 檢閲處分
四一、三三三	三、一八三	九、二一	二、九	昭和十三年 檢閲處分

(二) 新聞紙檢閲數及處分件數

備考
 外國(支那)新聞紙ハ大正十五年迄ハ系統的檢閲ヲ爲サス隨時發見ノ都度檢閲スルニ適キサリシモ昭和二年ヨリハ容疑ノ大部分ニ付檢閲シツツアリ

計	新聞紙	
	外國	内地
三九	一〇	二四
四四	一	一八
七三	四四	二四
一三二	七八	一八
一〇一	七二	二四
二四五	一九六	一八
一一〇	六八	三六
二三三	一九一	一〇
一〇一	五九	三六
一八四	一三七	一四

新島内	區別	昭和四年		昭和五年		昭和六年		昭和七年		昭和八年	
		日刊	其他	日刊	其他	日刊	其他	日刊	其他	日刊	其他
五											
二六											
五											
二五											
五											
三一											
六											
三二											
六											
三三											

(ハ) 新聞紙常時檢閲種類數

計	雜誌(無保證新聞紙ヲ含ム)	新聞紙	昭和六年		昭和七年		昭和八年	
			昭和六年	昭和七年	昭和七年	昭和八年		
一一、八七〇、六三八	一、六〇二、五一〇	一〇、二六八、一二八	一一、二一六、九七〇	一三、一一八、〇一九	一一、二一六、九七〇	一三、一一八、〇一九	一五、〇三三、一四九	

(四) 新聞雜誌移入部數(延部數)

昭和八年	昭和九年
七	七
八	六
三	三
二五	二〇
一	一
二	二
四四	三九

参考九

専任衛生課長配置ニ要スル豫算

科	俸	事
目	給	給
数	事務官一人	事務費
量		
單位費額	年三三〇円 九月分 十ノ四六	
金		
額	三四一七 三四一七 二三四〇 一〇七七 七二〇 四一三七	〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

(ハ) 出版物行政處分件数及種類別

計	外國發行	島内發行	内地發行	發行地別	
				安寧	風俗其他
五四七	五五九	一三	一七五	安寧	昭
八三	一〇	八	六五	風俗其他	和
				計	五
六三〇	五六九	二一	二四〇	安寧	昭
五五一	二四五	四七	二五九	風俗其他	和
一一八	二九	二六	六三	計	大
				安寧	昭
六四九	二七四	七三	三〇二	風俗其他	和
七〇二	二九七	一六	三八九	計	七
一五〇	五七	三三	六〇	安寧	昭
				風俗其他	和
八五三	三五四	四九	四四九	計	年
八一四	三八六	一三	四一五	安寧	昭
一一四	一八	一六	八〇	風俗其他	和
				計	八
九二八	四〇二	二九	四九五	安寧	昭
				風俗其他	和
				計	年

(ホ) 出版物納本数調

計	定期	單行本	種別	
			昭和元年	昭和二年
一九二二	一〇〇八	九一四	昭和元年	昭和二年
六三〇八	一二四〇	一〇六八	昭和三年	昭和四年
二四一四	一六三三	七八二	昭和五年	昭和六年
二六〇八	一八〇〇	八〇八	昭和七年	昭和八年
三六九〇	二五〇八	一八二二	昭和九年	昭和十年
三八五九	二六六六	一八九三	昭和十一年	昭和十二年
四四八四	三〇〇三	一四八三	昭和十三年	昭和十四年
四、三八九	三、〇四二	一、三四七	昭和十五年	昭和十六年

第三

地方制度改正ニ伴ヒ事務官一人

臺灣ハ帝國ノ國防上、經濟上及政治上極メテ重要ナル地域ニシテ之ガ領有ハ實ニ帝國ノ存立上缺クベカラザルモノナリトス故ニ軍ニ之ヲ地理的ニ帝國ノ從來ノ領土ト一體ト爲スニ止マラズ之ニ居住スル新附ノ民ヲシテ衷心ヨリ忠良ナル帝國臣民トシメザルベカラズ即チ帝國ノ臺灣統治方針ハ歐米各國ノ殖民地ニ於ケルガ如キト異ナリ臺灣ヲ以テ完全ナル内地ノ一地方ト

神ヲ涵養シ延テハ國家意識ヲ鞏化スル上
 ニ於テ適當ナリト認メタルト民衆ノ要
 切ナルモノアリシニ依ルサレバ統治ノ方
 針不變ニシテ地方制度ノ本旨亦斯ク如
 クナル以上教育ノ進歩民度ノ向上ニ伴
 適度ニ之ヲ改正シ地方自治權ノ擴充ヲ爲
 スベキコトハ當然ナリトス
 更ニ本島改隸以來四十年ヲ閲シ此ノ間施
 政ノ各方面ニ亘リ良好ナル治績ヲ擧ゲ萬
 般ノ事物面目ヲ一新シ教育頃ニ普及シ其
 ノ他文物制度大ニ備ハレリト雖モ時勢
 進運ニ伴ヒ各般ノ文化的及經濟的施設

シムルニ在リテ這ハ領臺以來一貫シテ渝
 トナク堅持セラレタル統治方針ナリ從
 テ本島人ヲ教育善導シ國民精神ヲ涵養
 國家意識ヲ鞏化シテ彼等ヲシテ一日モ
 ク舊來ノ日本民族ト同様眞ノ日本國民
 ルノ信念ヲ得シムル様努メザルベカラ
 翻テ本島地方制度ニ付テ見ルニ大正九
 之ヲ創始セラレタル所以ハ教育ノ進歩ニ
 伴ヒ地方公共事務並ニ國家事務ノ中專
 地方的利害ニ關スル事務ハ成ルベク民
 地依リ處理セシメ之ガ事務執行ノ圓滑
 圖ニ依リ共ニ之ヲ以テ人民ノ自治奉仕ノ精

方制度改正ニ關シ慎重調査研究ヲ爲シタ
 ル結果之ガ成案ヲ得州及市ノ議事機關ハ
 之ヲ決議機關ニ改メ州市及街庄ノ議員ハ
 半數官選半數民選トスルヲ妥當ト認メ州
 制市制及街庄制ヲ改正シ昭和十年四月一
 日之ヲ公布セリ而シテ其ノ實施ハ始政四
 十週年ヲ期シ同年十月一日トシ唯州制ノ
 ミハ若干之ヲ延期シ別ニ施行期日ヲ定メ
 シトス
 而シテ今回ノ地方制度改正ニ依リ新ニ決
 議機關及選舉制度ヲ創設スルコトハ本島
 統治上實ニ劃期的重要事項ニシテ之ガ運

付今後益々適切ナル改善擴充ヲ行ヒ以テ
 臺灣ノ統治ニ新生命ヲ開クノ要緊切ナル
 モノアリ而シテ之ガ方策多クアルベシト
 雖モ地方制度ニ穩健適切ナル改善ヲ加フ
 ルハ正ニ其ノ緊要ナルモノナリ
 蓋シ現行地方制度實施以來十數年間ニ於
 テル制度運用ノ實績ハ概ネ良好ニシテ民
 衆漸ク地方公共事務ニ習熟スルニ至レリ
 然ルニ現行制度ニ於テハ議事機關ハ單
 諮問機關タルニ過ギザルノミナラズ之ガ
 議員ハ總テ官選ニシテ時運ノ進展ニ鑑ミ
 遺憾ノ点甚シトセズ依テ昭和二年以來地

用如何ハ統治上ニ及ボス影響甚大ナルモ
 ノアルニ鑑ミ一般民衆竝ニ當該官吏吏員
 =對シ適切周到ナル指導監督ヲ爲シ大ニ
 民意ヲ暢達シ地方自治權ヲ確立シ統治ノ
 大方針ニ副ハシメザルベカラズ然ルニ地
 方選舉等本島ニ於テ全ク新ナル制度ヲ實
 施スルモノナルヲ以テ監督官廳ノ指導監
 督事務ハ質的ニモ分量的ニモ急激ニ増加
 スルノミナラズ其ノ滿全ヲ期スル爲ニハ
 慎重ナル研究ヲ爲シ遺憾ナカラシムルヲ
 要ス即チ
 (一) 州市ノ議事機關ヲ決議機關トスルノ外

參事會ヲ設ケ且權限ヲ擴張セルニ伴ヒ
 之ニ對スル各般ノ指導監督ヲ特ニ周到
 ナラシムル要アリ
 (二) 州市會及州市參事會ノ議決及選舉ニ付
 再議再選舉取消等ノ制度ヲ認メタルニ
 伴ヒ之ニ對シ常ニ適切ナル指揮監督ヲ
 必要トス
 (三) 州市會及街庄協議會ニ對シ必要アル場
 合解散及停會ヲ命ズルコトヲ得セシム
 (四) 選舉人被選舉人ノ資格要件ノ調査選舉
 人名簿ノ調製選舉ノ監視選舉ノ適否及
 取消等選舉事務ノ急激ナル増加ヲ來シ

用如何ハ統治上ニ及ボス影響甚大ナルモ
 ノアルニ鑑ミ一般民衆竝ニ當該官吏吏員
 =對シ適切周到ナル指導監督ヲ爲シ大ニ
 民意ヲ暢達シ地方自治權ヲ確立シ統治ノ
 大方針ニ副ハシメザルベカラズ然ルニ地
 方選舉等本島ニ於テ全ク新ナル制度ヲ實
 施スルモノナルヲ以テ監督官廳ノ指導監
 督事務ハ質的ニモ分量的ニモ急激ニ増加
 スルノミナラズ其ノ滿全ヲ期スル爲ニハ
 慎重ナル研究ヲ爲シ遺憾ナカラシムルヲ
 要ス即チ
 (一) 州市ノ議事機關ヲ決議機關トスルノ外

參事會ヲ設ケ且權限ヲ擴張セルニ伴ヒ
 之ニ對スル各般ノ指導監督ヲ特ニ周到
 ナラシムル要アリ
 (二) 州市會及州市參事會ノ議決及選舉ニ付
 再議再選舉取消等ノ制度ヲ認メタルニ
 伴ヒ之ニ對シ常ニ適切ナル指揮監督ヲ
 必要トス
 (三) 州市會及街庄協議會ニ對シ必要アル場
 合解散及停會ヲ命ズルコトヲ得セシム
 (四) 選舉人被選舉人ノ資格要件ノ調査選舉
 人名簿ノ調製選舉ノ監視選舉ノ適否及
 取消等選舉事務ノ急激ナル増加ヲ來シ

掌 地方課地方係及財政係増員後ノ屬事務分
 左ノ如ク分掌シ上官ヲ補佐セシム
 モノナリ又屬ハ從前ノ職員ヲ併セ
 ルベキ有能ナル職員ヲ必要トスルニ由ル
 ニ在リテ專ラ新制度ノ圓滿ナル運用ニ當
 ヲ以テ其ノ完全ヲ期シ難キニ付課長ノ下
 督ノ必要アリテ課長タル事務官一人ノミ
 スルノ地位ニ在リ時ニ實地ニ就キ指揮監
 督ニ方針ヲ考究シ下級機關ヲ統括指導監督
 中樞機關ニシテ新制度ノ運用ニ付全般的
 ヲ必要トスルハ總督府ハ之等指導監督ノ
 地方針ヲ考究シ下級機關ヲ統括指導監督

之ニ對シテハ特別ニ實地ノ指導監督等各
 般ノ監督ニ付特別ノ考慮ヲ拂ヒ公正ナ
 ル選舉ノ實施ヲ期セザルベカラス
 (五) 官選議員ノ任免ニ付特別ニ考慮ヲ拂フノ
 必要アリ
 (六) 其ノ他原案執行專決處分強制豫算更正
 認可等監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ
 爲スベキ場合著シク増加セリ
 如斯増加事務ニ對シ現在職員ヲ以テ處理
 スルコトハ到底至難ナルヲ以テ差當リ總
 督府ニ事務官一人及屬四人ヲ増員シ之ニ
 對應セシメントス而シテ特ニ事務官一人

地方行政係

屬

一人

(一) 地方行政區劃ニ關スル事項

(二) 地方行政廳ノ組織職員定員及事務分掌

ニ關スル事項

(三) 地方廳國庫豫算經理ニ關スル事項

(四) 地方長官會議郡守市尹會議及地方改良

講習會ニ關スル事項

屬

一人

(一) 地方制度法規ノ改廢ニ關スル事項

(二) 州廳ノ命令ノ審査ニ關スル事項

(三) 州市街庄條例規則等審査及認可ニ關スル事項

州事項

(四) 州市街庄委員ニ關スル事項

屬

一人

(一) 地方一般行政事務監査ニ關スル事項

(二) 複合的團體ノ行政ニ關スル事項

(三) 地方行政諸報告處理及統計ニ關スル事項

(四) 善行者篤行者及紳章ニ關スル事項

屬

二人

(一) 地方議員ノ選舉資格ニ關スル事項

(二) 選舉事務ノ指導監督ニ關スル事項

(三) 官選議員ノ任免ニ關スル事項

(五) (四) 地方議會 / 組織及權限 = 關スル事項
 地方議會 = 對スル再議、再選舉、取消、解散、
 停會等 = 關スル事項
 地方財政係 一人

(一) 市街庄 / 豫算並決算 = 關スル事項
 複合的團體 / 財政 = 關スル事項
 (二) 州市街庄借入金 = 關スル事項
 (三) 國庫補助 = 關スル事項
 (四) 國庫補助 = 關スル事項
 (五) 罹災救助 = 關スル事項 一人
 地方財政事務監査 = 關スル事項

(一) 行政區域 / 廢置又ハ區域變更 = 伴フ財
 產處分 = 關スル事項
 (二) 州市街庄 / 營造物基本財産、不動産、並
 積立金穀 / 管理處分 = 關スル事項
 (三) 州市街庄 / 金庫 = 關スル事項
 (四) 地方財政諸報告處理及統計 = 關スル事
 項
 (五) 地方稅、夫役現品及稅外諸收入、賦課徵
 收 = 關スル事項 一人
 市街庄分賦金 = 關スル事項
 (三) 地方稅則改廢 = 關スル事項

四) 地方税ノ制限外課税減免及不課税ニ關スル事項

参考一

内務局地方課經常部職負事務分掌

分掌事務	課長	官職	負数
<p>一、州、廳及市街庄ノ行政並其ノ監督ニ関スル事項</p> <p>二、各種公共ノ団体ノ事務並其ノ監督ニ関スル事項但シ其ノ主管ニ屬セシメタルモノヲ除ク</p> <p>三、郡、區ノ行政ニ関スル事項</p> <p>四、州組合並市街庄ノ組合及其ノ監督ニ関スル事項</p> <p>五、州協議會負ノ任免ニ関スル事項</p> <p>六、州、廳及市街庄ノ經濟並其ノ監督ニ関スル事項</p> <p>七、各種公共ノ団体ノ經濟並其ノ監督ニ関スル事項但シ</p>	<p>一般庶務</p>	<p>事務官</p> <p>理事官</p>	<p>一人</p> <p>一人</p>
	属		二人

其ノ主管ニ屬セシメタルモノヲ除ク
 八州組合及市街庄組合ノ經濟並其ノ監督ニ關スル事項
 九、廳地方費ニ關スル事項
 一〇、兵事ニ關スル事項
 一一、氣象ニ關スル事項
 一二、史蹟名勝天然紀念物ニ關スル事項
 一三、日佛協定ニ依ル佛國軍人墓地ニ關スル事項

屬	屬	屬
一人	一人	二人

参考二

州制、市制、街庄制改正ノ要點

一、現在州、市、街庄ハ議事機關トシテ單ニ諮問機關ト
 ル協議會アルニ過ギザレルヲ州及市ニ在リテハ議決機
 關トシ州會及市會ヲ置クコトニ改メ街庄ニ在リテハ
 従前通り之ヲ諮問機關トス
 市會ノ議決權限ハ内地ニ在リテハ市ノ事務全般ニ亘
 ルモ臺灣ニ於テハ之ヲ列舉事項ニ制限シ且議長ハ理
 事機關ヲ以テ之ニ充ツ、州會ニ付テモ同様ナリ

二、現在ニ於テハ州、市、街庄協議會會員何レモ官選ナル
モ州會議員、市會議員及街庄協議會員ヲ通シテ其ノ
半数ヲ制限選舉ニ依ル民選ニ改メ半数ハ從前通り官
選トス

三、帝國臣民タル年齡二十五年以上ノ男子ニシテ獨立ノ
生計ヲ營ミ六月以上當該地方團體ノ住民ト爲リ且六
月以來年額五圓以上一定ノ地方税ヲ納ムル者ハ所定
ノ缺格條項ニ該當スル者ヲ除ク、外市會議員及街庄
協議會員ノ選舉權及被選舉權竝ニ州會議員ノ被選舉

權ヲ有ス

四、州會議員ハ市會議員及街庄協議會員之ヲ選舉ス

五、州及市ニ參事會ヲ置ク

六、理事機關ハ從前通り凡テ官吏又ハ待遇官吏ヲ以テ之
ニ充テ街庄ノ助役、會計役、如キモ總テ監督官廳之
ヲ任命シ以テ監督ノ徹底ヲ期ス尚監督規定トシテ再
議、取消、原案執行、強制豫算、停會、解散等ニ關
スル規定ヲ置ク

92 七、從來ノ實績ニ鑑ミ會議ノ用語ヲ國語ニ制限ス但シ街

公學校數	地方稅	國稅	歲出 (八年)	(内地人)	區分	
					總數	臺灣
五九三	一七、八〇一、〇三三	二五、四九三、〇七九	一〇、二八七、九一五	二四七、五八〇	四九三、二四三	二四七、五八〇
人口、 付一校	三、六〇九	五、一六八	二、〇八六	五、〇〇〇	人口、 臺灣	人口、 臺灣
一九四二	三、八、九一、四、七五八	四〇、六〇八、八四四	二、三、一、九三、八、三、八四	五、二、三、四、四、六	二〇、五、九、九、八、七、六	二〇、五、九、九、八、七、六
人口、 付一校	一、八八八	一、九七一	一、一、二、六	二、五、〇	人口、 朝鮮	人口、 朝鮮

参考三

臺灣民度調

(昭和七年度基準)

庄ノミニ付テハ當分ノ内通譯ヲ附シ得レコトハス

備考 各年十二月三十一日現在調査

種別	大正十三年		大正十四年		昭和元年		昭和二年		昭和三年		昭和四年		昭和五年		昭和六年		昭和七年		昭和八年	
	内地人	本島人	内地人	本島人	内地人	本島人	内地人	本島人	内地人	本島人	内地人	本島人	内地人	本島人	内地人	本島人	内地人	本島人	内地人	本島人
合計	1,833,377	2,827,112	1,896,330	2,845,744	1,957,691	2,909,990	2,022,002	2,961,270	2,084,333	3,013,530	2,147,330	3,062,730	2,210,872	3,111,930	2,279,872	3,161,130	2,348,930	2,417,930	2,486,930	2,555,930
内地人	1,833,377	2,827,112	1,896,330	2,845,744	1,957,691	2,909,990	2,022,002	2,961,270	2,084,333	3,013,530	2,147,330	3,062,730	2,210,872	3,111,930	2,279,872	3,161,130	2,348,930	2,417,930	2,486,930	2,555,930
本島人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外国人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1,833,377	2,827,112	1,896,330	2,845,744	1,957,691	2,909,990	2,022,002	2,961,270	2,084,333	3,013,530	2,147,330	3,062,730	2,210,872	3,111,930	2,279,872	3,161,130	2,348,930	2,417,930	2,486,930	2,555,930

最近十年間人口及人口百分比例調

参考四

備考 朝鮮ト均衛上台湾ハ國稅中ニ酒專賣金ヲ算入ス

項目	昭和八年	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年	大正十三年
全學級数	5,190	9,236	4,770	4,770	4,770	4,770	4,770	4,770	4,770	4,770
全児童数	255,749	477,205	255,749	255,749	255,749	255,749	255,749	255,749	255,749	255,749
銀行預金	173,519,206	262,221,000	173,519,206	173,519,206	173,519,206	173,519,206	173,519,206	173,519,206	173,519,206	173,519,206
金融組合及ハ 信用組合貯金	47,677,000	1,375,200	47,677,000	47,677,000	47,677,000	47,677,000	47,677,000	47,677,000	47,677,000	47,677,000
郵便貯金	1,814,776	4,939,391	1,814,776	1,814,776	1,814,776	1,814,776	1,814,776	1,814,776	1,814,776	1,814,776
計	239,344,067	417,012,391	239,344,067	239,344,067	239,344,067	239,344,067	239,344,067	239,344,067	239,344,067	239,344,067

表五

本島人就學兒童調

(各年度三月三十一期)

年度別	學齡兒童		就學兒童		就學歩合	
	男	女	男	女	男	女
大正六年度					二、四四	二、六五
大正七年度					二、五二	四、九五
大正八年度					三、四四	七、三六
大正九年度					五、九二	九、三六
大正十年度					四、二〇	一〇、二六
昭和七年度	三、九四五	三、六九二	二、〇〇一	七、六一〇	五、〇七	一、九一二
昭和八年度						
計						
計						
平均						

ノルス解ノ語			音ノ讀且ノ解ノ語			音ノ得且ノ音ノ讀		
計	女	男	計	女	男	計	女	男
三、二、四、七、五	七、六、〇、一	二、四、八、七、三	一、三、七、二、〇	二、九、六、六	一、〇、七、五、四	三、一、九、二、三、三	六、〇、一、八、三	二、五、九、〇、五、〇
七、五	三、六	一、一、三	三、二	一、四	四、九	七、四、〇	二、八、四	一、一、八、二

参考六
 本島人國語普及狀況調
 (上實教下人口千人付テ割合)

年 別	内 地		本 島		合 計	
	金 額	比 率	金 額	比 率	金 額	比 率
大正十四年	三八、〇四〇、五七六	一〇〇	二五三、二二五、八七一	一〇〇	二七〇、二六六、四四七	一〇〇
同 十五年	四三、五〇七、七三三	一一四	二四八、〇八三、三八六	一〇六	二九一、五九一、一一九	一〇七
昭和 二年	四五八、一五三、三三七	一一〇	二五三、九四六、五九二	一〇九	二九九、七六六、九三八	一一〇
同 三年	四八、九六六、〇九四	一一八	二五八、二七二、八〇六	一一一	三〇七、二三四、九〇〇	一一三
同 四年	五〇、四六六、九三八	一三二	二六三、八八五、二〇〇	一一三	三一四、三五二、一一八	一一六
同 五年	五二、二六五、三七四	一三七	二七二、一七四、六八七	一一六	三二四、四三九、九六一	一一九
同 六年	五三、五九五、八九二	一三八	二五一、六八七、四四三	一〇八	三〇四、二八三、三三五	一一二
同 七年	五三、五二九、三八七	一三八	二四九、四一九、三三七	一〇七	三〇三、〇四八、七〇四	一一一
同 八年	五四、〇一三、八七四	一四一	二五七、二二一、八九五	一一〇	三一〇、二三四、七六九	一一五
同 九年	五七、一六三、三一四	一五	二六六、四四八、一七〇	一一四	三二三、六一一、四八四	一一九

参考七
戸税生産額内臺人別調

備考
一、本表ハ昭和五年十月一日ノ國勢調査ニ依ル
一、讀ミ書キハ假名文字ニ付テハ調査ナリ
一、昭和九年十月ニ於テハ總計二十二パーセントト推定セラル

数	總計		男		女	
	計	別	計	別	計	別
計	五三三、一七二	一三三・六	一〇八、九四二	五一・四	一〇二、二三四	一三三・〇
男	四二四、二三四	一九三・五	一三、四六六	六・三	四二、六八七	一九・五
女	一〇八、九四二	一・七	一三、四六六	一・七	一三、四六六	一・七

區分	法						區分	稅	州廳地方費稅	市街庄稅
	内	地	人	其	他	計				
	人	金	人	金	人	金				
一、六〇四、五二〇	三、四四四	三〇九、一一三	二、六四七	五、〇七一	二〇二	一、九一八、七〇四	一、六〇四、五二〇	一、四四四、三九九	一、六九四、九五〇	一、二九八、八九五
一〇、九二〇	二、四六六、〇四	六、三三三	三、九四七	三、九四七	三、九四七	一、七、六一九	一〇、九二〇	三、二一、五六一	一、六一二、五四五	一、九二四、〇
一、二九八、八九五	一、九二四、〇	三、二一、五六一	一、二、六一一	二、〇八九	七五七	三、二、六〇九	一、二九八、八九五	一、二、六〇九	三、二、六〇九	三、二、六〇九

租稅公課負擔額調 (昭和七年分)

参考八

備考

生産額、大休所得稅法ノ所得ニ該當スルモ勤勞生産ニ付テハ其ノ四割ヲ控除シ資産ニ對シテハ十分ノ二以内ノ斟酌ヲ加ヘ得ル規程ナリ

参考九

市街庄税五圓以上納税者數調

計	區分		總數	市	街庄
	本島人	内地人			
二二九、二五四	一九一、一二三	三八、一三一		二五、四六九	一二、六六二
四八、九九四	二三、五二五				一六七、五九八
一八〇、二六〇					

備考

本表、獨立ノ生計ヲ營ム男子ニシテ五円以上ノ市街庄税ヲ納ムル者ヲ調査シタルモノニシテ此ノ中六月以上住所ヲ有セザル者、二十五歳未満ノ者、犯罪者等ノ缺格者ヲ控除スルノ要アルヲ以テ實際ノ有權者ハ本表ノ數ヨリ約一割減少スル見込ナリ

計	澎湖廳	花蓮港廳	臺東廳	高雄州	臺南州	臺中州	新竹州	臺北州	州廳別
一〇	二	四	四						支廳
四五				七	一〇	一一	八	九	郡
九				二	二	二	一	二	市
三八	一	一	一	三	一〇	一〇	五	七	街
二一七	四	一		四〇	五六	四七	三七	三二	庄
一八		八	一〇						區

参考一〇、
各州廳別支廳、郡、市、街、庄、區、数、調（昭和十年三月現在）

		俸給		總督府	項目	要求額	算出	内譯	内増	譯△	額減	備	考
俸判		俸給				九一八三							
給任		給任				五四三〇							
三、一五二		二、二七八											
加	本	加	本										
屬	俸	事務官	俸										
四、一八五	四、一八五	六、二四六	六、二四六										
十分ノ六	十分ノ六	十分ノ六	十分ノ六										
一、一八三	一、一八三	一、一八三	一、一八三										
〇	〇	〇	〇										
〇	〇	〇	〇										

参考
地方制度改正指導監督職員豫算

第四、地方制度改正ニ伴フ高等警官事務ニ當ラ
 シムル為属一人増員
 昭和十年十月一日ヨリ地方制度ヲ改正實施シ新ニ地
 方選挙制度ヲ創設スルコト最ニ速ニ遂ベタル所ナルガ之
 が改正ノ效果ヲ挙げ地方自治ノ健全ナル條達ヲ期
 スルニハ一ニ繋リテ選挙ノ公正ヲ期スルニ在リト云フモ過
 言ニ非ザルベシ然ルニ本島選挙運動ハ選挙民ノ大多数
 ヲ占ムル本島人が未ダ民度低ク公民的訓練充分ナラ
 ズ且其ノ民族性ニ鑑ミ買収其ノ他利益供與ニ依リ選
 挙ノ公正ヲ害スベキ行為ヲ屢々行ハルベキコト豫想ニ
 難カラザル所ニシテ之ニ對スル方針トシテハ選挙創始
 當初ナルニ鑑ミ當局ノ適切ナル指導監督ノ下ニ成

事務費		雑費	
廳費	旅内費	職員給	雑費
三、七、五、三	一、四、八、五	一、四、二、五	一、一、八、八
普選	出島	事務	借宿
通費	旅内	員務	舎料及
五、八、八、六、月	六、七、月分	五、八、八、六、月	料及
六、七、月分		六、七、月分	料及
一、五、〇、〇	一、四、八、五	一、四、二、五	一、一、八、八
〇、〇	〇、〇	〇、〇	〇、〇

ルベク自由ナル選挙運動ヲ行ハシメ健全ナル系達訓練ヲ庶幾スルト共ニ悪質ナル違反行為ニ對シテハ嚴重取締リ指導ト取締ヲ係行シ緩嚴宜シキヲ得以テ所期ノ目的ヲ達成セシメザルベカラズ而シテ選挙制度實施ニ伴ヒ選挙母体トナルベキ政治結社ノ續出及政治運動ノ勃興ヲ来スベキコトハ現下ノ情勢ヨリ見ルモ明カニシテ現ニ来ルベキ選挙ニ備フル為政治結社ノ組織準備中ニアルモノ尠カラズ從ツテ新制度施行ニ伴ヒ監督官廳ニ於ケル高等警察事務ハ選挙運動及之ヲ前提トスル各種団体等ニ對スル視察取締調査研究等著シク激増スルニ至ルベシ即チ

ハ全島的ニ或ハ地方的ニ政治運動団体トシテ視察圈内ニ置クベキ必要アルモノハ現在豫想シ得ラル、モノ、ミニテモ四三団体六〇一六名ニ上リ尚制度實施ヲ機會ニ這種政治的団体ノ發生スベキコトハ豫想ニ難カラサル所ニシテ前掲団体ノ擴大ト共ニ新興団体續出スルニ至ルベシ

ハ此外選挙権者、被選挙権者ノ動靜ニ就テハ常ニ其ノ趨向ヲ知ルノ要アリテ内査取締ノ範圍ハ大ニ擴大セラルベシ

ハ從來姓別ニ依ル黨派争ニ及勢力争ニハ單ナル民情ノ一部トシテ見ルニ過ギザリシニ選挙運動行ハル、場合ニ於テハ此種抗争ハ常ニ地方的ニ對立關係ヲ生シ選挙運動ニ影響スル所甚大ナルベキヲ以テ此情勢ヲ詳

細ニ内査シ置クコトハ最モ重要ナル事項ナリ
 (二) 常ニ議員ノ動静ヲ内査シ其ノ詳細ヲ知ルコトハ適正ナル自治行政運行上必要ナルノミナラズ次期選挙ヲ行フ絶對的必要條件ナリ故ニ常時ニ於ケル視察内査ノ中心ハ議員ノ動静査察ニ在リト言フニ過言ニアラズ
 (ホ) 一地方ノ勢力ヲ左右シ又ハ全島的ニ相當影響ヲ及ボスベキ人物ノ意見、地方的輿論ノ趨向等苟クモ政治的ニ何等カノ衝動ヲ與フベレト認メラル、事項ニ關シテハ常ニ其ノ内容、影響範圍等ヲ瞭カナラシメ置クノ要アリ
 (ハ) 政治結社及政治上ノ要視察人ノ動静ヲ詳カニシ名帳及名簿ヲ隨時整理シ置クノ要アリ

之等ノ視察取締ハ總督府ニ於テハ特ニ全島的趨勢ヲ監視シ各州聽聞ニ於ケル視察取締ヲ統一連絡シ以テ根本方針タル指導ト取締ノ係行ニ立脚シ地方制度ノ健全ナル發展促進ヲ期セザルベカラザルモ現在警務局保安課ノ定員ヲ以テ之ガ完全ナル処理ハ到底困難ナルヲ以テ不敢屬一人ヲ増員配置シ課長及事務官指揮ノ下ニ專ラ選挙ニ關スル視察取締ニ任セシメントス

計	特別高等係	普通高等係	外事係	フィルム検閲係	圖書検閲係	庶務係	係別
兼 一 三	兼 一 七	一	兼 一	兼 一	五		屬
(内五人臨時職員)	本府勤務 (三人本府勤務(臨時職員) 二人東京駐在 三人上海厦門及福州駐在(臨時職員))						摘 要

参考ノ一
警務局保安課屬事務分掌

参考二

本島政治運動概況

一、本島政治運動ノ現況

(昭和十年三月現在)

(一) 本島政治運動ノ特質

本島ニ於ケル政治運動ハ「台灣ヲ台灣人ノ台灣クらしムヘキ」意圖ノ下ニ大正九年第四十四議會ニ六三法撤廢請願ヲ爲シテ以來政事結社台灣議會期成同盟會ヲ中心トスル台灣議會設置請願運動、台灣民族ノ解放ヲ標榜スル舊台灣民衆黨ノ策動及台灣ニ於ケル自治制度ノ確立ヲ單一目標トスル台灣地方自治聯盟ノ運動カ主流トナリテ台灣民族ノ伸張、自由獲得ニ執拗ナル策動ヲ繼續シ來レルモノニシテ或ハ合法的ニ或ハ非合法的ニ時ニ多少ノ消長アリト雖モ終始一貫台灣民族ノ解放ヲ宗旨トシテ行動シ來レルコトハ本島政治運動ノ根幹ヲ爲ス特質ナリ

(二) 現在ノ政治運動ノ情勢

現在政事結社ハ台灣地方自治聯盟、同支部一五、皇道宣揚會、同基隆支部、同新竹支部、愛市會ノ二〇團體ニシテ會員三、七〇〇名ナルモ

尙地方自治制度改正發表以來島民ノ政治的關心益シク昂揚シ彰化市政
研究會、台中州自治同志會、台北市新民研究會、朴子街街政研究俱樂部
部等政治結社組織ヲ目的トスル準備策動相次テ起リツツアルノミナラ
ス此外現在民族の容疑團體ハ一九國體會員ニ一八名ノ多キニ達シ之
等ハ其ノ間多少ノ政策的主張ヲ異ニスルモノアリト雖モ何レモ傳統的
民族觀念ヲ基調トシテ策動中ノモノニシテ其ノ形勢概ホ次ノ如シ

(イ) 台灣地方自治聯盟

台灣地方自治聯盟ハ本島地方自治確立ノ第一目標ノ下ニ昭和五年八
月十一日結成セル政事結社ニシテ現在十五支部三四三三名ノ黨員ヲ
有ス本聯盟ハ台灣民衆黨内ニ於ケル比較的穩健分子力急進派タル將
渭水一味ト政策的意見ヲ異ニシ脫退結成セル黨ナルモ漸進的ニ一歩
一歩本島人ノ福利、利益ノ伸張ヲ圖リ遂ニ彼等最後ノ目標タル所謂
台灣人ノ自治ヲラシメントスル底意アルハ疑フヘカラサル所ナリ
自治聯盟結成以來ノ運動ハ比較的穩健ニシテ合法的ニ終始シ來レル

カ島内一黨急進分子ハ地方自治確立ノ第一目標ヲ懐クラストシ多角
的政治運動ニ進出セントシ一時黨内ノ大勢ニ翻セントシタルモ領袖
榎森嘉一派ノ抑壓ト一ハ非常時局ニ因由スル客觀情勢ニ押サレ大ナ
ル進展ヲ見スシテ今日ニ及ヘリ

(ロ) 國民黨急進幹部ノ策動

領袖將渭水ノ死亡ト非常時局ノ重壓下ニ策動中絶ノ状態ニアリタル
舊台灣民衆黨再建運動ハ昭和九年六月以來舊黨急進派士タリシ率友
三、廣丙丁等ノ主唱ニ依リ再燃漸次全島ニ波及セントシツツアリ
彼等ノ運動ハ舊黨ノ指導原理、殘存勢力、策動分子ノ思想傾向、闘
争經歷等ニ徹シ最モ注意ヲ要スル處ニシテ其ノ情勢ノ内偵ニハ大ニ
努力ヲ拂ヒツツアル處ナルカ最近政治經濟社會及日常生活上ノ諸問
題ノ研究ヲ標榜シ「新民研究會」ノ組織準備中ナルカ彼等ハ改正自
治制度ノ實施ヲ控ヘ穩健派、台灣地方自治聯盟一派ニ對抗シ政治運
動ニ進出セントスルニ在ルモノ、如ク其動向ハ最モ注意ヲ要スルモ

ノナリ

(ハ) 台議議會設置請願運動ノ中止

台議ノ特殊事情ニ基ク特別立法並ニ台議ニ於ケル算決議ヲ獲得ヲ目的トシテ大正十年以來繼續シ來レル所謂台議設置請願運動ハ其ノ指導原理ヲ民族自決主義ニ發シ本島統治上甚ク面白カラサルモノアリシガ彼等一味モ漸ク本運動ノ成功覺束ナキヲ覺リ遂ニ昭和九年九月二日臨時議會設立者三十六名台中ニ集合協議ノ結果愈々中止スルコトニ決シタリ然ルニ右協議ノ狀況ヲ見ルニ此ノ際成功覺束ナキ本運動ヲ中止スルト共ニ實現ノ可能性アル政事運動ニ轉換スルカ得策ナリトノ意見ニ略一致シ中止決定ト同時ニ全島有志ノ贊同ヲ求メ台灣統治ニ關スル意見書ヲ總督ニ提出スヘキヲ決議スル處アリ意見書ノ内容如何ハ未タ察スルニ由ナキモ台灣議會設置請願運動ノ中止ハ政治運動ノ中止ヲ意味スルモノニアラスシテ更ニ新ナル目標ニ向ヒ運動ヲ更進スルモノト見ルヘキナリ

一方自治聯防ハ地方制度ノ改正ニ依リ改組若ハ解消ノ運命ニ在リ茲ニ彼等カ政治結社新成ノ運動ニ飛躍スヘキハ明ナル處ニシテ吾民衆熱幹亂等ノ策動ト共ニ大ニ注目ノ要アリ

(ニ) 新興政治結社組織運動

台灣自治制改正サレ昭和十年年度ニ於テ選舉實施ノ旨發表以來一般島民ノ政治的關心ヲ熾リ來ルヘキ選舉ニ備フル爲メ現在彰化市政研究會(台中州彰化市)台中州自治同志會(台中市)新民研究會(台北市)街政研究俱樂部(台南州東石郡朴子街)等政治結社組織ヲ企圖策動スル者相次テ起リ同志糾合ニ奔走中ニシテ既組織諸團體ノ動向ト相俟ツテ今後最モ注意ヲ要スヘキ趨勢ニアリ

(三) 民族運動關係團體ノ狀況

其ノ他現在民族運動關係團體ト見ルヘキモノ舊台灣民衆黨支持團體九團體員八五〇名(外ニ舊民衆黨系勞動團體四〇、團體員五〇一〇名アリ)台灣地方自治聯盟支持團體六團體員七十七名、其他四、團

此等團體ハ本島ニ於ケル思想運動乃至政治運動ノ一時的沈滞ト共ニ二三團體ヲ除キ殆ンド活動ノ見ルヘキモノナカリシモ最近政治運動漸ク活氣ヲ呈シ來リシ爲メ之ニ刺戟サレ種々策動ヲ開始セル向アリテ其ノ動向注意監視中ナリ

尙右黨團體トシテノ政事結社ハ皇道宣揚會、同新竹支部、基隆支部、愛市會ノ四團體、會員二六七名ニシテ之等ハ内地極右團體ト連絡シ總督政治ノ批判論議ヲ試ミ或ハ不穩ナル冒險ヲ弄シ内台融和ヲ阻害スル等民心ニ及ホス影響甚カラサルカ尙之ト主張ヲ同シウスル日本主義團體及國粹的主張ヲ標榜スル團體ハ十八團體ニ上リ尙逐次族生ノ傾向ニ在リ、一面亞細亞主義ヲ標榜スル團體モ亦東亞時局ニ刺戟サレ急速ナル進展ヲ示シツツアリテ之等カ各々其ノ勢力ヲ利用シ選舉運動ニ關與スヘキハ勿論ニシテ其ノ動向ニハ特段ノ注意ヲ要スヘキモノアリ

⇒自治制施行ニ伴フ政治運動ノ歸趨

(一) 民族主義的ノモノ

民族主義ヲ指導精神トスル台灣地方自治聯盟、舊台灣民衆黨殘存分子及各種民族の容疑團體ハ何レモ自治制施行ヲ一轉機トシテ有方ナル政事結社ヲ結成シ合法的範圍ニ於テ宿望タル台灣人ノ權利伸張、自由獲得ヲ達成セムトスルノ傾向顯著ニシテ既ニ彰化市政研究會、台中自治同志會、新民研究會、街政研究俱樂部等ノ政社結成準備中ニアリ、台灣地方自治聯盟ニ於テモ亦自治制施行ノ際ニ於テハ有力ナル政事結社ヲ組織シ本島政治運動ノ中心勢力タラシメムトスルノ主張漸次具體化シツツアリ、尙各種民族の容疑團體ニ在リテモ舊台灣民衆黨、台灣地方自治聯盟ノ支持的關係ニ立ツモノ尠カラズシテ地方的勢力ノ母体トナルコトハ當然ノ歸結トモ得シ得ヘク從ツテ從來ニ比シ、ヨリ統一的ニ活潑ナル活動ヲ爲スニ到ルヘキ事ハ想像ニ難カラサル所ナリ

(二) 右翼的ノモノ

尙存右翼團體ハ日本主義及國粹的主張ヲ指導精神トスルモノナルモ、

多ク在台内地人ノ擁護ヲ標榜シ台裔人ト對立的關係ヲ生ゼシメツツアルノ現況ニシテ今次ノ自治前施行問題ニ關シテモ其ノ經緯及内容ニ付種々ナル揣摩臆測ヲ加ヘ其ノ對立的傾向顯著ニシテ之等團體カ自治制度施行後選舉運動ヲ近シ内台人軋轢激成要因ト爲ルヘキコトハ選舉取締ニ特別ナル複雑性ヲ附加スルモノニシテ民族的傾向ト共ニ本島ノ特殊事情ノ双壁ヲ爲スモノト謂フヲ得ヘシ

② 共產主義者ノ介入

極左分子カ職會主義運動ヲ進シ統治機構ノ破壊ヲ企テ或ハ直接選舉運動ノ反對策動ヲ試ミタルノ事例ハ枚舉ニ遑アラズ内地ノ如キ特ニ熾烈ニ行ハレタル所ナルカ本島ニ於テハ特ニ共產主義運動カ民族の革命ノ段階ヲ第一次目標トシテ行ハルルカ故ニ民族主義者トノ結合容易ニシテ各種政治團體及思想團體ヲ領導シ合法性ニ隱レ民族革命ヘノ誘導ヲ試ムヘキコトハ厥カニシテ本島選舉運動ノ複雑性ヲ一層加重セシムルモノナリ

③ 本島選舉運動ノ複雜性ヲ爲ス其ノ他一般的事由

在ル人ハ支那民族特有ノ仙人主義的傾向アリテ其ノ具体表現ハレトシテ種族的争ヒ、即チ種族衝突ト府東種族ノ全然相融合セス常ニ抗争スルノ身狀及殊争ヒ、即チ陳姓、林姓若クハ莊姓等カ各同姓結合シテ異志ノモノト勢力争ヒヲ演シツツアルコトハ全島到ル所散見スル事實ニシテ之等ノ關係力延イテハ選舉運動上ニ及ホス影響ノ相當大ナルヘキコトモ亦想像シ得ラルルヲ以テ之等各種事情カ台裔人ノ眼前ノ小利ニ左右サルル實情ト相俟ツテ選舉運動ノ觀察取締ニ付一段ノ困難ヲ増スニ至ルヘシト思科サル

科	目	金額	算出内訳
總督府	俸給	三四七一	
判任俸給	給	七八八	屬一人 亦俸年九八五円、六ヶ月分 加俸本俸十分六
事務費	費	二、六八三	
總費	費	三〇	普通總費屬一人年六〇四、六ヶ月分
内國旅費	費	一、六〇五	普通旅費屬一人年二一〇、四、六ヶ月分 特別旅費 一五〇、四
雇負給	給	七六〇	雇負二人年七六〇、四、六ヶ月分
雜費	費	二八八	借家及宿舍料 屬一人年二六四、六ヶ月分 雇一人年一五六、四、六ヶ月分

参考三

地方制度改正に伴う高等警察属増負豫算

第五 石油業法施行ニ付屬一人増買
 本邦製油業ハ近時相當ノ發達ヲ遂ケタリト
 雖モ其ノ製品ハ尚ホ需要ノ半ヲ充スニ過ギ
 ズ事業ノ基礎モ未ダ鞏固ナラザルヲ以テ市
 場ノ大勢ハ外油ニヨリテ左右セラル、ノ實
 情ニ在リ依テ戰時ニ於ケル供給ノ確保ヲ期
 スルト共ニ平時ニ於ケル産業上ノ要請ニ應
 ズルガ爲石油ノ圓滑ナル補給ノ途ヲ講ズル
 ハ現下ノ急務ニシテ外油ノ輸入ヲ適當ニ調
 整シ製油業ノ統制アル發展ヲ圖リ以テ石油
 需給ノ安定ヲ庶幾スルト共ニ輸入石油ノ一
 部ヲ常時保有セシムルノ目的ヲ以テ昭和九
 年六月石油業法公布セラレ同七月一日ヨリ

南洋群島ヲ除キ本邦全域ニ之ガ施行ヲ見ル
ニ至リ本島ニ於テモ七月一日府令第五十七
號ヲ以テ同法施行規則ヲ公布セリ
同法施行ノ結果石油精製業及石油輸入業ハ
許可制度トナリ許可ヲ受ケタル之等石油業
者ニ付テハ毎年事業計畫ヲ定メテ其ノ認可
ヲ受ケシメ且輸入石油ニ付テハ原油重油揮
発油ニ對シ一々年輸入數量ノ半ヲ保有セシ
ムルノ外公益上必要アリト認ムルトキハ石油
販賣價格ノ變更石油供給量ノ確保其ノ他石
油ノ需給ヲ調節スル爲メ必要ナル事項ヲ余
ジ得ルコトナレル等同法ハ諸種ノ強力
ナル統制規定ヲ包含シ其ノ運用ノ適否ハ直

ニ本邦石油政策ノ將來ニ影響ヲ及ボスベキ
モノナルノミナラズ其ノ実施事務ハ別表ノ
通り廣汎ニ亘ルモノシテ事務課現定員ヲ
以テ鑛業行政事務ノ傍ラ之ヲ遂行シ得ル程
度ノモノニ非ズ依テ新ニ屬一人ヲ増員シ之
ニ應ゼシメントスルモノナリ

参考一

殖産局鑛務課現在属事務分掌

属 一人

- (1) 鑛業権ニ関スル事項
- (2) 鑛業ニ関スル諸願及申請其他ノ處分ニ
関スル事項
- (3) 鑛業出願臺帳鑛業許可台帳及鑛區圖ノ
整理保管ニ関スル事項
- (4) 鑛業監督簿ニ関スル事項
- (5) 臺帳ニ依ル出願地重複調ニ関スル事項
- (6) 處分用市郡別出願台帳ノ整理保管ニ関
スル事項
- (7) 總動員計畫ニ関スル事項

- (1) 鑛業ノ保護獎勵ニ関スル事項
- (2) 鑛業統計ニ関スル事項
- (3) 鑛業法令ニ関スル事項
- (4) 鑛業用土地使用ニ関スル事項
- (5) 公害其他鑛業警察ニ関スル事項
- (6) 鑛業明細表ノ検査及整理保管ニ関スル事項
- (7) 豫算編成ニ関スル事項
- (8) 補助ニ関スル事項

属 一人

石油業法施行事務概要

- (1) 石油精製業及石油輸入業許可ニ関スル事項(施行規則第一條及第二條)
- (2) 許否ニ付テ陸海軍省及拓務省ト協議ス
- (3) 許可事項ノ変更申請アリタル場合右ト同様手續(同第三條)
- (4) 事業ノ讓渡、廃止、會社合併、解散ノ許可申請アリタル場合ノ審査(同第十一條乃至第十五條)
- (5) 許可決定後拓務省ヲ通ジ商工省及資源局ニ通知ス
- (6) 石油精製業者又ハ石油輸入業者ノ事業計畫認可ニ関シ(同第四條乃至第六條)

- (1) 毎年度事業計畫認可申請アリタル場合
當該年度需給量ヲ定メ過去ノ実績等勘
考ノ上販賣數量割當ヲ為ス
- (2) 前號割當ニ從ヒ石油移出入ニ付テハ關
係地主務官廳ト連絡協議ス
- (3) 事業計畫認可後其ノ寫及査定概要ヲ陸
海軍省拓務省及資源局ニ通知ス
- (4) 事業計畫變更ノ認可申請アリタル場合
右ト同様手續ヲナス
- (三) 石油精製業者又ハ石油輸入業者事業計畫
ノ実行ニ關シ
- (1) 石油輸入豫定届アリタル場合記帳並ニ
税関通知ス(同第八條)

- (2) 月報ノ整理記帳(同第九條)
- (3) 事業年度報告ノ審査(同第十條)
- (四) 石油保有義務履行ノ監督ニ關シ
- (1) 保有計畫届書ノ適否審査(同第十八條)
- (2) 保有設備ノ適否調査
- (3) 常時保有數量ヲ貯藏セルヤノ實地臨檢
- (4) 法定以外ノ方法ニヨル保有及法定容量
以下ノタンクニヨル保有ノ許否ニ付審
査(同第二十條)
- (5) 保有量が法定以下トナリタル場合ノ補
充期間延長認可ニ付許否審査(同第二十一條)
- (6) 保有日誌ノ整理記帳
- (五) 石油需給調節ニ關シ

- (1) 公益上必要アリト認めル場合販賣價格ノ変更石油供給量確保其他需給ヲ調節スル為必要ナル事項ヲ命ズ(石油業法第壹章)
- (2) 前項命令ニ先テ陸海軍省及拓務省ニ提議シ且右命令が總動員計畫ニ影響ヲ及ボスモノナルトキハ資源局ニ通知ス
- (3) 公益上必要アリト認めル場合設備ノ擴張又ハ改良ヲ命ズ(同第七條)
- (4) 前項ノ場合(2)號ト同様手續
- (六) 其他一般監督ニ関シ
 - (1) 必要ニ基キ事務所工場貯油所等ニ臨檢シ事務ノ状況又ハ帳簿物件等ノ検査(同第十條)

- (2) 監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ為ス(同第十條)
- (3) 許可取消ノ必要アリト認めル場合關係官廳ト協議並ニ通知

参考三

本島石油精製業者及輸入業者

(一) 許可ヲ受ケタルモノト看做サレタル石油精製業者

(1) 日本石油株式會社

本社所在地 東京市麹町區丸ノ内三丁目四

精製工場名稱 (1) 台灣製油所

(2) 錦水揮発油採取所

(3) 出磺坑揮発油採取所

資本金 八千萬圓

(2) 臺灣鑛業株式會社(近ク許可見込)

本社所在地 臺北州基隆郡瑞芳在金山瓜石二五
精製工場名稱 竹東天然揮発油採取所

資本 金 一千萬圓

(三) 許可ヲ受ケタルモノト看做サレタル石油

輸入業者

(1) 日本石油株式會社

本社所在地 東京市麹町區丸ノ内三丁目四

營業所ノ名称 日本石油株式會社台北販賣店

資本 金 八千萬圓

輸入石油ノ種類 重油

(2) 三菱商事株式會社

本社所在地 東京市麹町區丸ノ内二丁目四

營業所ノ名称 三菱商事株式會社高雄出張所

資本 金 一千五百萬圓

輸入石油ノ種類 重油

(3) ライジングガン石油株式會社

本社所在地 横濱市中區山下町五八

營業所ノ名称 ライジングガン石油株式會社台北支店

資本 金 二千萬圓

輸入石油ノ種類 重油 揮発油 燈油 機械油

(4) スタンドヴァアキユムオイルカムペニー

本店所在地 横濱市中區山下町八

營業所ノ名称 スタンドヴァアキユムオイルカムペニー台北支店

資本 金 米貨一千萬弗

輸入石油ノ種類 重油 揮発油 燈油 軽油 機械油

参考四

自昭和八年七月一日
至全 九年六月三十日
一年間各社石油販賣数量

業者別	重油	揮発油	燈油	軽油	機械油	グリース	アスファルト	パラフィン
日石(精)	五三九	一一〇八五	二二三三	三一九	一五四			二四二
日石(輸)	一〇、二〇九	一四八八	一七七八	六六七六	二七八		四六	
三菱商事	八九〇〇		一〇一		四九〇	八六四		
ライジング	八、二八三	五、三三三	三、三三三		一六五			
スタンダード		二、三七〇	二、〇六	一七七	九一			
計	二七、九三一	二〇、一七六	八、六九四	三、一七三	三、六八八	八、六一四	四六	二四二

参考五

臺灣石油等産額

區分	昭和七年		昭和八年		過去		總量
	数量	價額	数量	價額	数量	價額	
原油	五二、二一九 <small>桶</small>	二四五、九四四 <small>円</small>	五七、九五八 <small>桶</small>	四二四、六七七 <small>円</small>	七五〇、七二三 <small>桶</small>	八、四〇一、六四六 <small>円</small>	
トッピング揮發油	二、六九五 <small>桶</small>	二五、八〇四	五、六〇〇 <small>桶</small>	四七、六九八	三、六七、一六四 <small>桶</small>	五、七二九、〇三二	
天然揮發油	一、二七、〇五五 <small>桶</small>	九七三、四三三	六〇、五五二 <small>桶</small>	五二七、一五九			
カーボンブラック	七三、一〇二 <small>噸</small>	二〇五、五二七	一、一八六、一五八 <small>噸</small>	三、四一〇、七七九	三、三三七 <small>噸</small>	一、〇七八、四二五	
プロパン瓦斯	一、六三三 <small>噸</small>	一、一三五	一、〇九七 <small>噸</small>	五、四八五	一、三八〇 <small>噸</small>	一、二、七七九	
瓦斯	二一〇、一三一 <small>百立方尺</small>	五八、一六九	二一四、九五 <small>百立方尺</small>	五六、八三一	六、六二一、七〇〇 <small>百立方尺</small>	一、六七、五〇一	
合計		一、五一〇、〇〇六		一、四〇二、九二九		一、五、三八九、三八五	

備考

(一) 今日迄ノ補助試掘中ノ成功割合

本島 二一本ニ付四本
内地 五三本ニ付一本

品名	昭和七年		昭和八年	
	数量	價額	数量	價額
輸出				
原油				
揮發油	六八一	八、四二七	六〇	一、〇一〇
燈油	五、九九七	五八、三三〇	七、三〇八	八〇、〇四三
輕油	九、二七一	八八、五九〇	六、七一九	六六、五七一
機械用油	八三〇	八、九〇三	六四三	八、八三九
其他鑛油	八一	三、八四三	一五	八六
計	一七、五九〇	一六八、〇九三	一四、七四五	一五六、五四九
移出				
原油	〇・四	二	一	二七

参考六
臺灣ニ於ケル石油輸移出数量及價額
輸移出

(三) 内地石油産額及輸入量

昭和七年	二、五七四、九六六 <small>担</small> (七五〇万円)	輸 入	二七、〇〇二、二三九 <small>担</small> (九八五八万円)
昭和八年	三、〇五七、六六二 <small>担</small> (八三五万円)	輸 入	二一、五一五、四九〇 <small>担</small> (八五七八万円)

品名	昭和七年	昭和八年
重油	二〇六、六七〇	一〇八五、九七七
揮發油	五六、五三四	八〇七、六八五
燈油	四九、五三五	五三四、四二四
輕油		
機械用油	一九三九	一三、〇三七
其他礦油	〇・四	
計	三二四、六八四	二、四四一、一二三
移入		
重油		
揮發油		
燈油		
輕油		
機械用油		
其他礦油		

品名	昭和七年	昭和八年
重油	六三九、八四〇	一〇八五、九七七
揮發油	一〇八六、一一八	八〇七、六八五
燈油	六六九、八九二	五三四、四二四
輕油		
機械用油	八〇、四二一	一三、〇三七
其他礦油	四	
計	二、四七六、二七五	二、四四一、一二三

輸移入

品名	昭和七年	昭和八年
重油	五六八、五三八	三、八一五
揮發油	二、一五七	六五三
燈油	四、五三七	四〇、一二三
輕油		
機械用油	六四六、六四一	七三、七六〇
其他礦油		
計	八、一四七、七四	二、三〇、三〇九
輸移出合計	九七、八三八・四	二、三〇、三〇九

参考七

石油業法施行ニ関スル豫算

款	項	目	算出内譯	金額	摘要
經常部					
總督府	俸給			三、三四九〇〇	
	事務費	判任俸給	屬下九八五月 九月	一、一八二〇〇	
		廳費		二、一六七〇〇	
		普通	一人年六月 九月	三九五〇〇	
		特別		四五〇〇〇	
		内國旅費		三五〇〇〇	
		普通	一人九月	一五七五〇	

輸移入合計	計	其他 鑛油
五四六、〇四二・四	二三一、三七四	二〇、〇九六
五、一四三、一二六	二、六六六、八五一	三四七、二八二
六七一、三五九	二一七、二四四	七、三六四
五、一三〇、六九四	二、六八九、五七一	一七六、九二九

財政經濟上勿論産業振興上ノ資料トシ
 テ愈々重要性ヲ加フルヲ以テ之ニ適切ナル
 改善ヲ加フルノ要アルニ鑑ミ之ヲ總督府財
 務局稅務課ニ移管シ又本事務ニ從事セ
 稅関屬四人ヲ總督府屬ニ組替ヘ益ニ本
 事務ノ充實改善ヲ期セントス之ニ伴ヒ
 稅関屬四人ヲ總督府屬ニ組替増員
 セントス

参考一

稅務局稅務課 關稅係統計事務分掌

統計主任 屬下
 一 統計事務ノ統轄ニ關スル事項
 二 貿易ノ狀況調査ニ關スル事項
 三 政務報告例ニ依ル臺灣貿易概況報告
 ニ關スル事項

屬一人
 一 貿易ノ狀況調査ニ關スル事項
 二 臺灣貿易概覽ノ調製ニ關スル事項

三 統計原簿等ノ記帳整理ニ關スル事項
 一 貿易概表、同月表、同年表調製ニ關スル
 事項

屬一人
 三 統計原簿等ノ記帳整理ニ關スル事項

属人
一内地貿易統計ニ関スル事項
二統計原簿等ノ記帳整理ニ関スル事項

参考二

賦務局稅務課属現在經常部定員事務分掌

直稅係

属六人

- 一地方廳直稅事務監督ニ関スル事項
- 二直稅法規ニ関スル事項
- 三所得稅課稅物件ノ經濟調査ニ関スル事項
- 四第三種所得標準率査定ニ関スル事項
- 五地押調査ニ関スル事項
- 六土地整理組合ニ関スル事項
- 七銀行券發行稅ニ関スル事項
- 八直稅豫算ニ関スル事項
- 九直稅統計ニ関スル事項

- 一 臺灣歲入直接國稅豫算決算ニ関スル事項
- 二 土地調査土地申告書類及査定書ノ保管ニ
関スル事項
- 三 會計検査院ニ提出スベキ直税ニ関スル書類ノ審
査及作成ニ関スル事項

間税係 属 三人

- 一 地方廳 間税事務ノ監督ニ関スル事項
- 二 間税法規ニ関スル事項
- 三 印紙税印押捺ニ関スル事項
- 四 間接國稅犯則者處分ニ関スル事項
- 五 臺灣歲入間接國稅豫算決算ニ関スル事項

- 六 間税物件ノ分析鑑定ニ関スル事項
- 七 標準糖ノ調製ニ関スル事項
- 八 會計検査院ニ提出スベキ間税ニ関スル書類ノ
審査及作成ニ関スル事項

関税係 属 四人

- 一 税関事務ノ監督ニ関スル事項
- 二 関税噸税及税関諸收入ニ関スル事項
- 三 會計検査院ニ提出スベキ関税噸税其他税
関諸收入ニ関スル書類ノ審査作成ニ関スル
事項
- 四 輸出入貨物ノ決税及交付金ニ関スル事項

- 五 保税倉庫及保税工場其他保税地域ノ設置
- 改廢ニ関スル事項
- 六 税関豫算ニ関スル事項
- 七 税関関係法規ニ関スル事項
- 八 稅務統計ニ関スル事項
- 九 犯則事件ニ関スル事項
- 十 保税倉庫、保税工場其他保税地域ノ取締ニ
關スル事項
- 一 船舶貨物ノ取締並ニ貨物ノ收容ニ關スル事項
- 二 運送通路ノ取締ニ關スル事項
- 三 貨物ノ検査鑑定ニ關スル事項
- 四 輸出入品ノ見本ニ關スル事項

五 関税率ノ調査ニ關スル事項
六 関稅制度ノ調査ニ關スル事項

經理係 屬四人

- 一 國稅徵收事務ノ監督ニ關スル事項
- 二 租稅外收入ニ關スル事項
- 三 徵收法規ニ關スル事項
- 四 租稅延納擔保ニ關スル事項
- 五 貸付金ノ管理ニ關スル事項
- 六 歲入事務監督ニ關スル事項
- 七 會計検査院ニ提出スベキ稅外諸收入ニ關ス
ル書類ノ審査及作成ニ關スル事項

科	目	豫算額	組増	替減	差引豫定額	摘	要
總督府	俸給	三二八、八二一	三三八三		三三〇、六四三		
	判任俸給	三八八、四五〇	六三〇四		三九四、七五四	最四人一人年九八五円 丁三員介 加俸十分六英	
	事務費	八〇、一五七	七五八		八〇九、〇九二		
	廳費	一三一、八五九	三七四〇		一三五、五九九		
	内國旅費	二二〇、〇三三	五四四		二二〇、五七七		
	雇員給	一〇四、一二〇	一七一〇		一〇五、八三〇	初任員三人入年五七〇円 十ヶ月分	
	雜費	九三、八九〇	一五二四		九五、四一四	最四人一人 三人一宿舍料	
税関		五二八、二六二			五一四、四四〇		
					一三、八二二		

参考三
貿易統計事務ノ為組替増減豫算

六 稅務關係豫算及決算ニ關スル事項
 九 地方稅務ノ人事及庶務ニ關スル事項
 可 課内庶務ニ關スル事項

第七 森林施業案實施ノ為技手一人増員
 森林計畫事業ハ治水國土保安ノ確保ト林産保
 續トシ其ノ使命トシ本島特殊ノ實情ニ鑑ミ熱帶
 特殊森林資源ノ増殖ヲ考慮シ主要國有林野百
 一萬餘甲ニ付最モ適切合理的ナル施業計畫ヲ定シ
 トスルモノトス 而シテ該計畫事業ニ依リ編成セラルベキ森林
 施業案事業區ハ二十九箇所ニシテ既ニ成案ヲ得タルモ
 ノ二十六箇事業區ニ及ビ此ノ内臺北州下宜蘭、羅東、
 新竹州下南庄、臺中州下南投、東勢、北港溪、高雄州
 下恒春及花蓮港廳下林田山ノ八事業區ニ對シテハ
 技手各一人ノ増員(宜蘭ノハ増員ナシ)ヲ得テ既ニ之ガ
 事業案實施中ニ屬シ殘餘ノ十八事業區ニ對シテモ
 逐次實行ノ豫定ナリトス

科	目	算	額	組	替	差引豫定額	摘	要
俸	給	二八五、三〇六		六三、四〇四	二七九、〇〇二			屬四人八年九月 十五月分(加修十芬芬)
判任俸給		二五六、四三〇		六三、四〇四	二五〇、一二六			
事務費		二三四、一八九		七、五八二	二二六、六〇七			
廳費		四二、一〇〇		三、七四〇	三八、三六〇			
内圖旅費		一七、五七六		五四四	一七、〇三二			
雇員給		二一、九九〇		一七一〇	二〇、二八〇			雇員一人八年九月 十五月分
雜費		四〇、一四三		一五二四	三六、六一九			屬四人 宿舎料

而シテ昭和十年度ヨリ取急ギ實施シ要スベキハ臺北
州下文山事業區及新竹州下竹東事業區ニシテ此ノ
内文山事業區一帯ハ島都ノ生命線ナル新店溪ノ
源頭ニ當リ臺北市ノ上水道、電力並ニ臺北平野ノ
灌溉ニ最モ重要ナル關係ヲ有スルミナラズ其ノ流域ニ
於ケル新店及臺北市ガ年々脅威ヲ感ジツアル氾濫防
備上ヨリ見ルモ森林造成ニ依ル治山治水ノ施設ハ極
テ緊要ナルトス 而シテ之ガ實行官廳ハ各事業區ニ
付部落接壤地ニシテ地元民ニ利害關係多キ部分ハ
大体所轄州又ハ廳トシ其ノ他ノ部分及營林所事業地ニ
近接スル部分ハ大体營林所トスルノ方針ニ依リ本文山
事業區ハ營林所現事業地ニ近接シ一括施業ヲ便宜トス
ニ付之ヲ營林所々管指定林野ニ編入シ營林所ヲシテ當ラ

シメ又竹東事業區ハ地方廳ヲシテ當ラシメントス

然ルニ施業案ノ實施ハ案ノ命ズル所ニ從ヒ及發動的
ニ事務ヲ處理セザルベカラザルガ故ニ之ガ實行官廳ノ事
務ハ急激ニ増加シ既定定員内ニ於テハ到底其ノ圓
滑ナル實行ヲ為シ得ザル事情アリ 即チ本事業區ハ
面積ニ六九四二甲ニ及ビ且運輸交通不便ナル地域内
ニシテ實地調査ノ如キ事務多ク尚相當經驗ヲ要ス
ル林業技術ニ屬スルモノナルヲ以テ技手一人ヲ増員シ營
林所臺北出張所ニ配置シ之ガ實行ニ從事セシメントスル
モノナリ 尚竹東事業區ニ對シテハ別途地方官官制中
ニ増員ヲ提案セリ

右技手ノ擔任事務ヲ表示スレバ次ノ如シ

(甲)實施準備事務

(イ) 豫ノ事業區ノ實地ヲ踏査シテ正確ナル地況及林況ヲ精査シ置クコト

(ロ) 豫ノ附近ノ木材市況、造林ニ要スル勞力關係等ヲ精査シ林產物處分及造林事業上ノ機宜ノ處置ヲ誤ラザルノ準備ヲ為スコト

(ニ) 實地施事務

(イ) 案ノ指示スル所ニ從ヒ施業區域ニ對スル林產物處分豫定案ヲ作成スルコト

(ロ) 右豫定案決定セバ實地ニ付材種及材積ノ調査ヲ為シ林產物賣渡ニ關スル一切ノ業務ヲ實行スルコト

(ハ) 案ノ指示スル所ニ從ヒ施業區域ニ對スル造林豫定案ヲ作成スルコト

(三) 右豫定案決定セバ造林事業(苗圃作業、造林ノ保護手入等ヲ含ム)一切ヲ實行スルコト

備考

施業案ハ各事業區毎ニ伐採及造林ヲ合理的ニ配置シ循環シテ永久ニ林産保續ヲ圖ル計畫ナルカ故ニ右實施事務モ亦永續的性質ヲ有スモノトス

参考一

森林計畫事業概要

森林計畫事業ハ治水ノ確保、國土ノ保安及林産ノ保續ヲ圖ル
 爲大正十四年度ヨリ總豫算二百七十四萬六千圓、十ヶ年計畫
 ヲ以テ百一萬六千甲ノ國有林野ニ對シ治水調査區分調査、三
 角測量、周圍測量及施業案編成調査ヲ施行スル營林事
 業ノ基本的調査計畫事業ナリトス

本事業ニ於テハ先ツ事業區ヲ二十九箇所ニ設定シ此ノ内成
 案ヲ得テ已ニ事業ニ着手セルモノハ事業區昭和十年年度ヨリ着手
 セントスルモノニ事業區成案ヲ得未ダ實行ノ運ニ至ラザルモノ十六事
 業區ヲ算シ、殘部ノ事業區ニ就テモ着々調査計畫ノ歩ヲ進メ
 ツアリ

今其ノ調査大要ヲ述ブルハ次ノ如シ

(1) 治水調査

治水調査ハ森林治水及國土保安ノ見地ヨリ河川流域毎ニ保安^林編入スベキ地域及伐採農耕等ノ禁止制限ヲ要スベキ地域ヲ調査シ森林ノ取扱及經營法ヲ定ムルモニシテ森林計畫事業中本調査ニ本質上森林計畫地域又ハ國有林野ニ限ラス本島林野ノ全體ニ就キ實施スルモノナリ昭和九年^度末現在調査ヲ了セル地域ハ二百八十八萬三千餘甲ナリ

(2) 區分調査

區分調査ハ事業豫定地域百萬六千甲ノ林野整理事業ニ依ル區分濟地域二十萬八千甲ヲ除キ他ノ八十萬八千甲ニ對シ事業規定ノ定ムル所ニ從ヒ要存置^準要存置及不要存置^準要存置スルモノナリ而シテ要存置林野ハ營林ノ用ニ供スベキ林野ニシテ準要存置林野ハ主トシテ蓄人ノ爲ノ所要地ナリ昭和九年度

末現在調査ヲ了セル面積百五十七萬三千餘甲ニシテ此ノ内要存置林野百七萬七千餘甲、不要存置林野十五萬四千餘甲、準要存置林野三十四萬餘甲ナリ斯ク調査面積、當初豫定面積ヲ超過セル蓄人移住等ノ關係上隣接地域ニ亘リ區分スルノ已ムナキ事情生シタルニ依ルモノトス

(3) 測量

測量ハ三角測量及周圍測量ノ二ニ分チ三角測量ニ於テハ要存置林野ニシキ其ノ測量ノ基礎タル三角點ノ位置ヲ測定シ周圍測量ニ於テハ要存置林野ノ境界ヲ測定シ其ノ面積ヲ算定スルモノナリ昭和九年^度末現在調査ヲ了セルハ三角測量ハ二十八事業區周圍測量ハ二十七事業區トス

(4) 事業編成調査

本調査ハ區分調査ニ依リ決定シタル要存置林野ニ就キ法正ナル森

林状態ニ導キ林木ノ生産ヲ永久ニ保續シ同時ニ國土保安ト公
益ノ保持増進スル目的ヲ以テ森林施業案ヲ編成スルモノトス蓋シ本
島國有林野ハ現ニ七億四千萬石ノ大蓄積ヲ有スト雖奧地方除
ク外ハ多年優良木ノ擇伐ヲ繰返セル結果現在在林ノ價值低ク年
々二百萬圓ノ輸入超過ヲ見ツアル現狀ニテリ一面本島ハ熱帶
林木並樟腦製造原料造成上特殊使命ヲ有ス依テ本調査ニ
於テハ將來木材ノ自産自給船艦材ノ輸入防遏製腦原料ノ
保續等ヲ第一目標トシテすぎひのき、まつ、かうえふ、ごん、ちり、く、
オ、等有用林木ノ大蓄積計畫ヲ樹テ薪炭材ハ民林ヨリ供給セシ
ムル方針ナリ

此ノ如キ考慮ノ下ニ第一次計畫地域百一萬六千甲ノ豫定面積中
オ、等ノ為ノ主要存置見込及不要存置見込林野ヲ差引キ
ル八十四萬六千甲ニ對シ施業案ヲ編成スルモノニシテ其ノ内營林用

地五十一萬二千甲保安林十五萬甲未利用林十六萬三千甲除
地其ノ他二萬一千甲トナル豫定ナリ

以上ハ現在ニ於ケル調査計畫ノ大要ナルモ更ニ今後計畫ヲ進ムヘキ
蕃界奧地ノ未調査區域約八十七萬五千餘甲ヲ存セリ之等
地域ハひのき、べにひ等有用樹種ノ蓄積ニ富ミ林産ノ保續計畫上
重要ナル地域ヲ擁スト共ニ一面本島重要河川ノ上流域ヲ占ム水
ク蕃族ノ濫伐濫墾ニ委セラレタル為メ治水上等閑附スルハ付サル地
域アルヲ以テ現在ノ計畫ニ引續キ第二次計畫トシテ調査ノ實行シ
本島林野ノ全般ニ亘ル統制アルモ森林經營ノ大策ヲ確立セザ
ルベカラズ

尚森林計畫事業豫定面積及施業案編成地域面積並職
員配置(×印昭和十年度新增置)左ノ如シ

臺南州	新竹州				臺北州	宜蘭	羅東	太平山	南澳	大溪	竹東	南庄	大湖	東勢	計
臺南州	宜蘭	羅東	太平山	南澳	大溪	竹東	南庄	大湖	東勢	計	計	計	計	計	計
一四八〇	一七八〇	二三〇五	四四九〇	四九五五	一六三五〇	三八一五〇	三五五五〇	一一九五〇	三一七五〇	一七四〇〇	一四八〇〇	一四八〇〇	一四八〇〇	一四八〇〇	一四八〇〇
八四五三	二〇八四一	九一〇七九	四〇〇九八	一四〇〇九八	一六五二一五	一六三三四	三三五五三	九四六五	二八四七六	一八七八八	八四五三	八四五三	八四五三	八四五三	八四五三
七二四七	一七五一	四三四八一	六六五九四	四〇四四四	二二七五二	二二七五二	二二七五二	八六一四	二〇三六四	七六四五二	七二四七	七二四七	七二四七	七二四七	七二四七
一三六〇	一七二八六	二〇三五八	六五八五五	五六五三四	一八六九七五	三二一七六	二二八一〇	一一〇三四	一八八三六	八三八五六	一三六〇	一三六〇	一三六〇	一三六〇	一三六〇
						x									

宜蘭	臺北州	宜蘭	羅東	太平山	南澳	大溪	竹東	南庄	大湖	東勢	計
宜蘭	臺北州	宜蘭	羅東	太平山	南澳	大溪	竹東	南庄	大湖	東勢	計
一七八〇	二三八〇〇	二三〇五	四四九〇	四九五五	一六三五〇	三八一五〇	三五五五〇	一一九五〇	三一七五〇	一七四〇〇	一四八〇〇
二〇八四一	一三一九七	九一〇七九	四〇〇九八	一四〇〇九八	一六五二一五	一六三三四	三三五五三	九四六五	二八四七六	一八七八八	八四五三
一七五一	一三一八五	四三四八一	六六五九四	四〇四四四	二二七五二	二二七五二	二二七五二	八六一四	二〇三六四	七六四五二	七二四七
一七二八六	二六九四二	二〇三五八	六五八五五	五六五三四	一八六九七五	三二一七六	二二八一〇	一一〇三四	一八八三六	八三八五六	一三六〇

高雄州		臺東廳		花蓮廳		計	
旗山	恒春	屏東	潮州	枋山	臺東	天武	計
三五九五〇	二七八五〇	五九一〇〇	四〇四〇〇	四七四〇〇	二一〇七〇〇	七三二五〇	二一〇七〇〇
一七九八八	一四五三六	九四九二五	七〇二四三	一九七六九	三二五四七	八三六一二	三〇九〇八
一三五六〇	九八七〇	三六五五六	三二七一九	九二七〇五	九六四七五	五六八五一	四九三二六
二八九九三	二〇七一一	四九七〇四	三三七三八	二三八一六	三三三三八	五七五五四	四六九五九
							四八三六一
							九八三六一
							八三三三〇
							八三三三〇
							八三三三〇

臺南州		臺南州		臺南州		計	
八里山	北港溪	埔里	南投	集集	竹山	大埔	計
三七六〇〇	二一七五〇	二三五〇〇	七七〇〇	一五三五〇	三七一五〇	一六六四〇	二四四五〇
一〇七一〇	二〇八五三	六五二二	四三八六	三七一一五	一八四四三	四六三八六	四六三八六
一〇五七四	一八二九三	三〇七三	二七四四	二九七二六	一六六二五七	四一一二八	四一一二八
八五〇八一	一八三五七	二〇〇五〇	七六七九	一三五四六	一九六五八六	三一九二一	三三六八二
							一〇〇七八
							一八七八三
							八四三八六

洲廳別
事業區名
豫定面積
調查面積
現有面積
地業面積
面積
技手配置

中央ニ配置シ施業案實施ノ監督及統制ニ當ルハ
 者(昭和十一年度配置ノ豫定)

備考 △印ハ既ニ事業ニ着手シ職員増置ヲ行ヒタルモノヲ示ス

計	新港	五里	大巴壟	林田山	花蓮縣 木瓜山	臺東 臺東	臺東 里壠
八四六〇〇	三〇四五三	三一五一八	三二四一五	四五八九四	四九九九九	二三八一六	三三七三八
三	△二七六	一	一	△一	二	一	一
△二七九	一	一	一	△一	二	一	一
				(昭和四年度)			

豫定事業區トシテ昭和四
 年度ヨリ職員増置案實施
 中ニテ昭和十一年度ヨリ本
 案ニ細替案實施ノ旨

州廳別 區名	事業區面積	技術 技手	職員 計	事業 年度	事業 年度	摘要
臺南州 八仙山	八五〇八一	一	三	昭和六年度	昭和十年度	
北港溪	一八三五七	△一	△一			
埔里	二〇〇五〇	一	一			
南投	七六七九	△一	△一	四年度		
集々	一三五四六	一	一			
鬱大	二八一九五	一	一			
竹山	一〇〇七八	一	一			
臺南州 阿里山	三一九二一	一	三			
大埔	三三六八二	一	一			
五井	一八七八三	一	一			
高雄州 旗山	二八九九三	一	一	九年度		
恒春	二〇七七一	△一	△一			

分掌別	増置ヲ要スベキ職員		備考
	事務員	技師	
造林ニ關スル事務	一	一	
利用ニ關スル事務	一	一	
管理ニ關スル事務	一	一	
計	三	三	

参考三

森林施業案文山事業區實施計劃

一 總 說

本事業區ハ其ノ林相別面積既成造林地一〇一〇ヘクタール、立木地二三七〇三ヘクタール、未立木地（所謂草生地ナリ）一七五五ヘクタール及除地（溪流其他）四七四四ヘクタール計二六、九四二、四ヘクタールニシテ臺北市上水道ノ源泉地ナルト共ニ水力發電及臺北平野灌漑用水ノ供給等重大ナル使命ヲ帶ヒタル國有林野ヲ一括シタルモノナルヲ以テ森林斫伐ヨリモ造林及林産保護ニ依リ森林間接ノ効用ヲ全カラシメントス故ニ既成造林地及立木地ニ對シテハ保護手入ヲ繼續スルト共ニ未立木地一七五五ヘクタール

ノ内一、六七五ヘクタールニ對シテハ造林計劃ヲ樹テ
第一施業期及第二施業期ニ區分シ差當リ昭和十年ヨ
リ十ヶ年間ヲ第一施業期トシ一、六七五ヘクタールノ
半面積ハ三八ヘクタールニ對シ左記計劃ニヨリ新植
造林ヲ完成セントス

二、第一施業期造林計劃

第一施業期造林計劃ハスギ、カウエフザン三三、マツ
六七ノ混淆歩合ヲ以テ單純林又ハ混淆林仕立ト爲シ
其ノ本數ハ一ヘクタール當三千本ノ割合ニ依リ新植
ス

(イ) 補植ハ新植ノ翌年度ヨリ九箇年間行ヒ當初補植ノ
マツ、スギ、カウエフザン、ハ各其ノ新植本數ノ二〇パー
セントレヲ豫定セリ

(ロ) 手入ハマツ、スギ、カウエフザン、ニ在リテハ新植ノ翌
年度ヨリニ年間ハ年三回、次一年間ハ年二回、爾
後三年間ハ年一回都合六年間ニ十一回施行ス

(ハ) 林道ハ新植林一ヘクタールニ付幅員一米、延長十六
米宛新設シ作業用假小屋ハ監督員及造林人夫用ト
シテ新植面積五〇ヘクタールニ對シ各一棟ヲ新設ス

三、職員及詰所

本事業區施業案實施ノ爲ニハ技手一名、雇二名(事務
雇員一名及技術雇員一名)及傭員一名ノ外巡視員
二名ヲ配置シ文山郡坪林庄四堵及乾溝ノ二箇所ニ擔
當員詰所ヲ設置ス

参考四

文山富業區施業案每頁施ニ要スル十年年度豫算

林務費	一六八三。
俸給	一八二。
判任俸給	一八二。
本俸	七三八七五
技手	七三八七五
加俸	四四三二五
事業費	一五六五一。
事務用諸費	一三一六五。
造林費	一四〇九二。
産物處分費	二四二五。

一人年九八五圓
九ヶ月分
十分六

第八 航空氣象觀測ノ爲測候所技師一人及

同技手三人増員

航空事業ハ國防上及交通經濟上重要ナル國家事業ニシテ最近各國ハ競テ之ヲ充實發展ニ努メツツスルニ於テモ最近ノ狀態特ニ其ノ地理的關係ニ鑑ミ我國ニ於ケル航空路ノ延長及飛行場増設其ノ他航空事業助成監督ノ方針ニ準據シ昭和二年六月航空法ヲ施行シ航空事務ヲ交通部ヲシテ所管セシメ研究調査シ來リタル處將來内臺間及本島内ハ勿論南支南洋ニ至ル航空路ヲ開拓スルト共ニ飛行場ノ開設擴張ヲ企圖シ又民間飛行ヲ助成シ以テ我國ニ於ケル南

支南洋の門戸タルベキ本島ノ使命ヲ達成セ
シメザルベカラズ

而シテ之カ第一着手トシテ台北飛行場開
設ノ必要ヲ認メ昭和七年度以降三ヶ年間三
十七萬圓ヲ以テ台北州七星郡松山庄ニ面積
約十二萬坪ノ敷地ヲ選定買收シ整地工事
ニ着手セルガ昭和十年度ニ於テハ更ニ面積約
二萬坪ヲ擴張整地シ又台北直通道路事務
所航空標識等ノ設備ヲ爲シ以テ將來
國際飛行場トシテノ機能ヲ發揮セシメント
ス
更ニ航空路ニ付テハ先年末逓信省及當府ニ
於テ先以内臺間ノ調査ヲ爲シ昭和六年十

月日本航空輸送株式會社ニ命シテ試驗飛
行ヲ行ヒ良好ナル成績ヲ收メ又昭和九年七
月臺北福岡間一六〇料ニ一往復ノ準備飛
行ヲ行ヒタル結果同航空路ニ依ル航空輸送
ノ確實性ヲ實證スルヲ得タルヲ以テ昭和
十年度ヨリ逓信省ト協力シ日本航空輸
送株式會社ニ對シハヶ年ニ亘リ四百六十七萬
圓ノ補助金ヲ支給シ週三往復ノ定期航空
輸送ヲ開設シ昭和十一年一月ヨリ開始セシム
ル豫定ナリ又島内定期航空ニ付テモ國防義
會航空部ヲシテ漸次實施セシムル計畫ナリ
然ルニ航空事業ノ發達ヲ期スルガ爲ニハ航空
氣象觀測ヲ充實シ航空上常ニ適正ナル指針

ヲ與ハルコトヲ以テ先決要件ナリトス近時内地
朝鮮ニアリテハ既ニ航空路ノ開設ト同時ニ羽
田、箱根、三島、龜山、大阪、福岡、蔚山、平壤等
ニ航空氣象觀測所ヲ新設シテ天候ニ依ル
航空上ノ災害防止ニ努ム内地臺灣間ニ於
テモ前述ノ如ク近ク定期航空ヲ開始セラルル
豫定ノ處此ノ區間ハ海上飛行ニ長時間ヲ
要スルノミナラス内地等ニ比シ氣象ノ變化
急激ニシテ航空上頗ル危険多キコトハ既
往數次ノ經驗ニ徴シ一般周知ノ事實ナリ
從テ航空氣象觀測設備ヲ充實シ必要
ノ箇所ニ航空氣象觀測所ヲ設置シ氣象
ニ基因スル災害ヲ未然ニ防止シ斯道ノ發達ヲ

期ヤザルベカラズ

而シテ内臺航空路ハ本島ノ北端基隆が要塞
地帯ナル爲宜蘭經由ニ依ルカ又ハ臺北西部山
脈ガ密雲ニ蔽ハレタル場合北部海岸ニ沿ヒ淡
水上空經由ニ依ルカノ二途アルノミナル處飛
行機ノ離著陸ニ際シテハ山岳ノ視程ニ付テ
最モ危険ヲ伴フモノナルヲ以テ常ニ臺北基隆宜
蘭、淡水方面ノ視程ヲ豫測スルノ外離著陸
時及飛行中必要ナル天氣、雲量、雲高、雲速等
ヲ豫測觀測シ又島内各地及内地石垣島、那霸、
名瀨、鹿兒島、福岡等ノ觀測所ニ於ケル氣象ヲ取
纏メ通報スルノ必要アリ依テ右視程豫測ニ付
テ最モ必要ト認ムル地莫即臺北州下宜蘭及

彭佳嶼ニ測候所ヲ新設シ又臺北州下松山所
 在臺北飛行場ニ臺北觀測所出張所ヲ併置シ
 併セテ一般氣象ノ觀測ニ當ラシムルノ外臺北觀
 測所ヲ充實セントス

右ニ伴ヒ測候所技師一人及同技手三人ヲ増員
 シ技師ハ臺北觀測所ニ技手ハ其ノ他ノ右ニテ所
 ニ各一人ヲ設置セントス而シテ臺北觀測所ニ技
 師一人ヲ増置スルハ現在技師一人ハ所長トシテ一
 般氣象觀測ヲ總括シツツアル處新ニ時々刻々
 而モ毎日長時間ニ亘リ航空氣象ヲ豫測觀
 測シ且各地ノ氣象ヲ綜合判定シ其ノ結果ヲ
 速報スルノ必要アリテ現在ノ所長タル技師一人
 ノミヲ以テシテハ到底其ノ完全ナル處理ヲ期

待ニ難キヲ以テナリ

參考一

測候所職員配置表 (昭和十年三月末日現在)

所	觀測名	技師	屬	技手	囑託雇員
臺北	測候所	一		四	六
臺中	測候所			一	二
臺南	測候所			二	一
澎湖	測候所			二	一
恒春	測候所			一	二
臺東	測候所			二	一
花蓮港	測候所			二	一
高雄海洋	觀測所			二	一
阿里山高山	觀測所	一		三	一
計		二	一	一九	一六

測候所費

	測候所費	一七、三六六	
	聽費	一〇、九〇二	
	普通之費	一、二〇〇	一人年六月分
	特別之費	三、四七〇	
	初度調査費	八、三一二	
	島内出張	四九五	一人年三月分 一人年三月分 一人年三月分
	雇員給	三、〇四〇	四人 一人年七月分
	傭人料	一、〇八〇	三人 一人年三月分
	小使	一、〇八〇	三人 一人年三月分
	被服費	三〇〇	三人 一人年一月分
	雜費	一、五四四	
	雜船及雜費	五、六九九	
	内國旅費	四九五	
	渡切費	二七〇	

備考

右、外昭和十年年度新營費豫算

宜蘭測候所 一五、六四〇 月

彭佳嶼測候所 一、一六五〇

臺北觀測所松山支所 三、〇〇〇

計 三〇、二九〇

	宿直料	二五九	
	借家料	一、二九〇	